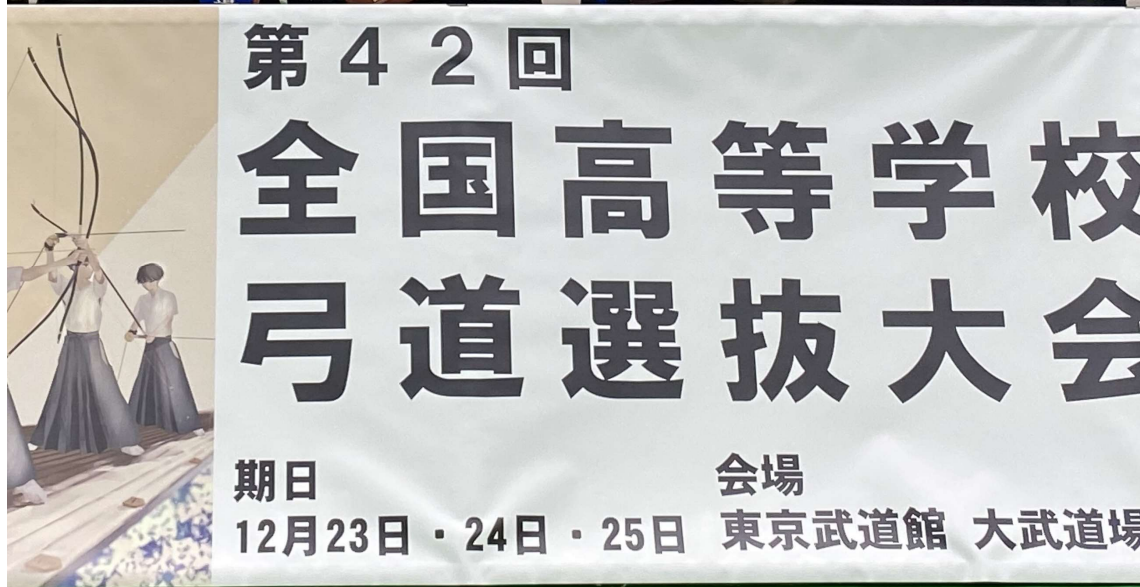


弓道部活動のしおり

No. 43



岐阜県弓道連盟
岐阜県高等学校体育連盟弓道専門部

高体連活動は、学校教育活動の一環としての体育・スポーツ活動である。高体連マークが象徴する力と技と明朗な精神の育成をめざし、次のスローガンをかかげて積極的に活動を展開する。

◎勝つことの厳しさに挑戦しよう！

勝利の栄冠を勝ちとるため、己に克つ気力を もってきびしい練習や競技に挑む。

◎フェアプレイの精神を培い、友情の輪を広げよう！

ルールを守り、全力をふりしぼって競技するとともに、マナーを大切にして信頼と友好を深める。

◎健康・安全に努めよう！

常に、心身ともに良好な状態を保持するとともに、練習や競技における安全の確保に努める。

高体連のマーク

競技は力であり、進歩は技の錬磨にまつ。

しかし競技者はこれをつつむに明朗な精神をもってせねばならない。

高体連のマークを構成している3つのKはこれを意味している。

K R A F T	力
K U N S T	技
KLARHEIT	明朗な精神

がそれであり、しかもその色彩（赤）は若人の熱情を示すものである。

～（表紙写真：令和5年度全国高等学校弓道選抜大会）

（女子団体優勝 岐阜各務野高校）～

礼記 一射義一

(唱和するときは、句読点で息継ぎを行う)

「礼記」は、中国の思想家孔子(BC551?~BC479、儒学の祖)の考え方をまとめたもので、BC2世紀頃に原形ができた。「礼記射義」の前半部は、「礼記」のなかの「射義編」の最初に述べられていることがらの一部分であり、後半部は「射義編」の最後に述べられていることがらの一部分である。

射は進退周還必ず礼に中り、

射を行うにあたっては、進む・退く・まわる・立つ・坐るなど体の動かし方(体配)は、必ず礼(礼とは、このような場合はこうあるべきだと社会的に意識されているルールを意味し、心のあり方を表現することでもある。孔子の思想の中心をなす言葉の一つ)に従って行うべきである。

内志正しく、外体直くして

心のあり方を素直(うまく見せようとか、的に当てたいとか、相手に勝とうとか、失敗したらどうしようとか考えずに、日頃の練習と同じ気持)にして、体に無理な力を入れることなく、自然のままに背筋をまっすぐに伸ばす。

然る後に弓矢を持つこと審固なり。

このような心と体のあり方で弓矢を持ち射場に入れば、しっかりしたきちんとした状態で弓矢を取り扱うことができる。

弓矢を持つこと審固にして、然る後に以て中ると言うべし。

心も体もしっかりしたきちんとした状態で弓矢を取り扱うことによって、矢は的に当たると考えるべきである。

これ以って徳行を觀るべし。

したがって、体配や射の様子からその人の徳(徳とは、人格のあり方や人格完成に向かっている修養のあり方を意味する。孔子の思想の中心をなす言葉の一つ)を推しはかることが出来るであろう。

射は仁の道なり。

射を行うことは、仁(仁とは、相手に対するやさしい思いやりと真心のことで、個人として社会人として人間として完成された理想の心のあり方を意味する。孔子の思想の中心をなす言葉の一つ)に近づくための修養の過程である。

射は正しきを己に求む。

射を行うにあたっては、心の正しさ(「仁」に近づくこと。素直な心、まわりの人々に対する感謝の心、相手と争って勝とうとする心をなくすこと、邪心を捨てること、欲望にとらわれないことなど)が自分に求められる。

己正しくして而して後発す。

心のあり方が正しくあるように努力をしたうえで、正しい射法で的に向かって矢を発射する。

発して中らざるときは、則ち己に勝つ者を怨みず。

もし的中を得られなかった場合は、(本来は射は勝敗を争うものではないが)自分に勝った相手をねたましく思うことは心の正しさからはずれることである。

反ってこれを己に求むのみ。

むしろ中らなかつた原因は、自分の心のあり方が相手の心のあり方よりも不十分であつたと考え、自分の射技や精神力の未熟さを反省し、さらに「仁」とは何かを深く考え、実践するような努力をするべきである。

よ し みじゅんせい
吉見順正

しゃほうくん
射法訓

(唱和するとき、句読点で息継ぎを行う)

吉見順正は、17世紀後半(江戸時代初期)の紀州(和歌山)藩の武士で弓の名手といわれ、藩の弓術指南役つとめ多くの門人を育てた。彼は射法についての教えを書き残しており、「射法訓」はその一部分である。「礼記射義」が射の主射の精神性について述べているのに対して、「射法訓」は主に技術について述べている面が強い。

射法は、弓を射ずして骨を射ること最も肝要なり。

射法の根本は、単に弓で矢を発射することではない。矢が鋭く飛び、的に当たり、かつ強い貫通力を得るには、人間の体の中心を形成している骨格のバランスを正しくすることが最も重要である。

心^{こころ}を総体の中^{そうたい}の中央^{ちゅうおう}に置き、

的を見ると心は的にとらわれがちであるが、バランスの中心が体の中央に来るように常に自分の体の丹田(臍の下腹部にあたる)を意識して、心を安定させる。

而して弓手三分の二弦を押し、妻手三分の一弓を引き、

引き分けのさいの押し引きの心得は、左右が均等になるようにすることである。具体的には、弓手(左手のこと)のほうに全体の三分の二ほどの意識と力を持って行き、妻手(右手のこと、勝手とも言う)には三分の一ほどの意識と力を使う。なぜならば、一般的には右手のほうに力が強いので、このようにすることで左右のバランスが均等になるのである。

また、弓手は弓の両端にかけてある弦の両端を的に向かって押すような気持で、妻手は弓の両端を弦によって的と反対の方向に引くような気持で引き分ける。このことは、弓手は妻手にある弦の状態を意識しながら押し、妻手は弓手にある弓の状態を意識しながら引くことを意味し、このように引き分けることによって左右のバランスが均等になる。

而して心を納む是れ和合なり。

押し引きのバランスがちょうど釣り合い、心を丹田に納めることによって体と心と弓の調和がはかられ、身心弓の三者が一体となる。これが「会」の状態である。

然る後胸の中筋に従い、宜しく左右に分かる如くこれを離つべし。

「会」の状態から心を充塞させ、縦横の十文字(三重十文字、すなわち両肩を結ぶ線と両腰を結ぶ線と両足の爪先を結ぶ線が平行で体の中心線とそれぞれ十文字をなすこと)が崩れないように左右均等のバランスを保ちながら、体の中心線から左半身は的の方向へ、右半身は的と反対の方向へ伸びあいつつ「離れ」が生まれるのが良い。

書に曰く、鉄石相剋して火の出ずる事急なり。

的に対する中りはずれは別として、古い書物には「よく修練された射の離れの偉力と気力は、ちょうど鉄と石とがぶつかりあって火花が出るように鋭いものがある」とたとえている。

即ち金体白色、西半月の位なり。

また、同じ書物には「このような射の残身(残心)は、ちょうど明け方の東の空に金星が白く輝き、西の空に半月が照っているような、すがすがしく美しいバランスとなる」と述べている。

このような「残身(残心)」の位は最高であって、宇宙のバランスと人間の心と体のバランスが一体となった悟りの姿を表しているのである。

参考 全日本弓道連盟「弓道教本」第一巻

全日本弓道連盟「弓道」1995年9月号「礼記射義について」同年12月号「射法訓について」松井巖氏

目 次

礼記射義・射法訓

令和5年度事業報告一覧表	2
令和6年度事業計画一覧表	3
大会記録	4
1. 勝利に向かって	20
2. 弓道部の日々	26
3. 学校弓道の目標	29
4. 弓道の特徴	30
5. 弓道の歴史	32
6. 基本の姿勢と動作の様式	34
7. 射の基本	37
8. 矢を射るときの動作の仕方	40
9. 自己診断のポイント	57
10. 競技の種類	59
11. 競技の形式	60
12. 岐阜県高等学校弓道競技規則	62
13. 弓道における一般的注意事項	67
14. 審査、行射の心構えと要領	71
15. 地方審査学科問題	76
16. 学科試験への取り組み	78
18. 地方審査実施要項	88
19. 全日本弓道連盟ID登録について	89
20. 高体連弓道専門部 Web ページ	90

付表

岐阜県栄光の記録	91
弓道部加盟校一覧表	117
岐阜県下の主な弓道場	118

- 参考文献 「弓道教本：第1巻射法篇」（全日本弓道連盟編）
「現代弓道小辞典」（春原平八郎著 全日本弓道連盟発行）
「DVDで学ぶ基本の弓道」（石山佳彦著 スキージャーナルKK発行）

月	日	曜	大会・事業	男子団体	女子団体	男子個人	女子個人
4	21	金	高校弓道部顧問会議	会場、大垣北高校：事業計画、予算などの検討・承認			
	30	日	ぎふスポーツフェア 高校弓道大会 (団体のみ)	総的中制(100射) 1:豊橋商業 2:中京 3:大垣商業		1:大垣商業 2:豊橋商業 3:京都外大西	
5			第71回県高校総合体育大会 兼全国・東海総体県予選	1:中京 2:大垣商業 3:岐阜総合学園	1:大垣商業 2:中京 3:岐阜各務野	1:大西(中京) 2:森光(各務原) 3:増元(大垣商業)	1:湯朝(大垣商業) 2:長尾(岐阜各務野) 3:多田(岐阜各務野)
	21	日	個人	4:大垣北 5:多治見工業 6:関商工	4:多治見西 5:大垣北 6:益田清風	4:山田(中京) 5:河合(岐阜総合)	4:渡邊(多治見西) 5:加納(中京)
	27	土	団体決勝	10チーム	18チーム	90人	89人
			県大会出場チーム(人数)				
6	10	土	国体選手(少年)選考会(一次)				
	17	土	第71回東海高校総合体育大会	岐阜総合 3位 中京 ベスト8	大垣商業 3位 多治見西 ベスト8		
	~18	日					
7	16	日	国体選手(少年)選考会(最終)	男子:辻(岐阜総合)、大西(中京)、山田(中京) 女子:吉田(大垣商業)、小椋(大垣商業)、三摩(大垣商業)			
8	3	木	全国高等学校総合体育大会	中京 ベスト4	大垣商業 ベスト8 技能優秀賞	大西(中京) 決勝進出 森光(各務原) 予選敗退	湯浅(大垣商業) 予選敗退 長尾(岐阜各務野) 予選敗退
	~6	日	第67回全国高校弓道大会				
	19	土	第44回東海ブロック大会	岐阜県選抜 総合3位(近3・遠3)	岐阜県選抜 総合2位(近2・遠2)		
	~20	日	各地区強化練習会	各地区ごとに実施			
9	16	土	グローアッププラン (選手強化試合)	総的中制(48射) 1:中京 2:岐阜総合学園 3:関商工		1:岐阜各務野 2:中京 3:大垣商業	
	17	日	学校対抗男女混合大会	トーナメント制(予選40射) 1:岐阜総合学園 2:中京 3:済美 3:大垣商業			
10	13	金	第78回国民体育大会		近的 予選敗退 遠的 予選敗退		
	~16	月					
10	20	金	高体連・県弓連日程調整会議	会場、大垣北高校			
11			第42回全国高校弓道選抜大会	1:中京 2:岐阜総合学園 3:大垣商業	1:岐阜各務野 2:岐阜総合学園 3:大垣養老	1:大西(中京) 2:栗田(中京) 3:河合(岐阜総合)	1:山本(中京) 2:東條(多治見北) 3:多田(岐阜各務野)
	4	土	個人決勝	4:加茂 5:東濃実業 6:中津商業	4:多治見西 5:恵那農業 6:益田清風	4:金田(中京) 5:馬場(岐阜総合) 6:國場(中京)	4:水野(多治見西) 5:小出(中京) 6:田口(中津商業)
	11	土	団体決勝	7チーム	20チーム	62人	58人
			県大会出場チーム(人数)				
	25	土	第42回東海高校弓道選抜大会	大垣商業 優勝 岐阜総合 2位 中京 ベスト8	岐阜各務野 優勝 岐阜総合 3位	大西(中京) 2位 河合(岐阜総合) 4位	多田(岐阜各務野) 4位
	~26	日					
12	23	土	第42回全国高校弓道選抜大会	中京 ベスト32	岐阜各務野 優勝 技能優秀賞	大西(中京) 3位 栗田(中京) 6位	
	~25	月					
2			県新人大会	1:中京 2:中津商業 3:大垣北	1:岐阜各務野 2:大垣商業 3:大垣北	1:大西(中京) 2:柴田(中京) 3:高橋(大垣商業)	1:多田(岐阜各務野) 2:塚本(中京) 3:林(中津商業)
	10	土	団体戦	3:岐阜総合学園 5:関商工 5:大垣商業 5:多治見 5:可児	3:中京 3:岐阜総合学園 5:関商工 5:中津商業 5:斐太	4:中芝(中京) 5:浅野(岐阜総合) 6:馬場(岐阜総合)	4:森川(大垣商業) 5:宮澤(岐阜各務野) 6:福田(関商工)
	~11	日	個人戦	9チーム	11チーム	85人	66人
			県大会出場チーム(人数)				
	16	金	高体連弓道専門部代表者会議	会場、大垣北高校			
			中日本高等学校弓道大会	5人制 中京 優勝	大垣商業 2位 中京 3位		
				3人制 中京 優勝			

月	日	曜	大会・事業	
4	19	金	高校弓道部顧問会議	会場：大垣北高校
	20 21	日	ぎふスポーツフェア 高校弓道大会	選抜大会上位6校、前記を除く新人戦上位8校、補助員役員要請校 県外招聘校 1チーム5名
5			第72回県高校総合体育大会 兼全国・東海総体県予選	地区予選 通過基準 団体：40射 男子17中 女子14中 個人：8射 男女とも 4中以上 団体1位：全国総体出場 1～4位：東海総体出場
	18	日	個人決勝	男女とも1,2回戦計8射5中以上通過、12射総的中制 個人1～2位：全国総体出場
	19	月	予備日	1～5位：東海総体出場
	25	土	団体決勝	1チーム5名補欠2名、1～3回戦計60射で6校選出
	26	月	予備日	6校が4・5回戦、計100射総中制で順位決定
6	8	土	国体選手(少年)選考会(一次)	近的：16射 前年度新人戦トナリ出場校の団体登録選手または個人3回戦進出選手 県高校総体上位6校の団体登録選手または個人3回戦進出選手 地区委員長推薦選手
	22	土	第71回東海高校総合体育大会	団体 予選：40射的中制 決勝：8チームのトーナメント
	23	日	[岐阜：長良川弓道場]	個人 8射の総的中制
	28	土	国体強化練習①	1次選考会で選出された選手は強制参加
	29	日	国体練習会	任意参加
7	6	土	国体強化練習②	1次選考会で選出された選手は強制参加
	7	日	国体練習会	任意参加
	13	日	国体選手(少年)選考会(最終)	近的：16射 選手3名を選考 遠的：12射
	20	土	国体強化練習③	
	21	日	国体強化練習④	
8	3 ～6	木 日	全国高等学校総合体育大会 [長崎：島原市]	団体 予選：20射的中制 決勝：32チームのトーナメント 個人 予選：4射3中以上が通過 準決勝：4射3中以上が通過 決勝：射詰
	17 ～18	土 日	国体第43回東海ブロック大会 [愛知：日本ガイシ]	1チーム3名 総合順位得点制(遠的：得点制 近的：的中制) 1～2位県は本大会出場
			各地区強化練習会	各地区ごとに実施
	9	月	グローアップ	1チーム3名 県下全高校に出場権あり 各校全2チーム
10	5 ～7	土 月	第78回国民体育大会 [佐賀：多久市]	近的 予選：24射的中制 決勝：8チームのトーナメント 遠的 予選：24射得点制 決勝：8チームのトーナメント
	18	金	高体連弓道専門部代表者会議	
11			第43回全国高校弓道選抜大会 県予選	地区予選 通過基準 団体：36射 男子17中 女子14中 個人：12射 男女とも 6中以上 団体1位：全国選抜出場 1～4位：東海選抜出場
	4	月	団体決勝	1チーム3名補欠1名、1～3回戦計36射で6校選出 個人1～2位：全国選抜出場 6校が4・5回戦、計60射総的中制で順位決定 1～6位：東海選抜出場
	9	土	個人決勝 ※可児市弓道場	男女とも1,2回戦計8射5中以上通過、12射総的中制
	23 ～24	土 日	第42回東海高校弓道選抜大会 [愛知：蒲郡市]	団体 予選：24射的中制 決勝：8チームのトーナメント 個人 8射の総的中制
12	23 ～25	金 日	第43回全国高校弓道選抜大会 [三重：四日市]	団体 予選：12射的中制 決勝：32チームのトーナメント 個人 予選：4射3中以上が通過 準決勝：4射3中以上が通過 決勝：射詰
2			県新人大会	地区予選 通過基準 団体：40射 男子15中 女子14中以上 個人：8射 男女とも4中以上
	8	土	個人戦	男女とも 1,2回戦計8射5中以上通過、12射総的中制
	9	日	団体戦	1チーム5名補欠2名、予選：40射総的中制 決勝：8校トーナメント制
	21	金	高体連弓道専門部代表者会議	
3	20	土	学校対抗男女混合弓道大会	1チーム5名 県下各校に出場権あり

ぎふスポーツフェア2023県内交流高校生弓道大会

令和5年4月30日（日）

長良川弓道場

ぎふスポーツフェア
実行委員会

大会趣旨 県内チームの強化を図る

競技方法 団体戦のみ、1チーム5名、3射場、立射、参加チームは県内上位校

予選3回戦60射で上位6チームが4回戦進出

5回戦100射の総的中制

男子

	1回	2回	3回	合計	競射	4回	5回	合計	競射	順位
斐太	6	4	9	19						
中村	6	5	7	18						
多治見	8	9	7	24						
多治見工業	12	12	6	30						
名古屋工業	7	8	9	24						
関商工	14	14	13	41		11	13	65		4
多治見西	11	7	7	25						
修文学院	4	5	6	15						
益田清風	9	4	6	19						
土岐商業	3	5	3	11						
高岡工芸	10	13	13	36		12	15	63		5
大垣北	9	11	6	26						
京都外大西	10	12	11	33						
中京	18	15	16	49		13	16	78		2
豊橋商業	18	16	12	46		18	17	81		1
大垣商業	13	15	13	41		15	14	70		3
近江兄弟社	13	11	9	33						
岐阜総合	14	14	10	38		13	12	63		5

女子

	1回	2回	3回	合計	競射	4回	5回	合計	競射	順位
益田清風	9	8	8	25						
中村	7	5	5	17						
土岐商業	10	5	11	26						
大垣商業	10	12	11	33		14	14	61		1
豊橋商業	11	11	15	37		11	12	60		2
多治見工業	4	5	5	14						
岐阜総合	6	4	12	22						
高岡工芸	8	4	3	15						
関商工	5	5	7	17						
多治見	7	9	7	23						
京都外大西	11	12	12	35		10	12	57		3
岐阜各務野	11	11	7	29		11	11	51		4
中京	10	9	12	31		8	11	50		5
近江兄弟社	11	7	11	29		10	9	48		6
多治見西	7	9	9	25						
大垣北	6	5	6	17						
修文学院	3	7	4	14						
斐太	7	5	3	15						

第 7 1 回岐阜県高校総合体育大会弓道競技 兼第 6 8 回全国・第 7 0 回東海高校総合体育大会弓道競技 県 予 選 大 会

令和5年5月21日(日)27日(土)

長良川弓道場

岐阜県高体連弓道専門部

団体地区予選・県1次

個人地区予選

団体・チーム7名(選手5名、補欠2名)

団体は地区予選は40射、県1～3回戦は60射の的中数

	学校名	男子団体		女子団体		男子個人	女子個人
		地区予選	県1～3回戦	地区予選	県1～3回戦	地区予選	通過人数
岐阜	岐阜総合	25	41	18	24	9	3
	岐阜南工業	14				4	1
	各務原	13		11		2	1
	岐阜各務野			22	35		5
	羽島			3			
	済美			17	14	1	2
	城南			3			
	羽島北						1
西濃	岐阜北	25	39	23	27	8	6
	大垣商業	27	42	27	43	8	11
	大垣工業	12				2	
	不破						
中濃	大垣養老			18	25		3
	武義	14		20	19	2	8
	関商工	23	32	8		11	2
	加茂茂	16		19	22	4	4
	東濃実業	8		9			1
東濃西	可児	17	22	15	17	4	3
	多治見	12		20	13	3	6
	多治見北	11		20	16	1	4
	多治見工業	26	32	6		7	2
	瑞浪	12		8			
	土岐紅陵			14	15		1
	土岐商業	13		21	22	1	6
	多治見西			19	32	2	3
東濃東	麗澤瑞浪	6		13			1
	中京	26	45	16	36	6	3
	恵那	6		10			1
	恵那農業	19	16	11		3	1
	恵那南						
	中津	17	25	10		2	1
飛驒	中津商業	17	25	16	25	7	3
	中津川工業	9				1	
大会出場数	坂下						
	益田清風	8		18	26	1	4
	斐太	9		16	16	1	1
	飛驒高山			9			1
	高山工業	6					
吉城	7						
大会出場数		27	10	30	18	通過人数	
						90	89

地区予選

団体 40射
男子17中以上、
女子14中以上が
通過

個人 8射
男子4中以上
女子4中以上が
通過

県団体

団体 60射
上位6チームが
4・5回戦に進出

地区予選参加選手数

岐阜 125名
西濃 105名
中濃 名
東濃西 183名
東濃東 105名
飛驒 49名
合計 567名

個人戦

1回戦、2回戦合計で8射おこない、男女とも5中以上が3回戦に進出。

1回戦から3回戦までの計12射の総的中数で順位を決定する。

同中の場合、優勝、上位大会出場権を決定する場合は射詰め、それ以外は遠近法。

3回戦出場者が5名に満たない場合には、1、2回戦の4中者より補充

総的中

的中数	男子	女子
12	2	1
11	2	0
10	2	1
9	10	1
8	4	6
7	8	6
6	5	7
5	1	0
4	18	17
3	10	22
2	14	14
1	8	10
0	6	4

90 89

競射

男子

12中

男子氏名	学校名	的中記録	遠近	順位
森光 陽大	各務原	×		2位
大西 悠斗	中京	○		優勝

11中

男子氏名	学校名	的中記録	遠近	順位
増元 颯	大垣商業		近	3位
山田 建	中京		遠	4位

10中

男子氏名	学校名	的中記録	遠近	順位
河合 駿	岐阜総合	○		5位
松田 真波	関商工	×		

女子

12中

氏名	高校名	的中記録	遠近	順位
湯朝 優奈	大垣商業			優勝

10中

氏名	高校名	的中記録	遠近	順位
長尾 咲良	岐阜各務野			2位

9中

氏名	高校名	的中記録	遠近	順位
多田 あん	岐阜各務野			3位

8中

氏名	高校名	的中記録	遠近	順位
後藤 綾乃	岐阜総合	×		
伊藤 亜純	大垣北	×		
山口 紗依	大垣商業	×		
苗村 未羽	大垣商業	×		
加納 侑佳	中京	○	遠	5位
渡邊 愛香	多治見西	○	近	4位

団体上位6チーム

男子 チーム20射を5回おこない総的中数で順位を決定

男子	1回戦	2回戦	3回戦	4回戦	5回戦	総的中数	順位
岐阜総合	14	15	12	12	13	66	3位
中京	15	17	13	16	18	79	1位
大垣商業	13	14	15	12	18	72	2位
関商工	8	10	14	16	5	53	6位
大垣北	9	13	17	11	10	60	4位
多治見工業	8	12	12	11	11	54	5位

女子 チーム20射を5回おこない総的中数で順位を決定

女子	1回戦	2回戦	3回戦	4回戦	5回戦	総的中数	順位
岐阜各務野	10	11	14	10	11	56	3位
大垣北	6	9	12	12	8	47	5位
大垣商業	13	16	14	12	11	66	1位
中京	8	12	16	14	14	64	2位
益田清風	11	7	8	8	6	40	6位
多治見西	10	13	9	11	8	51	4位

競技成績

男子				女子			
団体	優勝	中京高校		団体	優勝	大垣商業高校	
		1	大西 悠斗			1	川添 結葉
		2	竹内 元光			2	渡邊 桃礼
		3	水野 馳久			3	吉田 凜音
		4	國場 太陽			4	高橋 由依
		5	山田 建			5	三摩 千賀
		6	栗田 樹一			6	小椋 美月
		7	金田悠之介			7	山口 紗依
監督	加藤 隼人	監督	小島 千佳				
個人	2位	大垣商業高校		2位	中京高校		
	3位	岐阜総合学園高校		3位	岐阜各務野高校		
	4位	大垣北高校		4位	多治見西高校		
	優勝	大西 悠斗	中京	優勝	湯朝 優奈	大垣商業	
2位	森光 陽大	各務原	2位	長尾 咲良	岐阜各務野		
3位	増元 颯	大垣商業	3位	多田 あん	岐阜各務野		
4位	山田 建	中京	4位	渡邊 愛香	多治見西		
5位	河合 駿	岐阜総合	5位	加納 侑佳	中京		

団体 1位は全国総体に、1～4位は東海総体に出場

個人 1～2位は全国総体に、1～5位は東海総体に出場

第70回東海高等学校総合体育大会

令和4年6月17日(土)・18日(日)

静岡県武道館

東海高等学校体育連盟

個人戦 男女とも8射の総的中制

1位決定のみ射詰め、その他は遠近法

男子個人			1回戦	2回戦	順位	決勝射詰め	順位
河合 駿	岐阜総合		3中	2中	12位		
山田 建	中京		3中	3中	7位		
増元 颯	大垣商業		2中	4中	7位		
森光 陽大	各務原		3中	3中	7位		
大西 悠斗	中京		1中	3中	16位		

女子個人			1回戦	2回戦	順位	決勝射詰め	順位
加納 侑佳	中京		3中	2中	8位		
渡邊 愛香	多治見西		2中	1中	17位		
多田 あん	岐阜各務野		2中	3中	8位		
長尾 咲良	岐阜各務野		2中	2中	14位		
湯朝 優奈	大垣商業		2中	3中	8位		

団体戦 予選は40射的中上位8チームが通過、決勝は20射のトーナメント。

男女とも各県4校、計16チームが出場

男子

予選	中京	27中	通過
	大垣商業	23中	敗退
	岐阜総合学園	28中	通過
	大垣北	15中	敗退

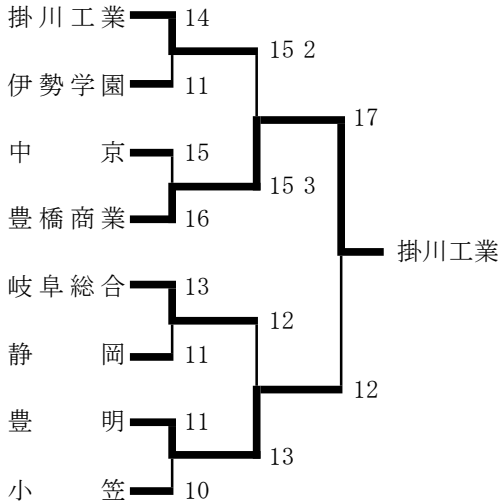
(24中で決勝進出)
(前年21中競射で決勝進出)

女子

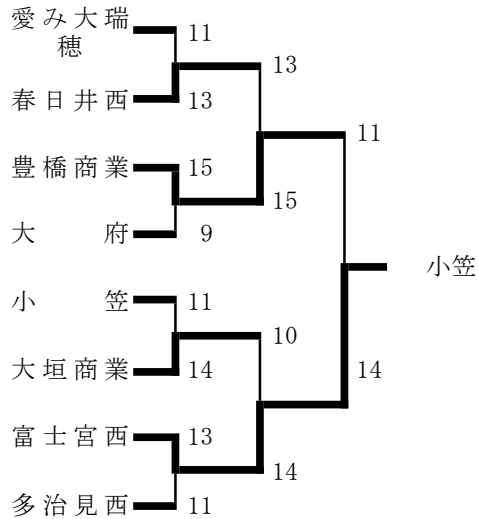
予選	大垣商業	23中	通過
	中京	14中	敗退
	岐阜各務野	21中(1)	敗退
	多治見西	26中	通過

(21中競射で決勝進出)
(前年22中で決勝進出)

決勝トーナメント



決勝トーナメント



岐阜県代表入賞者一覧

男子団体第3位		女子団体第3位	
岐阜総合学園		大垣商業高校	
1 辻 大夢	1 川添 結葉	2 赤尾虎太郎	2 渡邊 桃礼
3 馬場幸之郎	3 吉田 凜音	4 大林 陽登	4 高橋 由依
5 河合 駿	5 三摩 千賀	6 國枝 亮介	6 小椋 美月
7 野田光琉斗	7 山口 紗依	監督 小栗 寛丈	監督 小島 千佳

令和5年度 全国高等学校総合体育大会

令和5年8月3日（木）～8月6日（日）

北海道
真駒内セキスイハイムアイスアリーナ

全国高等学校体育連盟

個人戦 予選は4射3中以上が通過、準決勝は4射3中以上が通過、決勝は射詰め
男女とも各県2名（開催県は4名）、計96名が出場

男子個人		予選	準決勝	決勝射詰め	順位
大西 悠斗	中 京	4 中 通過	3 中 通過	×	
森光 陽大	各 務 原	1 中 敗退			
参加96名		通過56名	通過37名		

女子個人		予選	準決勝	決勝射詰め	順位
湯朝 優奈	大垣商業	0 中 敗退			
長尾 咲良	岐阜各務野	2 中 敗退			
参加96名		通過41名	通過21名		

団体戦 予選は20射的中上位32チームが通過、決勝は20射のトーナメント。
男女とも各県1校（開催県は2校）計48チームが出場。

男子 中京高校 （大西悠斗・竹内元光・水野馳久・國場太陽・山田建・金田悠之介）

予選 12中で決勝トーナメントへ

決勝トーナメント

試合	前 立	競射記録	後 立
1回戦	中京	16 - 15	宮崎南 (宮崎)
2回戦	桜井 (奈良)	15 - 16	中京
3回戦	秀岳館 (熊本)	12 - 14	中京
準決勝	中京	9 - 13	黒沢尻工業 (岩手)

中京高校 ベスト4

女子 大垣商業高校 （吉田凜音・渡邊桃礼・小椋美月・高橋由依・三摩千賀・川添結葉）

予選 12中で決勝トーナメントへ

決勝トーナメント

試合	前 立	競射記録	後 立
1回戦	大垣商業	11 - 10	桂 (京都)
2回戦	伊勢 (三重)	11 - 12	大垣商業
3回戦	大垣商業	12 - 16	倉吉西 (鳥取)

大垣商業高校 ベスト8

国民体育大会第44回東海ブロック大会（ミニ国体）

令和5年8月19日（土）～20日（日）

三重県 四日市総合体育館

東海弓道連盟連合会

競技方法

- ・少年男子、少年女子、成年男子、成年女子の部を実施
- ・2位までが本国体への出場権を獲得
- ・遠的は的中点による順位、近的は的中による順位を決定し、遠近合計得点により総合順位を決定

少年男子の部

	遠的 (的中)		得点	近的			合計得点		順位
	点	中		中	射	点	中	射	
岐阜	101	16	2	18	2	3	2	4	3
三重	60	10	1	17			1	2	4
愛知	121	20	4	20			4	8	1
静岡	110	18	3	18	2	3	3	6	2

少年女子の部

	遠的 (的中)		得点	近的			合計得点		順位
	点	中		中	射	点	中	射	
岐阜	111	19	3	17			3	6	2
三重	82	13	1	12			1	2	4
愛知	98	16	2	16			2	4	3
静岡	121	9	4	21			4	8	1

ミニ国体少年の部 岐阜県代表チーム

男子・岐阜選抜チーム				女子・岐阜選抜チーム			
1	辻	大夢	岐阜総合学園	1	吉田	凜音	大垣商業
2	大西	悠斗	中京	2	小椋	美月	大垣商業
3	山田	建	中京	3	三摩	千賀	大垣商業
監督	加藤	隼人	中京	監督	小森	升裕	大垣商業
コーチ	小栗	寛丈	岐阜総合学園	コーチ	今井	誠	益田清風

令和5年度 グローアッププラン（選手強化試合）

令和5年9月16日（土）

長良川弓道場

岐阜県弓道連盟
岐阜県高体連弓道専門部

大会趣旨 県内チームの強化を図る

競技方法 団体戦のみ、1チーム3名、4射場、立射、参加チームは県内の高校

総的中成績（48射）

男子	一回	二回	三回	四回	合計	備考
瑞浪	1	0	3	0	4	
加茂	6	7	4	4	21	
岐南工業	2	6	2	4	14	
関商工	7	5	6	7	25	第3位
土岐商業	2	3	0	3	8	
多治見西	3	6	7	6	22	
多治見	2	2	1	3	8	
大垣北	1	2	1	2	6	
恵那	4	2	5	2	13	
中京	10	10	4	6	30	優勝
斐太	4	3	4	1	12	
多治見北	1	5	1	3	10	
岐阜総合	8	7	7	7	29	第2位
土岐紅陵	5	6	3	4	18	
東濃実業	2	4	4	2	12	
中津川工業	1	2	2	2	7	
大垣商業	4	5	7	8	24	
益田清風	3	2	3	3	11	
済美	5	6	3	4	18	
可児	6	6	4	7	23	
大垣工業	1	3	2	3	9	
高山工業	4	5	2	2	13	
飛騨高山	2	2	3	1	8	

女子	一回	二回	三回	四回	合計	備考
土岐紅陵	5	0	2	5	12	
多治見	5	0	2	3	10	
可児	5	4	3	3	15	
関商工	5	6	3	4	18	
岐阜総合	4	4	2	3	13	
中京	8	7	8	4	27	第2位
多治見西	6	6	6	4	22	
斐太	3	0	2	4	9	
岐阜各務野	7	5	9	7	28	優勝
益田清風	4	5	3	7	19	
土岐商業	2	5	4	1	12	
大垣商業	5	8	6	5	24	第3位
瑞浪	3	6	1	3	13	
恵那	4	2	7	3	16	
加茂	0	2	0	0	2	
東濃実業	3	6	4	3	16	
済美	6	3	4	6	19	
大垣北	1	1	0	1	3	
多治見北	1	2	1	2	6	
飛騨高山	2	2	3	1	8	
国体	6	5	8	7	26	

令和5年度 学校対抗男女混合大会

令和5年9月17日(日)

長良川弓道場

岐阜県弓道連盟
岐阜県高体連弓道専門部

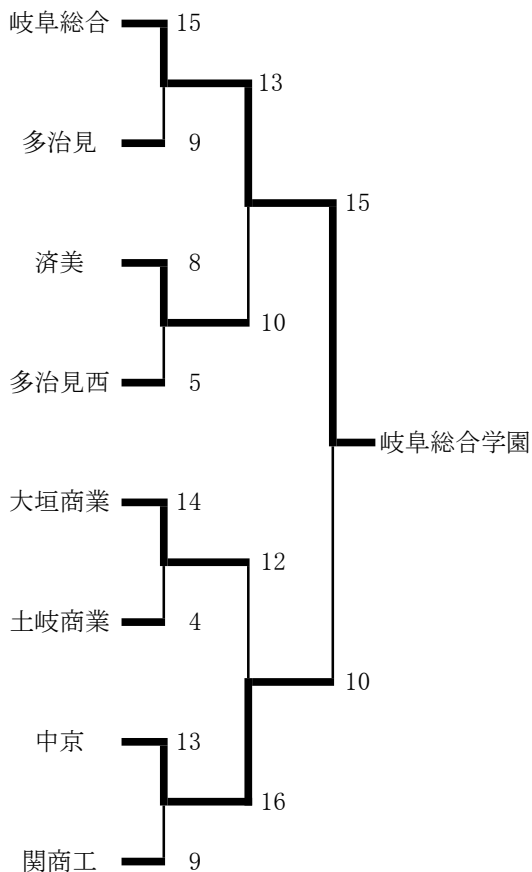
大会趣旨 県内チームの強化を図る

競技方法 団体戦のみ、1チーム5名、2射場、立射、参加チームは県内の高校で男女混成チーム可
予選成績(40射) 決勝トーナメント(20射)

予選

男子	一回	二回	合計
土岐商業	6	9	15
飛騨高山	8	3	11
瑞浪	3	5	8
多治見	9	6	15
済美	12	8	20
東濃実業	5	8	13
大垣商業	13	10	23
中津川工業	1	3	4
加茂	4	7	11
恵那	1	2	3
中京	11	11	22
斐太	7	7	14
多治見西	12	7	19
益田清風	3	6	9
可児	6	7	13
岐阜総合	15	12	27
岐南工業	3	3	6
麗澤瑞浪	4	3	7
大垣北	6	7	13
多治見工	3	6	9
多治見北	8	5	13
関商工	9	7	16

決勝トーナメント



第78回国民体育大会 弓道競技

令和5年10月13日(金)～10月16日(月)

鹿児島県出水市
出水市総合運動公園特設弓道場

日本体育協会

競技方法

- ・ 遠的、近的を行う。
- ・ 予選 24射、上位8チームが決勝に進出。
- ・ 決勝 チーム12射での8チームのトーナメント。
- ・ 遠的は的中得点により勝敗を決定。近的は的中数により勝敗を決定する。
- ・ 遠的、近的とも順位による得点によって総合順位を決定する。

少年女子の部 岐阜県選抜チーム 成績 近的 予選敗退
遠的 予選敗退

近的 (予選は15中、競射で決勝進出)

予選		
1	吉田 凜音	6中
2	小椋 美月	3中
3	三摩 千賀	5中
監督	小森 升裕	14中

遠的 (予選は89点で決勝進出)

予選		
1	吉田 凜音	32点
2	小椋 美月	29点
3	三摩 千賀	20点
監督	小森 升裕	81点

国体少年の部 岐阜県代表チーム

女子・岐阜選抜チーム			
近的	予選敗退		
遠的	予選敗退		
1	吉田 凜音	大垣商業	
2	小椋 美月	大垣商業	
3	三摩 千賀	大垣商業	
監督	小森 升裕	大垣商業	
コーチ	今井 誠	益田清風	

第42回全国高等学校弓道選抜大会 県予選大会

令和5年11月4日(土)・11日(土)

長良川弓道場

岐阜県弓道連盟
岐阜県高体連弓道専門部

団体地区予選・県1次

個人地区予選

団体・チーム4名(選手3名、補欠1名)

団体は36射の的中数

	学校名	男子団体		女子団体		男子個人	女子個人
		地区予選	3立計	地区予選	3立計	地区予選	通過人数
岐阜	岐阜総合	27	27	23	19	7	2
	岐阜南工業	15				3	
	岐阜各務原	15		5		2	
	岐阜各務野			25	25		5
	岐阜羽島			8			
	岐阜済美	13		21	17	1	3
	岐阜城南	3		3			
西濃	大垣北	16		14	16	2	3
	大垣商業	29	21	20	14	8	7
	大垣工業	13				2	
	不破	4				0	
	大垣養老			16	22		2
中濃	武義	10		15	9	1	3
	関商工	14		17	13	5	2
	加茂茂	17	22	10		2	1
	東濃			5			
	東濃実業	18	17(0,3)	14	13	4	1
可児	19	17(0,2,1)	15	7	2	1	
東濃西	多治見	13		19	12	2	1
	多治見北	10		14	12	1	2
	多治見工業	14		13		1	
	瑞浪	12		7		1	1
	土岐紅陵	15		14	11	1	2
	土岐商業	14		13		1	1
	多治見西	11		19	19		2
	麗澤瑞浪	7		14	10		1
中京	28	29	24	10	7	6	
東濃東	恵那	9		8			
	恵那農業	8		14	20		2
	恵那南	8		5			
	中津	12		10		1	1
	中津商業	19	17(0,2,2)	14	13	4	3
	中津川工業	7					
飛騨	坂下						
	益田清風			16	18		3
	斐太	16		16	17	2	3
	飛騨高山	1		13			
	高山工業	7				1	
吉城	12		5		1		
大会出場数		33	7	33	20	通過人数	
						62	58

地区予選

団体 36射
男子17中以上、
女子14中以上が
通過

個人 12射
男子6中以上
女子6中以上が
通過

地区予選参加選手数

岐阜 116名
西濃 110名
中濃 183名
東濃西 172名
東濃東 128名
飛騨 68名
合計 777名

団体決勝 1、2、3回戦合計で36射おこない、男女とも6位以上が4回戦に進出。
 1回戦から5回戦までの計60射の総的中数で順位を決定する。 ()内は同中競争

男子	的中数	合計	順位
加茂	6 7 9 5 8	35	4位
中京	8 10 11 11 10	50	1位
岐阜総合	7 9 11 10 10	47	2位
東濃実業	8 4 5 10 6	33	5位
大垣商業	7 6 8 7 8	36	3位
中津商業	8 5 4 2 5	24	6位

女子	的中数	合計	順位
大垣養老	8 6 8 7 4	33	3位
恵那農業	8 6 6 5 5	30	5位
岐阜総合	6 7 6 10 8	37	2位
多治見西	8 2 9 2 11	32	4位
岐阜各務野	8 7 10 6 10	41	1位
益田清風	6 7 5 7 4	29	6位

個人戦 1回戦、2回戦合計で8射おこない、男女とも5中以上が3回戦に進出。
 1回戦から3回戦までの計12射の総的中数で順位を決定する。
 同中の場合、優勝、上位大会出場権を決定する場合は射詰め、それ以外は遠近法。
 3回戦出場者が5名に満たない場合には、1、2回戦の4中者より補充

総的中

的中数	男子	女子
12	1	0
11	2	1
10	3	1
9	2	5
8	5	7
7	3	2
6	3	1
5	0	0
4	11	12
3	16	9
2	10	9
1	3	9
0	3	2

競射

男子

12中

氏名	学校名	的中記録	順位
大西 悠斗	中京		1位

11中

氏名	学校名	的中記録	遠近	順位
栗田 樹一	中京	○		2位
河合 駿	岐阜総合	×		3位

10中

氏名	学校名	的中記録	遠近	順位
國場 太陽	中京		遠2	6位
金田悠之介	中京		近	4位
馬場幸之郎	岐阜総合		遠1	5位

女子

11中

氏名	学校名	的中記録	遠近	順位
山本 優月	中京			1位

10中

氏名	学校名	的中記録	遠近	順位
東條 はな	多治見北			2位

9中

氏名	学校名	的中記録	遠近	順位
小出 歩果	中京	○ ○	遠2	5位
水野 佑南	多治見西	○ ○	遠1	4位
田口 優奈	中津商業	○ ○	遠3	6位
小川 眞子	岐阜総合	○ ×		
多田 あん	岐阜各務野	○ ○	近	3位

競技成績

		男子	
団体	優勝	中京高校	
		1	國場 太陽
		2	栗田 樹一
		3	大西 悠斗
		4	中芝 汰月
	監督	加藤 隼人	
個人	2位	岐阜総合学園高校	
	3位	大垣商業高校	
	4位	加茂高校	
	優勝	大西 悠斗	中京
	2位	栗田 樹一	中京
	3位	河合 駿	岐阜総合
4位	金田悠之介	中京	
5位	馬場幸之郎	岐阜総合	
6位	國場 太陽	中京	

		女子	
団体	優勝	岐阜各務野高校	
		1	尾宇 琥珀
		2	川股 悠月
		3	澤 実咲
		4	畠 菜月
	監督		
個人	2位	岐阜総合学園高校	
	3位	大垣養老高校	
	4位	多治見西高校	
	優勝	山本 優月	中京
	2位	東條 はな	多治見北
	3位	多田 あん	岐阜各務野
4位	水野 佑南	多治見西	
5位	小出 歩果	中京	
6位	田口 優奈	中津商業	

第 4 2 回 東海 高等学校 弓道 選抜 大会

令和 5 年 1 1 月 2 5 日 (土) ・ 2 6 日 (日)

三重 武道館 弓道場

東海 弓道 連盟 連合会

個人戦 8 射 総 的 中 性
男女 とも 各 県 6 名、計 2 4 名 が 出 場

男子 個人		予選	決勝 射 詰	順位
國馬 太陽	中京	5 中		
馬場 幸之郎	岐阜 総合 学園	5 中		
金田 悠之介	中京	4 中		
河合 駿	岐阜 総合 学園	6 中	遠 2	4 位
栗田 樹一	中京	6 中		
大西 悠人	中京	6 中	近	2 位

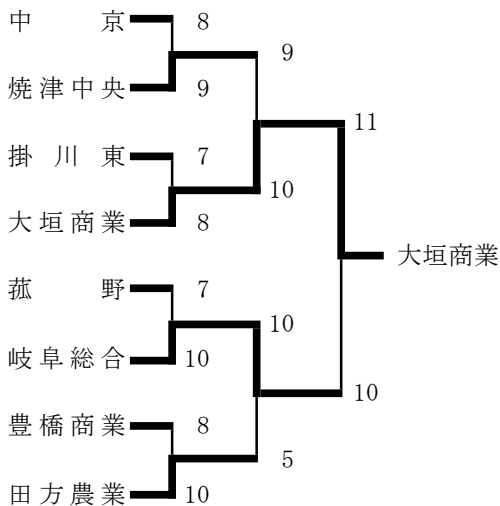
女子 個人		予選	決勝 射 詰	順位
田口 優奈	中津 商業	3 中		
小出 歩果	中京	1 中		
水野 佑南	多治見 西	3 中		
多田 あん	岐阜 各務 野	7 中	遠 2	4 位
東條 はな	多治見 北	5 中		
山本 優月	中京	4 中		

団体戦 予選は 2 4 射 的 中 上 位 8 チーム が 通 過、決 勝 は 1 2 射 の トーナメント。
男女 とも 各 県 4 校、計 1 6 チーム が 出 場

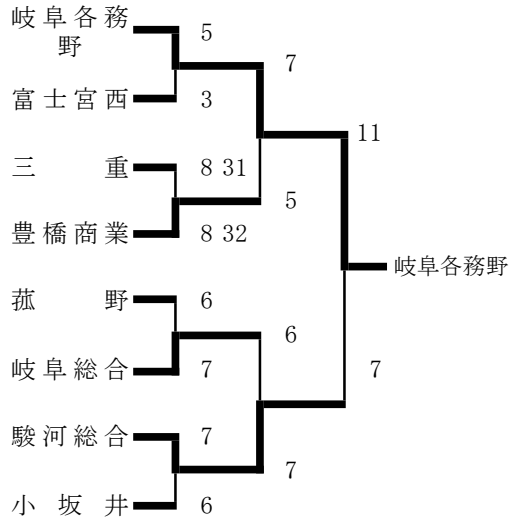
男子
予選 加茂 13 中
大垣 商業 17 中 通過
岐阜 総合 16 中 通過
中京 20 中 通過
(1 5 中 で 決 勝 進 出)
(昨 年 度 : 1 3 中 競 射 で 決 勝 進 出)

女子
予選 多治見 西 10 中
大垣 養老 8 中
岐阜 総合 13 中 通過
岐阜 各務 野 19 中 通過
(1 1 中 で 決 勝 進 出)
(昨 年 度 : 1 4 中 で 決 勝 進 出)

決勝 トーナメント



決勝 トーナメント



岐阜 県 代 表 入 賞 者 一 覧

男子 団体 優勝		男子 団体 2 位		女子 団体 優勝		女子 団体 3 位		男子 個人		
大垣 商業		岐阜 総合 学園		岐阜 各務 野		岐阜 総合 学園		2 位	大西 悠斗	中京
1 高橋 遙人	1 馬場 幸之郎	1 長尾 咲良	1 奥田 小那未	4 位	河合 駿	岐阜 総合				
2 山田 知輝	2 河合 駿	2 三宅 彩加	2 小川 眞子							
3 馬淵 稜久	3 大林 陽登	3 多田 あん	3 野尻 羽音							
4 北村 柁人	4 赤尾 虎太郎	4 宮澤 友唯	4 伊藤 薫	4 位	多田 あん	岐阜 各務 野				
監督 小島 千佳	監督 小栗 寛丈	監督 後藤 晴美	監督 小栗 寛丈							

第42回全国高等学校弓道選抜大会

令和5年12月23日（土）～25日（月）

東京都 東京武道館 特設弓道場

（公財）全日本弓道連盟

個人戦 予選は4射3中以上が通過、準決勝は4射3中以上が通過、決勝は射詰め
男女とも各県2名（開催県、北海道、愛知県は4名）、計100名が出場

男子個人		予選	準決勝	決勝射詰め	順位
大西 悠斗	中京	3中 通過	4中 通過	○○○○◎◎×	3位
栗田 樹一	中京	4中 通過	4中 通過	○○○○×遠近法	6位
参加100名		通過41名	通過30名		

女子個人		予選	準決勝	決勝射詰め	順位
山本 優月	中京	2中 敗退			
東條 はな	多治見北	2中 敗退			
参加100名		通過37名	通過18名		

団体戦 予選は12射での中上位32チームが通過、決勝は12射のトーナメント。
男女とも各県1校・各ブロック1校（開催県は2校）計61チームが出場。

男子

中京高校（國場太陽・栗田樹一・大西悠斗・中芝汰月）

予選 9中で決勝トーナメントへ

決勝トーナメント 結果 ベスト32

試合	前立	競射記録	後立
1回戦	中京	6 - 8	八戸工業（青森）

女子

岐阜各務野高校（長尾咲良・三宅彩加・多田あん・宮澤友唯）

予選 11中で決勝トーナメントへ

決勝トーナメント 優勝

試合	前立	競射記録	後立
1回戦	岐阜各務野	10 - 8	出雲（島根）
2回戦	岐阜各務野	9 - 6	大宮東（埼玉）
準々決勝	岐阜各務野	9 - 6	岡崎商業（愛知）
準決勝	岐阜各務野	11 - 6	作新学院（栃木）
決勝	岐阜各務野	8 - 7	倉吉西（鳥取）

令和5年度 岐阜県高等学校新人大会 弓道競技		
令和6年2月10日(土)・11日(日)	長良川弓道場	岐阜県高体連弓道専門部

団体地区予選・県予選	個人地区予選	団体・チーム7名(選手5名、補欠2名)
------------	--------	---------------------

団体は40射の的中数(()は競射)

	学校名	男子団体		女子団体		男子個人	女子個人
		地区予選	予選	地区予選	予選	地区予選	通過人数
岐阜	岐阜総合	30	27	19	15	10	5
	岐阜南工業	22	14			6	
	各務原	13		7		2	0
	岐阜各務野			26	29		5
	羽島			11		0	2
	済美	9		12		1	1
	城南	3		4		0	0
西濃	羽島北						
	大垣北	19	21	23	22	2	8
	大垣商業	30	20	24	29	8	9
	大垣工業	9				1	0
中濃	不破	2				0	0
	大垣養老			12		0	1
	武義	9		11		1	2
	関商工	23	15	17	20	4	2
	加茂茂濃	16		10		5	2
東濃西	東濃実業	16		11		4	1
	可児	20	19	16	11	4	4
	多治見	20	17	12		4	2
	多治見北	13		19	13	2	2
	多治見工業	16				3	1
	瑞浪	14		11		1	1
	土岐紅陵	11		1		1	0
	土岐商業	13		9		3	2
東濃東	多治見西	7		12		1	1
	麗澤瑞浪	13		10		2	0
	中京	30	28	17	25	13	4
	恵那	11		13			2
	恵那農業	9		11		1	1
	恵那南	3		3			
飛驒	中津	13		17	12	2	2
	中津商業	19	30	14	15	4	1
	中津川工業	5				1	
	坂下						
大会出場数	益田清風			12			2
	斐太	13		18	17	1	3
	飛驒高山	7		6			
	高山工業	6					
大会出場数	吉城	4		2			
	通過人数	33	9	31	11	87	66

地区予選

団体 40射
男子17中以上、
女子14中以上が
通過

個人 8射
男子4中以上
女子4中以上が
通過

県大会

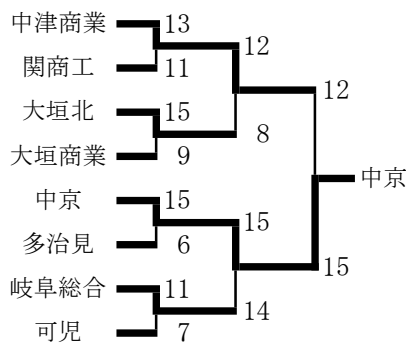
団体 40射
上位8チームが
決勝トーナメントに
進出

地区予選参加選手数

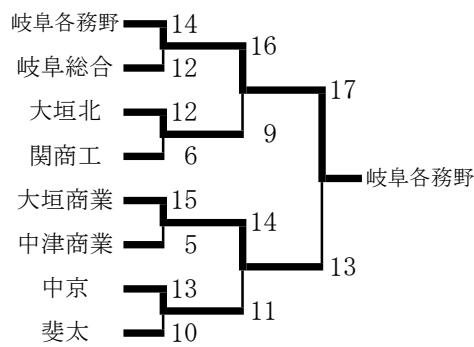
岐阜	111名
西濃	110名
中濃	173名
東濃西	196名
東濃東	126名
飛驒	57名
合計	773名

団体決勝トーナメント

男子



女子



競技成績

男子		
団体	優勝	中京高校
	2位	中津商業高校
	3位	大垣北高校
		岐阜総合学園高校
	5位	関商工高校
		大垣商業高校
		多治見高校
可児高校		
技能優秀	中京高校	

女子		
団体	優勝	岐阜各務野高校
	2位	大垣商業高校
	3位	大垣北高校
		中京高校
	5位	岐阜総合学園高
		関商工高校
		中津商業高校
斐太高校		
技能優秀	岐阜各務野高校	

個人戦

1回戦、2回戦合計で8射おこない、男女とも5中以上が3回戦に進出。
 1回戦から3回戦までの計12射の総的中数で順位を決定する。
 同中の場合、優勝を決定する場合は射詰め、それ以外は遠近法。
 3回戦出場者が5名に満たない場合には、1、2回戦の4中者より補充

総的中

的中数	男子	女子
12	1	0
11	2	1
10	8	2
9	3	5
8	10	7
7	4	2
6	2	1
5	1	0
4	18	12
3	14	15
2	12	11
1	5	9
0	5	0
参加者	85	65

競射

男子

12中

氏名	学校名	遠近	順位
大西 悠斗	中京		優勝

11中

氏名	学校名	遠近	順位
柴田大次郎	中京	近	2位
高橋 遥人	大垣商業	遠	3位

10中

氏名	学校名	遠近	順位
北村 惟人	可児		
清水 一心	関商工		
栗田 樹一	中京		
中芝 汰月	中京	近	4位
田村 星成	中京		
瀬瀬 真示	中津商業		
馬場幸之郎	岐阜総合	遠2	6位
浅野 優太	岐阜総合	遠1	5位

女子

11中

氏名	学校名	遠近	順位
多田 あん	岐阜各務野		優勝

10中

氏名	学校名	遠近	順位
塚本 春音	中京	近	2位
林 凜香	中津商業	遠	3位

9中

氏名	学校名	遠近	順位
福田 深姫	関商工	遠2	6位
沼田小百合	中京		
加納帆乃佳	斐太		
宮澤 友唯	岐阜各務野	遠1	5位
森川 莓花	大垣商業	近	4位

競技成績

男子			
個人	優勝	大西 悠斗	中京
	2位	柴田 大次郎	中京
	3位	高橋 遥人	大垣商業
	4位	中芝 汰月	中京
	5位	浅野 優太	岐阜総合学園
	6位	馬場 幸之郎	岐阜総合学園
技能優秀	大西 悠斗	中京	

女子			
個人	優勝	多田 あん	岐阜各務野
	2位	塚本 春音	中京
	3位	林 凜香	中津商業
	4位	森川 莓花	大垣商業
	5位	宮澤 友唯	岐阜各務野
	6位	福田 深姫	関商工
技能優秀	多田 あん	岐阜各務野	

1. 勝利に向かって

令和5年10月13日～10月16日まで 第77回国民体育大会 燃ゆる感動かごしま国体が鹿児島県出水市で開催されました。

特別国民体育大会に出場して

大垣商業高等学校 三摩 千賀

私たちは東海ブロックを2位で通過し、特別国民体育大会に出場しました。大垣商業の代表ではなく県の代表で行くことを自覚し、選ばれた責任を果たそうと練習に励みました。

近的では一立で二桁、遠的では一立60点を目標に取り組みました。精神面では常に自分の射に没頭し、毎回自分の4射を詰めることを心がけました。国体は近的競技だけでなく、遠的競技もあり、両方とも精度を上げていくことにとっても苦戦しましたが、本国体に向けて仲間とともに練習しました。



会場に入ってみるとインターハイや選抜大会とは違った緊張感のある空気で、試合を楽しんでいるような人がほとんどでした。また少年、成年関係なく他県と交流しているところが多く、私たちも他県と交流を深められたら良かったなと感じました。観覧席では国体選手だけでなく地元の人も観戦しに来ており、全国大会とは違った応援があり緊張してしまいました。そういうところで自分の気持ちを強く持ち、射に没頭できるかが重要になってくると思いました。中たるチームは体配がそろい常に自分のペースで引いていて落ち着いた雰囲気がありました。細かな動作から揃えることでチームに一体感が生まれ、落ち着いて立をすることができるのだと改めて実感しました。

国体という大きな舞台で結果を残すことができませんでしたが、高校最後の試合を国体で終わらすことができ、とてもいい経験になりました。ここまでこれたのは一緒に練習してきた仲間の存在や国体の監督をはじめとした、国体チームスタッフの方々のご指導があったからです。また、部員や両親からの応援、協力がとても支えになりました。支えてくださった方々への感謝を忘れず、これからも感動を与えられるような弓を引けるように頑張りたいです。

インターハイに出場して

〔全国高校総合体育大会 女子団体〕
大垣商業高等学校 高橋 由依

私たちは全国高校総合体育大会岐阜県予選で優勝し、インターハイに出場しました。県大会での反省点を活かし、全国の舞台でベストの射ができるように稽古に励みました。

稽古に取り組むにあたって多くの人のサポートを受けました。大会に出場するメンバーを優先して立ができるようにメニューを組んでいただいたり、立の記録をつけてもらったりなど、集中して稽古に取り組める環境を作って貰いました。多くの部員から応援の言葉を沢山かけてもらい、試合に出るメンバーだけではなく、大商弓道部全員で試合に臨む思いで北海道に向かいました。

試合当日、会場の張り詰めた雰囲気を感じました。緊張や不安な気持ちもありましたが、積み上げてきた技術に自信を持って射位に入りました。一本一本に向き合い、射に没頭していくうちに落ち着いてきて、自分の弓で戦うことが出来ました。私たちは予選を12中で通過し、決勝トーナメントに進みました。しかし、実力が発揮しきれず、準々決勝で敗れました。

勝負に負けた後の順位決定でしたが切り替えをつけ、6位という結果を収めました。そして、技能優秀賞にも選んでいただきました。悔しさもありましたが、全力で挑むことが出来たこと、そしてその射が評価されたことは3年間の積み重ねで繋がったものだと思います。

全国大会という大舞台で最後まで戦えたのは、指導して下さった先生方や応援をしてくれた仲間たちのおかげです。ありがとうございました。



インターハイに出場して

〔全国高校総合体育大会 男子個人〕

各務原高等学校 森光 陽大

私は全国高等学校弓道選抜大会の県予選で、個人準優勝し、東海大会・全国大会に出場することができました。県予選では、いつも通りの射をすることをとても意識して挑みました。控室では、自分のいつも引いている射型をイメージし、自分を落ち着かせていました。競技中では、ただ全力で弓を引いていたので、自分が皆中していることに気が付きませんでした。競技が終わり、結果を見たときに12射皆中していたのでとても驚きました。高校最後の大会だと思い挑んだ大会で、準優勝するとは思ってもいなかったからです。その時は実感があまりわかなかったのですが周りのみんながとても喜んでくれてうれしかったです。



全国大会までの練習は、今までの練習とは違いとてもつらい日々でした。高校最後の大会が終わり、他の同級生部員のほとんどは部活を去りました。私は、改めて仲間とともに練習ができたことの大切さを学びました。全国大会に出場できたのも、仲間がいたからだと思います。

全国大会当日、今まで経験してきた大会と違い会場が緊張に包まれていました。私は、入部当初から全国大会を目標にして努力してきたためとても緊張してしまい、イメージ通りの射ができず予選敗退という悔しい結果で終わってしまいました。ですがここまでこられた自分を誇りに思っています。

また、私が全国大会に出場することができたのは決して自分ひとりの力ではなく、周りの方々の支えがあったからです。今まで支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れずにこれからも弓を引いていきたいと思っています

インターハイに出場して

〔全国高校総合体育大会 女子個人〕
大垣商業高等学校 湯浅 優奈

私はインターハイ県予選で優勝して全国大会に出場しました。こんなに大きな舞台に立つのは初めてだったので、始めは全く実感が湧きませんでした。しかし、試合を見にきてくれていた親の目から涙が溢れそうになるのを見た時は、本当に優勝したんだと心動かされたのを覚えています。県予選を通して、感動をしてもらえることで周りも自分も嬉しくなれることを学びました。この機を境に、他人に褒められるだけの人ではなく、自分を自分で褒められるような人になるということを目指して日々努力するようになってきました。



全国大会に向けての練習の中でいちばんの課題となったのは、射が小さいことでした。しっかり矢尺がとれているつもりでも、羽根が口元にあったり、肩から開けていなかったりと矢所は下に集中するばかりでした。変化に対応できるようあらゆる対策を試しました。

苦しい時期もありましたが、これは通過点だと信じ、折れずにめげずに自分と葛藤してきました。

全国大会の緊張感はやっぱり別物で、とても圧倒されました。どんな結果であれ、今までの努力を信じ、自分自信と戦える試合にするとということを心に秘めて試合に挑みました。結果は、4本とも上に抜いて皆抜をし予選敗退となりました。悔しさは残りましたが、上に抜いたという点では練習してきたことが無駄にならず成果として現れてくれた気がしたので嬉しかったです。

試合中は、目の前の一本一本に全力を注ぐことができました。

全国大会を振り返って、多くの課題を見つけられました。その課題を形見だと言えるくらいより良いものができるよう、何事も不可能だと思わず挑戦し続けられるようにこれからも頑張っていきます。

インターハイに出場して

〔全国高校総合体育大会 女子個人〕
岐阜各務野高等学校 長尾 咲良

私は岐阜県高等学校総合体育大会女子個人で準優勝し、インターハイに出場しました。出場が決定した時の驚きと嬉しさは今でも鮮明に覚えています。顧問の先生方やコーチと一緒に喜んでくれたこと、笑顔で「おめでとう」と言ってくれたことは本当に嬉しかったです。また、家族もとても喜んでくれて、応援してくれていた分を少しでも恩返しできたように感じられました。今まで頑張ってきた努力が成果につながり、改めて努力することの大切さを実感することができました。

出場が決定してからの練習では、全国大会当日に胸を張って弓を引けるようにしたいと思い、これまで以上に毎日の練習を頑張りました。しかしなかなかうまくいかず、的の中に悩み、このままで大丈夫だろうかと落ち込むときもありました。けれど、その度にたくさん話をしてくれるコーチや、「大丈夫」と声をかけてくれる仲間がいてくれたおかげで、ネガティブな気持ちに負けずにいられました。この練習期間で、仲間がいることの重要さと心強さを学ぶことができたように思います。



当日は緊張感や周りにいるほかの選手の顔つきがこれまで経験してきた大会とは全く異なり、とても大きな舞台に来ているんだと実感しました。その中でも、今までやってきたことを最大限活かした射ができるように、緊張する気持ちを落ち着かせて立に臨みました。結果は四射二中で予選敗退。とても悔しかったです。もっと上へ進みたかったし、なによりいつも応援してくれていた家族や弓道部のみんなに、笑っていい結果を報告できなかったことが一番の後悔になりました。大事な場面で決めきれないことが課題として残ったと思います。結果は残せませんでした。今の自分に足りないものをもう一度理解する日になり、いい経験になりました。この悔しい気持ちを忘れず、また全国大会に出場するために弓道に真剣に向き合い、あの時の自分を超えられるように努力を続けていきたいです。

選抜大会を終えて

〔全国高校弓道選抜大会 女子団体〕
岐阜各務野高等学校 宮澤 友唯

私たちは県大会で優勝し、全国高等学校弓道選抜大会に出場することができました。そこで、全国大会ではベスト8を目指すことに決め、県大会で得た反省点をもとに四人それぞれが個人の目標を設定し、練習に取り組みました。全国大会に向けた練習では、特別変わったことはせず、毎日の朝練で巻き藁を引き、立終わりのミーティングを欠かさず行いました。チームの的中には波があり、目標である「一・四本目を外さず9中以上を出す」



ことを毎回達成することはできませんでした。しかし、やるべきことをやりきれば結果は自ずとついてくると信じて東京へ出発しました。私は補欠だったので、観覧席から試合を見ていました。予選一立目は11中で、一位でトーナメントへ進出することができました。続くトーナメント一回戦。張り詰めた空気の中で、みんなが堂々と自分の射で勝負し、勝ちました。東海大会では、トーナメント一回戦で場の雰囲気呑まれてしまったので、その反省をこの大会で活かすことができ良かったです。その後も順調に勝ち進み、目標のベスト8を達成することができました。しかし、私たちはそこで気持ちを切らすことなく、次の試合に向けてやるべきことを考えました。そして、巻き藁で今の自分の射を確認し、気を緩めず次の立に臨みました。その結果、準決勝は11中で勝つことができました。そして、最後の決勝。相手は早いペースで試合を進めていましたが、それに乱されることなく自分たちの射をやり切ることができました。その結果、優勝し、技能優秀賞もいただきました。優勝した瞬間は嬉しさというより、試合が終わってほっとした安心感の方が大きかったです。優勝することはできましたが、的中数は8中だったので、悔しい気持ちもありました。

この経験を踏まえて、これからは悔いの残らない一日一日を過ごして行きたいと考えています。四人しかいない二年生で優勝できたことは、仲間の大切さを実感する機会にもなりました。もちろんいつも教えてくださる先生やコーチ、支えてくれている両親、今まで関わってきたすべての人に感謝の気持ちを忘れず、これからも練習に励みます。この結果に満足せず、いつまでもチャレンジし続けていきたいです。



全国高等学校弓道選抜大会に出場して

〔全国高校弓道選抜大会 女子個人〕
多治見北高等学校 東條 はな

私は、全国高等学校弓道選抜大会岐阜県予選の女子個人で準優勝し、東海大会、全国大会への出場を決めました。県予選では、とにかく平常心でいつもの射が出せるようにと競技に挑みました。準優勝が決まったとき、周りの人たちが喜んでくれてとても嬉しかったです。

しかし、東海大会では納得のいく射ができず、予選敗退という結果になってしまいました。そこから、全国大会までの1ヶ月ほどの間は自分の射を見直し練習に励みました。一方で、全国大会が近づいてくると「当たらなかつたらどうしよう」と不安な気持ちが止まらなくなりました。そんなとき、私を支えてくれたのは一番近くにいた部活の仲間でした。

全国大会本番、胸を張れる結果を出したいと予選に挑みましたが、射位に入ると今まで感じたことのない緊張感に包まれ、思わず足が震えてしまいました。結局、4射中2中で予選敗退という結果でした。退場した瞬間、応援して下さった人たち、東京まで応援に来てくれた部員たちへの申し訳無さと、自分の弱さを感じ、涙が溢れてしまいました。



今回の大会を通して、技術面でも精神面でも自分の未熟さを痛感するとともに、本当に良い経験ができました。私が全国大会に出場できたのは、熱心に指導してくださった先生、一緒に練習を頑張ってきた仲間のおかげです。この経験と仲間への感謝の気持ちを忘れず、これからも練習に励んでいきます。

新人大会を振り返って

〔岐阜県高校弓道新人大会 女子団体〕

〔岐阜県高校弓道新人大会 女子個人〕

岐阜各務野高等学校 多田 あん

私たちは新人大会優勝を目指し日々練習を重ね、女子団体優勝、女子団体技能優秀賞、女子個人優勝、女子個人技能優秀賞をいただくことができました。

岐阜各務野高校には道場が無く、たくさんの練習時間を確保することができません。そこで、普段の練習では部員一人一人が素早く行動することを意識し、無駄な時間がないように心がけていました。また、てきぱきと行動しながらも、スリッパをきちんと揃えることや、立ちに入る前の準備を入念にすることなど、丁寧に誠実な練習態度も心がけるようにしました。さらに、人数が少ない中で練習内容を充実させるため、先生やコーチが立ちの仕事を手伝ってくださり、色々な方面からサポートしてくださりました。

団体戦では、誰かに頼る立ちにならないようにするため、一人一人が個人の目標を達成し、結果的にチームの目標である15中に届くことができるように練習を重ねました。予選一回戦では、目標を達成することができましたが、予選二回戦とトーナメント一回戦は14中で、目標に届きませんでした。しかし、準決勝では16中、決勝では17中と、その日の最高の中を出すことができました。全員が最後まで自分のやることに集中し、途中で崩れても立て直し踏ん張ることができた試合だったと思います。選抜大会で優勝したことにより、「負けたくない」「偶然だと思われたくない」という気持ちが芽生え、プレッシャーを感じることもありましたが、やるべきことは何も変わらないと一人一人気持ちを切り替えて試合に臨むことができました。また、二年生が四人しかいないため、今回の大会では一年生も含めた初めての五人立ちのチームで試合に臨みましたが、一人入った一年生は、自分で決めた目標をしっかりと達成し、チームに大きく貢献してくれました。

個人では、一本も外さないことを目標に、限られた練習時間の中で誰よりも矢数をかけることを常に意識していました。予選は順調に一本も外すことなく通過することができましたが、三回戦では立ち順が変わり、普段あまり引かない第一射場の大前になってしまったため、とても緊張して一本目を外してしまいました。四本目でやっといつもの射をすることができましたが、今回の大会では12射中11中という悔しさの残る結果となりました。

今後はインターハイに向けて悔しい思いをしないように、この大会で得た経験を活かしながら、今まで通り毎日の練習を積み重ねていきます。



2. 弓道部の日々

弓道部の日々

大垣北高等学校 寸田 和紗

私たち大垣北高校は、現在 40 人が所属し、東海大会・全国大会出場を目指して活動しています。今年度はたくさんの一年生が入部してくれたことで、より活気のある練習となっています。

週 2 回の 7 限授業や活動時間の制限などもあり、練習時間は決して長くはありません。今より上を目指していくには足りないと思います。そのため、準備を早くして練習時間を確保したり、質の良い練習をしたりすることを意識しています。部活の前後などに自主練習に励む部員も多いです。また、週に 2 回、外部講師の先生にご指導いただき、正しく中る射型を学ぶとともに、所作や礼儀も教わっています。教わったことをノートなどに記録したり、自分の射の動画を撮影したりと、それぞれが課題を持って練習しています。

私たちの良さの一つは、仲の良さだと思います。仲が良いと言っても、馴れ合いではなく、練習が始まると真剣な雰囲気になります。団体戦では、技術や精神力はもちろんですが、チームの絆が重要だと私は考えています。だから、大会前には練習後にチームでミーティングを行うことで、互いの課題を共有したり、親睦を深めたりして、「チームで戦う」という意識を高めています。今後は、もっと部員同士の教え合いを増やすことで、自分ではわからない違いに誰かが気付いて教えてもらえるような、より高め合える関係を目指したいです。

私たちは自分一人の力で弓を引いているわけではありません。試合の送迎や費用面・精神面などでいつも支えてくださる保護者の方々、指導し見守ってくださる先生方、辛いときに寄り添ってくれる仲間たちなど、たくさんの支えのおかげで、こうして全力で部活に打ち込むことができています。恵まれた環境を当たり前と思わず、常に感謝の気持ちを忘れないようにしたいです。

2 年生にとって、引退までに残された時間はとても短いです。大好きな仲間と、大好きな場所で、少しでも長く弓を引くために、目の前の一本を大切に練習していきます。

「弓道部の日々」

東濃実業高等学校 平井 壮汰

私たち東濃実業高校弓道部は、2 年生 21 名、1 年生 6 名（男子 13 名、女子 14 名）で活動しています。平日は放課後に 2 時間、休日は土曜日の午前中に 3 時間練習を行っています。週に 3 回（月・火・木）は、外部講師の先生にも来ていただき、指導を受けています。より良い射型で正しく引けるように自らの課題と向き合いながら日々、射技の向上と体配の習得に励んでいます。

また、大会や試合で良い結果を残すことを目標に、部員同士がお互いアドバイスしながら活動しています。一方で、部員数が多いことから全体の考えがなかなかまとまらなかったり、練習に対する温度差が生じているのが現状の課題です。なので、「団体」や「チーム」としての意識をこれまで以上に高めながら、全員が同じ方向を向いて切磋琢磨できる部を目指しています。そのため、普段の練習から緊張感をもって、短時間でも集中した稽古ができるように心がけています。大会や試合になると周りの空気にのまれ、さらに当てなければならぬという緊張などで普段通りに引くことができず、今

まで思うような結果を残せずにいました。反省する中で、普段の活動から意識を変えて取り組む必要があると考え、できるところから変えていくことにしました。少しずつですが県大会へ進める機会も増え、県選抜大会では男子団体が入賞することができました。これで満足することなく、今後も稽古の在り方を常に考えながら、練習方法などについても工夫して取り組んでいきたいです。

私たち2年生にとって、来年度が最後のチャンスとなります。高校卒業後も弓道が続けたいと思っている部員も何人かいますが、このメンバーで弓を引くことができるのは最後になります。残された時間の中で、どれだけ真剣に弓道と向き合い、また自分と向き合うことができるのか。より高みを目指して挑戦していきたいです。そして、最後まで全力で弓道を楽しみながら、今までで一番良い結果が残せるよう、日々の稽古に励んでいきたいです。

最後に、1年生から今に至るまでこうして弓道が続けてこれたのは、指導してくださる先生方やいつも応援してくれる家族の協力あってのことだと思います。周りの人への感謝を忘れずに、今できることに全力を尽くす覚悟です。

弓道部の日々

麗澤瑞浪高等学校 早川 純人

私たち麗澤瑞浪弓道部は、高校2年生8名、高校1年生12名、中学3年生7名、顧問の先生3名、コーチ2名の計32名で活動しています。

麗澤瑞浪は中高一貫校であり、中学3年生の夏に中学部活を引退した直後に高校部活に入部できるため、他校より約半年早く弓道を始めることができます。

部活は火曜日から金曜日までの放課後と土曜日の午前中の週に5回あり、個性豊かなメンバーが互いに競い合い、支え合うなどして日々成長しています。また、遠近や競射、紅白的や同時打ち起こしなど普段の練習の他に「試合」や「チーム」を意識した練習もしています。しかし、これらの練習などにより当て射になってしまうメンバーが多く、早気になってしまうメンバーが少なからずいます。

令和5年度に新型コロナウイルスが5類に下がりコロナ禍前の生活が戻ってきました。練習時間も以前より増えたのも事実です。しかしその分課外活動や授業が増えたり、生徒会活動等で途中から練習に参加する、練習に参加できないメンバーも少なくはありません。それにより、大会1週間前になっても団体練習が思うようにいかなかったり、伝えるべき情報がうまく伝わっていなかったりと、「時間の使い方の重要さ」と「部活を動かす難しさ」を感じました。

部活をやっていて一番印象を受けたのが、中途半端が多いことです。射位に上がる際、麗澤瑞浪が流派としている本多流ではない流派で上がる、斬新をせずにリアクションを取ってしまうなど、弓道をスポーツとして捉えている節があります。したがって、弓道への意識の改善が必要だとわかりました。

弓道とは、「自分自身との戦い」だと私は心得ています。しかし、その「自分」が待つ土俵に立つには様々な人の助けが必要になります。指導してくださる顧問の先生やコーチ、支え合う仲間、意志を繋ぎ残して下さったOB,OGの方々。皆様への感謝を忘れず、1射1射を大切にしていきたいと改めて感じました。

弓道部の日々

中津商業高等学校

私たち中津商業高等学校は優雅凛然という姿を目標にして、試合、審査の両方に通用するような射を目指しています。まず試合に向けて練習している事は二つあります。一つ目は見通しを持つということです。中りや調子をちょうど試合の日までに上げるためには、試合まであと何日なのかという事を常に頭の中に入れておくことが大切だと思います。その見通しに沿ってその日の練習で意識したいことや重点に置きたいことを考えています。そうすることで万全の状態での試合を迎えることができると思います。二つ目は自分を見るという事です。普段の練習や競射の結果から今の自分は何が足りていないのか、どこが弱かったのかなどを各自で確認することを大切にしています。そうして出た課題を次引くときに意識しています。



次に審査に向けて大切にしていることは二つあります。一つ目は正しい射を目指すことです。試合と違って審査は、中りではなく、

どれだけ正しい射ができているかを見ていると思います。そこで個人、一人一人が正しい射の形に自分をはめ込むことを大切にしています。二つ目はお互いに確認することです。自分では正しくできているように思っている、審査員から見た時にはできていないという事があります。そこで、友達からの視点でできているか見てもらうことで、見えていなかったことや、本当はできていなかったことなどに気づくことができると思います。

私たちは部全体の仲の良さを大切にしています。仲が良ければアドバイスをしたり、部全体の矢を選手に託すことができると思います。だから私たちは日々、成長していけると思います。

このような事を中津商業高等学校は意識しながら練習をしています。

弓道部の日々

吉城高等学校 水口 愛菜

私たち吉城高校弓道部は、高校に入ってから弓道を始めた十六名（二年生二名、一年生十四名）で活動をしています。

普段の練習は学校にある弓道場で、週に三日程度、放課後の十六時から十七時半まで行っています。放課後には部活動以外の様々な活動があるため、全員で集まって練習できる日は少なく、時間も短い上に、私たちの学校の弓道場はとても狭いため、思うように矢数をかけることはできません。しかし、私たちは少ない練習量の中で、少しでも上達できるようタブレットで自分自身の射を撮影し、客観的に確認して直すなどの工夫をしています。また、外部講師の先生にご指導いただける日に積極的に質問ができるように、常に体の使い方をきちんと意識しながら、一本一本の矢を大切に丁寧に引いています。

私たちの目標は、県大会出場と審査での三段取得ですが、まだあまり結果を残すことができていません。練習中の雰囲気も関係するのではと考え、大会や審査の時と同じような緊張感を持った中で弓を引くようにしました。

今後も、この目標を実現することができるように、指導してくださる外部講師の先生、顧問の先生方や部員と共に、一人ひとりが工夫して、全力で練習に取り組んでいきたいです。

3. 学校弓道の目標

学校弓道の目標は、他の教材の場合と同じく、身体的発達、知的発達、情緒的発達、社会的発達、安全や余暇活動についての発達等の側面から、弓道の特徴に応じて考えられなければならない。したがって学校弓道の目標は次のように考えられる。

- (1) 脊柱を伸展し、胸郭を拡張し、常に正しい姿勢を保つ態度、習慣を養う。
- (2) 筋肉の伸縮性、関節の可動性を高め、筋力を増し、神経の機能を向上させ、筋神経の協応を促進させ、持久力を増す。
- (3) 内臓諸器官、特に呼吸器の機能を向上させ、身体を調和的に発達させる。
- (4) 押す、引く、的にあてるなどの基礎的運動能力を発達させる。
- (5) 弓道の性格、効果、実施方法等について理解させる。
- (6) 仲間や相手の立場を尊重し、礼儀を重んじ、正しい権威に従い、協同を尊び、最善をつくして美しく競技するスポーツマンシップを養う。
- (7) 情緒を安定させ、よい社会的態度を発達させる。
- (8) 自他の安全について理解し、細心に、積極的にこれを守る態度、習慣を養う。
- (9) 施設や用具の使用及び修理に必要な理解、態度、技能を養う。
- (10) 自己に適した余暇活動を選択し、余暇を健全に活用し、健康生活を实践する理解、技能、態度、習慣を養う。

4. 弓道の特徴

弓道は人類の歴史とともに古く、はじめは主として、狩猟や武技として発達した。しかし運動形式が素朴で特殊の興味があり、万人に楽しみ易いためにその実用性を失ってから遊戯やスポーツとして永く人類に親しまれている。いま特徴をあげれば、およそ次のように考えられる。

(1) 全身の筋肉の静的緊張と努力を要求する運動である。

一回一回に要する緊張努力の時間は比較的短い、全身的に緊張し、瞬時に解放されるために、深呼吸を伴い血行を促がし、内臓器官を発達させ、筋力を増すことができる。

(2) 正しい姿勢を要求する運動である。

正確な命中のためには、安定した正しい姿勢が要求される。そのため背柱は伸展され、胸郭は拡張され、上下、左右に均衡のとれた正しい姿勢を育成するのに役立つ。

(3) 正確さを要求する運動である。

筋神経がよく協応しなければ、正確な的を期することはできない。そのため筋肉の伸縮性、関節の可動性を高め、筋力を増し、神経機能を向上させ、筋神経の協応を促進することを要求する。また回数を重ねることによって、その正確さを持続する持久性をも養い、結局は、押す、引く、的にあてる等の基礎的運動能力を向上させるのに役立つ。

(4) 自己統制を要求する運動である。

弓道の本質は、自己と弓矢及び的との合一にある、したがって情緒の安定が強く要求され、冷静、自制、分析、決断の精神機能が増進される。

(5) スポーツマンシップを要求する運動である。

仲間や相手を予想する場合の弓道は、必然的にスポーツマンシップを要求する。すなわち、互に精神統一を必要とするから、仲間や相手の立場を尊重し、礼儀を重んじ、正しい権威に従い、協同

を尊び、最善をつくして美しく競技する態度が要求され、したがってスポーツマンシップが体得される。観衆もこの雰囲気に入れば、スポーツマンシップの精髓を感得することができる。

これらのことすべて社会性の発達に役立つ。

(6) 安全についての発達を促す運動である。

不注意に弓を引けば傷害が起り易いので、実施者も見学者も共に傷害防止に細心の注意を払うことが必要である。すなわち実施者は弓具を点検し、注意深く弓を引き、見学者は所定の規律に従い、注意深く見学することが要求される。これは自他の安全を守る理解、技能、態度、習慣の育成に役立つ。

(7) 個人でも楽しく行うことのできる運動である。

弓道は本質的に自己と的との関係において行われ、成功・失敗の原理によって興味が持続されるから、自由な時間に個人でも楽しんで行うことのできる運動である。

(8) 誰でも行うことができる運動である。

弓道は誰でも簡単にはじめることができる。また弓の強さ、距離、時間、回数等は自由に変えることができ、室内でも屋外でも行うことができる。すなわち性、年齢、身体の強弱に応じて誰でも適当に行うことができる。

(9) 疲労の少ない運動である。

弓道は1回毎の緊張、努力の時間が比較的短く、かつ各回の間に適宜に間隔をおくことができるから、特に長時間中断なく継続しない限り、疲労することが少なく、レクリエーションスポーツとしても好適な運動である。

(10) 知的発達を図り、教養を高めることのできる運動である。

弓道は歴史の古いものであり、技術的に、精神的に深い研究のつめられたものであるから、その一端にふれることによって、つきざる興味を覚え、知的に研究する動機をつくり、高尚な趣味としての教養を高めることができる運動である。

5. 弓道の歴史

弓矢の発生は人類の経済生活と、その発端をほぼ同じくするもので、世界の何れの国でも古代より使用された。始めは多く街獵、魚獲の用具として用いられ、人間生活に密接な関係をもったものである。また戦いのために飛道具の役をつとめた時代には最も進歩した武器であったに違いない。

我国においても同様の経過をたどってきたが、時代の進歩に従い、鉄砲の輸入となり、弓は武器としての効用を失い、かつ武家政治の没落後は単に祭祀に用いられ、または娯楽の具として衰退したが、近年射法にも、用具にも大きな改善が加えられ、心身の修練に役立つスポーツとして新しい方向に向ってきた。

日本の弓道史の概要を次に述べよう。

- (1) 古代は武器とすると共に尊皇尚武の気質を養う聖器として尊重された。
- (2) 奈良時代の中期より平安時代に至る頃（八世紀の初めから九世紀の初めにかけて）には多分に中国の弓道の影響を受け、孔子、孟子あるいは「礼記」（らいぎ）、「中庸」（ちゅうよう）等の射の教えが加わり、文化的な方面に発展している。

この時代には皇室においても射礼（皇室における弓の儀式をいう）の式典が行われ、弓道は朝廷の諸儀式に取り入れられて、文武百官の間に大いに奨励された。しかしこの射礼を理解して行うには相当の学識と技能とを要するので上層階級に限られ、一般庶民には普及されなかった。
- (3) 平安時代の末期（十二世紀の中頃）即ち武家勢力が起こり、戦乱相つぐ時代から数百年は精神的に、文化的に尊重された弓も再び実利的に闘争の武器と化し、殺傷の道具に使われた。このように実用化した結果、射術の進歩を促したことは当然で、室町時代の中頃（十五世紀の末期）より射術の研究は大いに進み、著名な大家が多く現われ、諸流派の始祖も多くこの時代の人である。
- (4) 小笠原流の基礎を確立したともいわれる小笠原貞宗（おがさわらさだむね：流祖は貞宗五代の祖長清といわれる）は後醍醐天皇に仕え（十四世紀の中頃）、起居動作の方式を定め、射術を教えたが、明応年間（十世紀の末頃）には日置弾正政次という人が出て、射術の妙技を極め、目置流（へ

きりゅう)を創始した。この日置流は後に吉田流と、日置七流と称される雪荷派、印西派、道雪派、竹林派、大蔵派、左近衛門派、寿徳派の各派を生んだ。竹林派には尾州竹林派と紀州竹林派の二派があり、本多流は尾州竹林派より出ている。

(5) 流鏑馬(やぶさめ)、犬追物(いぬおうもの)、笠懸(かさがけ)、大的、小的、草鹿(くさじし)等の儀式は武家時代に制定され、その後大いに奨励され、盛んになった。

(6) 天文十二年(十六世紀の中頃、西紀1543年)鉄砲の伝来以来、弓矢は武器としての効用を次第に失ない、戦乱の世も静まるに至り、武士は禅や儒教の観念を武芸に取り入れ、心身を鍛えるという傾向が強くなった。他方一般民衆にも弓は普及され、射術は更に進歩している。

三十三間堂通し矢なども、この時代に盛んに行われ、星野勘左衛門、和佐大八郎等の名高い射手を出している。(江戸時代)

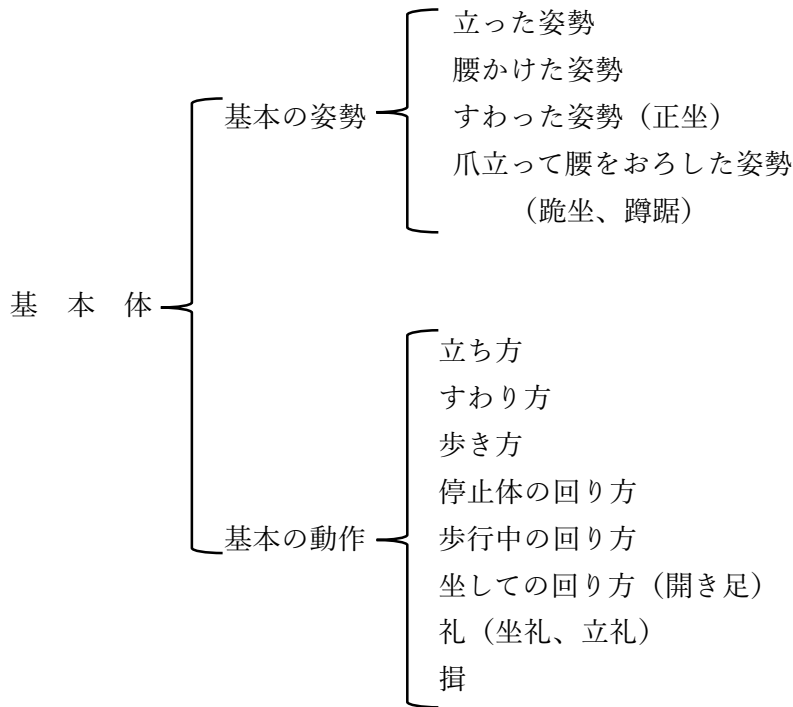
(7) 江戸時代の末期から明治の中期までは(十九世紀の中頃から末頃にかけて)弓道の最も衰微した時代である。弓道は一般民衆に残されたとはいえ、中には低級な娯楽の一種となった。この極度の衰微を憂えた当時の有識の弓道家は、心身の鍛練という弓道本来の使命に復帰させるために技術的にも、精神的にも非常な努力を払って改革運動を続けた。その結果、明治の末期よりしだいに改革され、広く老若男女の間に普及し、学校にも職場にも取り入れられ大正、昭和の時代には大いに発展した。

(8) 大戦後は生活の関係や、資料の不足による一方、学校弓道の中止と相まって一時弓道界は衰退したが、昭和24年5月、弓道愛好の人々によって日本弓道連盟が結成され、新しい構想の下に弓道の発展に努めてきた。

昭和26年7月文部事務次官通知「学校における弓道の実施について」により中学校以上の学校で弓道を体育教材として採用できることになった。

昭和31年、全国高体連に弓道専門部が新設。昭和42年3月、文部省発体120号の通達により、弓道が高校正課体育種目として体育の時間に指導することが可能となった。また、平成元年、高等学校学習指導要領改訂にともない、「格技」が「武道」と改められ、これまで「格技」ではなく「個人種目」に含まれていた弓道は、「武道」の領域に含まれることになった。

6. 基本の姿勢と動作の様式

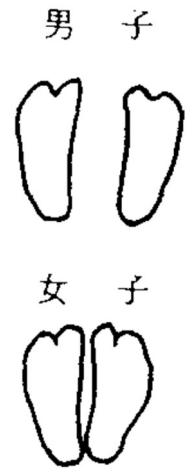


基本の姿勢

立った姿勢

常に自然体（第三者が見て、骨格にあった無理のない姿勢）を保持する。すなわち、両足をほどよく平行にそろえ、膝頭をしめ、腰を据え、上体を正しく保ち、項（うなじ）を真直ぐに伸ばし、目づかいを正しく、耳たぶが両肩におちるようにして口を軽くとし、心気を丹田におさめ、胸、肩を楽にして立つ。重心は足の土ふまずのやや前方におく。両腕は自然に垂れ、手に力をいれず（小指を伸ばす心持ち）指を開かず、掌（たなごころ、てのひら）は心もちくぼみをもち、軽く両腿のやや前方に置く。目は鼻頭を通して約4メートル先に注ぐ。

両足は、男子は2cmほど開いて平行にそろえ、女子は、足をそろえる。



腰かけた姿勢

椅子になるべく深く腰をかけ、両足をほどよくそろえ腰を据え、上体を正しく保ち、項を真直ぐに伸ばし、胸、肩を楽にする。両手に力をいれず、指を開かず（掌は心もちくぼみをもつ）腿の上におき、肘を張らない。口は軽く閉じ、目は鼻頭を通して約三メートル先に注ぐ。椅子にかけるときは、下座の方からかけ、立つときも下座の方に出る。

坐った姿勢（正坐）

両足の拇指を重ね、両膝の間隔は、男子は約一挙、女子はなるべくつける。腰を据え、上体を正しく保ち、項を真直ぐに伸ばし、心気を丹田におさめ、胸肩を楽にする。肘は張らず、縮めず、手に力をいれず、指を開かず腿の上におき、指先はやや内側に向く。

口は軽く閉じ、目は鼻頭を通して約2メートル先に注ぐ。

爪立って腰をおろした姿勢

(イ) 跪坐（きざ）

座っての爪立った姿勢を跪坐といい、いつでも次の動作に移ることのできる構えである。物を持ったときは、物を待った方の膝を生かす。両手に物を持ったときは、主たるもの（弓矢の場合は弓）を持った方の膝を生かす。膝を立てるのではない。膝を生かした場合の大腿部の角度は約45度、膝頭と床との間隔は掌がはいる程度である。これは持った用具を体の一部と心得、生命が通っていないかならないために「生かす」ということばを使っている。足は双方そろい、踵が開かないようにつけ、爪先はなるべく体の内側に入れること。

(ロ) 蹲踞（そんきょ）

両足を揃えたまま爪立って膝をつかずして腰をおろした姿勢を蹲踞という。

基本の動作

立ち方

坐った姿勢から立つ場合は静かに気持ちを落ち着け、上体を正しく保ち、吸う息にて腰を伸ばしつつ、一方の足の爪先を立て、次に他の足を爪立て、息も吐き、吸う息にて足を踏み出し（踏み立した足の踵はつけない）、爪先を軸として胴造りをくずさないように立ちつつ他方の足をそろえ、（項を伸ばし）息を吐く。

跪坐の姿勢から立つ場合は、すでに両足の爪先が立っているので、その後の動作は前述のとおりである。

すわり方

(イ) 正坐

立った姿勢から吸う息にて右足を約半足後方に真直ぐに引き、息を吐く。つぎに上体がくずれないように、また腰がまがらないように「胴造り」を保ちつつ、吸う息で腰を沈め、後方に引いた右足の膝を床につけつつ、左足の膝頭をつけ両膝頭をそろえ（腰を送りこむ）、腰を決め、片足ずつ両足の爪先を伏せ、両拇指を重ね（またはつける）、静かに尻を両踵の上におき、息を吐く。このとき上体を真直ぐに伸ばすことを忘れてはいけない。

(ロ) 跪坐（きざ）

前述のとおり坐って両膝頭をそろえ、踵をつけ爪立った姿勢となり、物を持ったときは、主たる物を持った方の膝を生かす。

歩き方

立った姿勢で目づかいに注意し、「胴造り」をくずさず、膝をまげないように、またなるべく足の裏が見えないように、腰を軸として体を送るようにし、床をすべるように滑らかにかつ静かに呼吸（氣息）に合わせて上体を運ぶ。

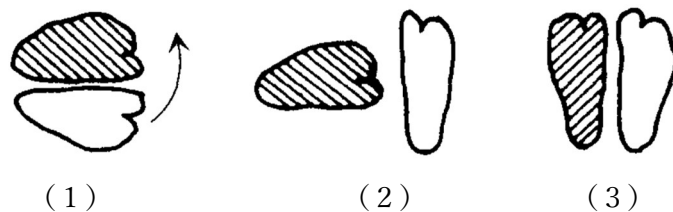
男子は2メートルをおよそ三步半で、女子は四歩半で歩くのがよい。ただし体格によって歩数は多少異なる。

執弓（とりゆみ）の姿勢で歩く場合は弓の末弭（うらはず）を床につかないよう、床上10センチ位の高さに保つようにする。

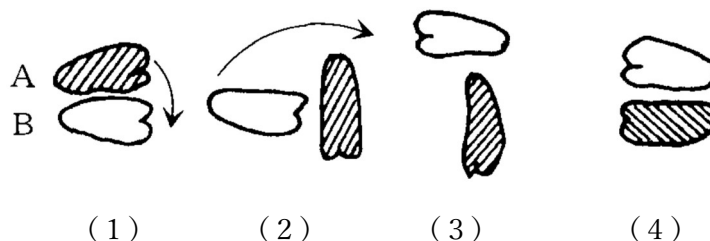
停止体の回り方

立ったまま停止している位置で向きを変える場合は、まず目的の方向に意を注ぎ、腰を回しつつ向きを変えようとする方の足を爪先に、他方の足を直角にT字形にかけ、ついで両足をそろえる。後方に、回る場合は、一方の足（A）を他方の足（B）の爪先に直角にT字形にかけ、ついで（B）の足を（A）の踵に直角丁字形にかけ、（A）の足を（B）の足にそろえる。

左に向きを
変える場合



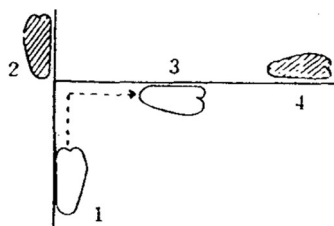
後方に
回る場合



歩行中の回り方

歩行しつつ右に向きを変える時は、左足を踏みすえ、右足を向きを変える方向に小足にL字形に踏み出し、ついで左足を常の如く踏み出して進む。左に向きを変えるときは、その反対に運ぶ。

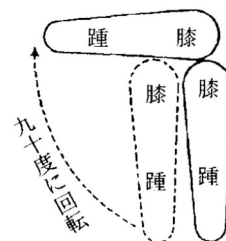
停止体、歩行中のいずれの場合にも足だけでなく、腰を回す気持ちで回り、上座に背を向けないこと。



歩行中向きを変える場合

坐しての回り方

跪坐の姿勢から（一方の膝が生きている場合は一度両膝を床につけ）吸う息で腰を真直ぐに伸ばし息を吐く。ついで回る方向に意を注ぎ、息を吸いつつ腰を回しながら、左に回るときは右膝を左の膝頭に90度に運び（両膝がなるべく離れないように）、ついで右踵に尻をつけるように腰を深く回して向きを変える。これにともなつて左足は自然に右足により跪坐の構えをとって、息を吐く。すなわち一息で回る。右に向きを変える時は、その反対に運ぶ。これを「開き足」という。



坐しての回り方（例－右回り
一点線の方向に動く）

揖（ゆう）

揖においても、至誠、礼節に徹し、感謝の念を表わすものでなければならない。弓射を行う場合、定め座の礼と同様の気持ちで、本座における最初の揖は「お願い致します」「只今から演武させていただきます」終わったときの本座の揖は「ありがとうございました」「無事終わりました」と感謝の気持ちをもって行うことが望ましい。場および的との結びつきもこの時さらに定まる。

揖の動作は、立った姿勢またはすわった姿勢で、礼のときと同じく呼吸に合わせて上体を約10センチ屈し、揖を終えたのち、上体を静かに上に伸びるようにして起こす。両手の位置はそのままにして動かさない。

この場合も、背を丸めたり、首をまげないように注意することが肝要である。

礼（れい）

礼は相手に対し恭敬、親愛の心を形に表わすことである。誠の心のない形だけのものでは礼にならない。礼は、深い教養が表に現われ、威儀があり、典雅な動作であることが肝要である。道場においては、武の構えが必要であり、時・所・位に応じて礼を行うことが大切である。

7. 射 の 基 本

1本の矢を正しく射る動作の基準を、「射法」というが、この射法を正確に実現するには、基本を知っておく必要がある。

全日本弓道連盟編集の弓道教本（以下弓道教本）では、この射の基本を、次の5項目としている。

- 1 弓の力（弓の抵抗力）
- 2 基本体型
- 3 呼吸（息合い）
- 4 目づかい
- 5 心・気の働き

以下、これらについて解説する。

1. 弓の力

自分の技量を、最もよく発揮できるような強さの弓を使用しなければならない。

弓を引き込むには、筋力が必要である。しかし、筋力の強い人が、必ずしも強い弓が適当である、とは限らない。

陸上、あるいは水泳などで、自己流で練習していたものが、適切なコーチを受けると、急速に記録が更新されることが多い。これは、筋肉の上手な使い方の訓練を受けるからである。

弓道では、これがはっきり現れる。初心者頃は、弱い弓でも満足に引き込めないが、練習するに従って、スムーズに引けるようになる。これは、無駄な筋肉を使わないで、上手に筋肉を使えるようになるからであって、筋力が増したわけではない。

初心から、1年くらいの中に、2~3回ほど、順次に弓力を強める必要がある。

弓が弱すぎると、引き過ぎたり、手首の力だけに頼るようになる。従って矢所（矢の行ったところ）が一定しないので、高い中率は望めない。逆に強すぎると、十分に引き込めないで、左前腕を弦ではらったりいろいろな悪い癖が出て、矢は前（的に向かって右側）の方へ行きやすい。

適当な弓の強さはどの程度かという点、習熟度や個人差によって、明確な答は出せないが、先生や先輩の指示を受けるのが最良であろう。各自で決める方法として、同じ強さの弓2張を同時に引き、ようやく肩入れ（右指4指を弦にかけて、右肩の上まで引き込むこと）できる弓の1張、つまり、引き込める最高限度の力の半分が適当であるといわれている。

2. 基本体型

縦線の構成

両足底一腰一両肩が上方から見たとき正しく一枚に重なり、脊柱、項（うなじ）が上方に伸び、下半身を安定させるとともに上半身を伸ばす。

これが「三重十文字」と称され、縦線を構成する。

横線の構成

両肩を基点として両肘、左右両腕の張り合い、すなわち両腕を貫通して胸の中央で左右均等に張り合うことが大切である。拳や手先の力のみで張り合わないよう心がけなければならない。

この縦線、横線の組み合わせが「縦横十文字の規矩（きく）」と称され、基本の体型となる。弓道ではこの「縦横十文字の規矩」を最も重視する。さらに、射の運行に伴って、次の五カ所の十文字を構成し、総合的に働かせることを射の基本として「五重十文字」と称している。

- ① 弓と矢
- ② 弓と押手の手の内
- ③ 「ゆがけ」の拇指と弦（：ゆがけ・かけ）
- ④ 胸の中筋と両肩を結ぶ線

⑤ 首筋と矢

「会」の状態、上の五カ所がそれぞれほぼ直角に十文字の形態をなしていなければならない。射法八節はこの基本体型を作り上げる方法として、その法則を説明している。

(注)「三重十文字」の「重」は三つの重(かさ)になった十文字の意味であるが、「五重十文字」の「重」は五つの重要な十文字の意味である。

3. 呼吸(息合い)

呼吸には生理的な肺自体の呼吸と、訓練により動作に合わせた呼吸がある。動作に合わせた呼吸を「息合い」という。

呼吸に合わせた動作：歩行、揖(ゆう)、礼など

動作に合わせた呼吸：射法八節など

この呼吸、「息合い」により射に活力、気迫が生じて行射に充実感が生まれる。これを「生気体」という。また行射中隙ができたり、気が抜けたり、間延びしたりする。これを「死気体」という。

「息合い」は基本動作を生じ、心の安定、気力の充実をもたらす、息合いの発動の原動力となる。正しい「息合い」ができるためには、静かな長い呼吸が自然にできるよう修練しなければならない。

4. 目づかい

目は心の現われといわれていて、目づかいは大切である。弓射では的を見つめるほかに、場全体に気を配る必要があるため、一点を見つめることはない。

目の高さの約2倍半離れたあたりの床面の点に視点をおいて、目は動かさず、視界のすべてに気を配る目づかいは大切である。

視線が動くことは、心の動揺、落ち着きのなさの表れで、してはならないことはもちろんだが、逆に視線を動かさず、心が安定をはかる一つの方法ともいえる。

5. 心・気の動き

射を行う場合、心の安定が第一に必要な条件である。実際に、射を行う場合、当ててやろうとか、上手に引いてやろう、また、逆に当たらないのではないか、欠点ができるのではないか、などと雑念がわきやすいのが、人の心の常である。このような雑念が、射に悪い影響を及ぼすことは、経験から明らかなことである。この雑念・動揺を抑えるのは本人の意志の力、すなわち気力である。

このような自己統制による心の安定が要求される場所に、弓道の大きな特徴がある。

心の問題はその心に対する自己反省がなければ成長しない。毎日の練習の際に、一射毎に技術的な反省はもちろん、その一射における自分の心の在り方についての反省の積み重ねが必要で、これがなければ、心の成長は望めない。

この心の安定を計り、気力の充実を考えることが、射を行うことの根本の条件であることを、自覚することが大切である。

(補足)

心・気の働きを考える場合、行射のなかで、5つの「澄し(すまし)」が大切であるとされている。従来、「澄し」とは、心の動揺を静めて平常心となり雑念を去って

純一無雑の心境となり、注意の中心を丹田に置き、体の配り、力の配りを考え、凝りなきや考慮する機会を言う。

三澄心四澄心五澄心等と言われて、特に澄しに適した場合が示されている。

五澄心とは、①弦調べの際の澄し、②弓構えの際の澄し、③打ち起しての澄し、

④引込みて「持満(じまん)」の間の澄し、⑤残心の澄ましの5つの場合をいう。

また、④の「持満」とは、会における「体」の状態、「心」の状態をさす。

引き込みの骨法正しく、縦軸横軸の十文字がきちんと整い、左右の肩肘・胸背の筋骨お互いに相交和して、心を澄まして的を狙いを定め、精気肢体に満ち来るを待つ間をさしている。

ここまで書かれている「弓道における基本」は、この後の弓を射る動作の土台となる部分である。解説も最小限にとどめてあるが、それでも、高校生の諸君には難解な部分も多い。さらに、この後の射法八節に関わる部分も同様である。

弓道教本第1巻～第4巻や、指導者に説明を受けるなど、自己啓発に努めて欲しい。

また、ここでは弓具の扱いについては述べていないが、弓の張り方、仕掛けの作り方、「ゆがけ」の扱い等、弓道を行う上で必要な事項は多い。これらについても、部活動を通じて習熟に努めて欲しい。近年では、DVDが付属し映像で、方法を確認できる図書も出ているので、参考にして欲しい。
(「基本の弓道」スキージャーナルKK)

8. 矢を射る時の動作の仕方

一本の矢を射る時には「射の基本」や「基本の姿勢と動作の様式」を忘れず、決められた法則にしたがい、一連の動作を行わなければならない。射始めから射終わるまでの動作は八つに分けられ、それぞれに次のような名称がつけられている。

《射法八節》

1. 足踏み（あしぶみ）

2. 胴造り（どうづくり）

3. 弓構え（ゆがまえ）

「取懸け（とりかけ）」、「手の内」、「物見（ものみ）」の三つの動作を含む。

4. 打起し（うちおこし）

5. 引分け（ひきわけ）

「大三（だいさん）」というのは、

「押大目引三分一（おしおおめひきさんぶんのいち）」のことで、

「引分け」の方法の説明に使われる言葉。

6. 会（かい）

7. 離れ（はなれ）

8. 残心（ざんしん）

「弓倒し（ゆだおし）」、「物見をもどす」、「足をとじる」という三つの動作は 残心に含まれるという気持ちで行う。

矢を射るための一連の動作は「弓道教本」に書かれてある内容を理解して練習することが大切である。しかし動作を言葉であらわすことは難しく「弓道教本」の表現も難解な箇所がある。そこでこのしおりでは初心者が矢を射るためにどのような動作を行ったらよいのか立射を中心にわかりやすい説明を試みた。

高校生諸君はこのしおりを参考に顧問や講師の先生に学び、「弓道教本」の内容を理解するように努めて欲しい。

執弓（とりゆみ）の姿勢

矢を射始める前に弓と矢を持ち正しい姿勢をとる。この姿勢は射法八節を行う前の基本となるもので大切である。この姿勢を執弓（とりゆみ）の姿勢とよび以下の点に注意して練習する必要がある。

- ① 執弓とは弓矢を持って正しく立った姿勢、または、跪坐（きざ）した姿勢。

立った姿勢のとき両足は平行に揃え、足の間隔は男子は約3センチ、女子は両足をつける。

（図0-1・2・3・4）

- ② 矢の延長線が弓の末弭（うらはず：弓の先端）に向かい、弦の線とほぼ二等辺

三角形になるように構える。（図-1・3）

- ③ 両拳を腰骨の横（帯の上あたり）に置き、軽く両肘を横に開く。

（図0-1・3：実際には、指の第2関節が袴につく状態になる）

- ④ 立った姿勢では、末弭が体の中心で床面より約10センチの高さになること。

（図0-2）

- ⑤ 座った姿勢では、末弭が床に付く。（図0-4）

- ⑥ 視線は、立った姿勢の場合約4メートル先の床面、腰掛けた場合約3メートル、

座った場合約2メートルとなる。（図0-2）



図0-1

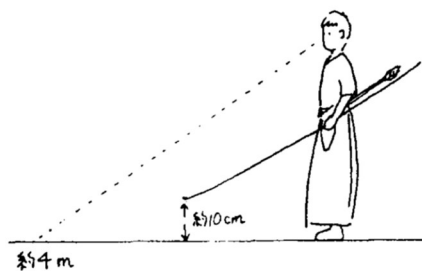


図0-2 立った姿勢

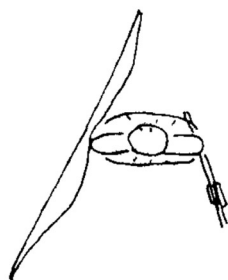


図0-3



図0-4 跪坐した姿勢

MEMO

1. 足踏み (あしぶみ)

1. 足踏みの方法

的を見たまま左足を的の中心に向かって半歩踏み開く。次に右足を左足に引き付け、その引き付けた右足を今度は右へ一足で扇の形に踏み開く。

視線は足踏みが完了するまでの的を見たままである。(図1-1・2)

2. 足を踏み開いてから、視線を的から正面に戻す。(図1-5)

3. 執弓の姿勢を崩さないこと。

① 両足の爪先を結んだ線が、的の中心と一直線上にある。(図1-4)

② 踏み開く幅は、自分の矢束 (やづか) とする。(図1-4)

③ 踏み開いた両足の角度は60度が良い。(図1-4)

④ 体の重心は(図1-3)の交点0の位置になるようにする。

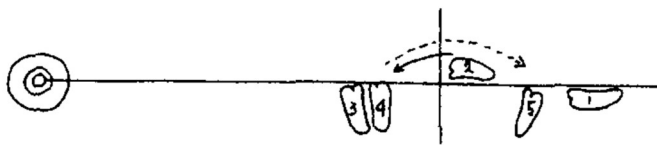


図1-1 立射の場合

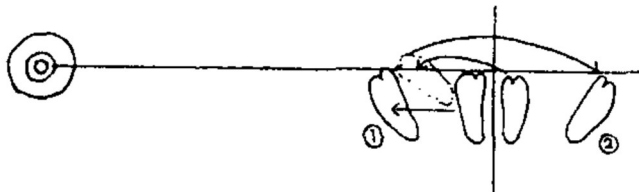


図1-2 跪坐射の場合

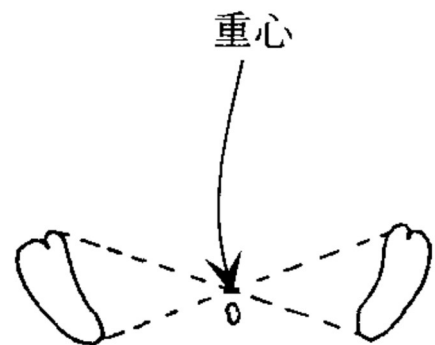
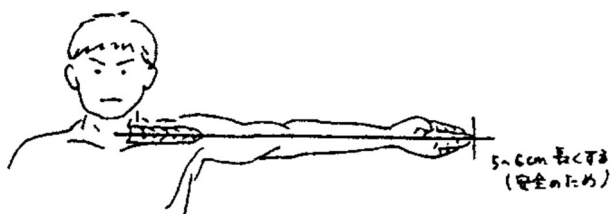


図1-3 重心の位置



図1-4 足踏みと的との関係



矢束の定め方



図1-5

MEMO

2. 胴造り（どうづくり）

- ① 「足踏み」を基礎として両脚の上に体を正しく静かに置く。
- ② 腰を安定させ左右の肩を落とし背骨および頭頂を真直ぐに伸ばす。
- ③ 体の重心を腰の中央におき心を落ち着けやわらかく隙のない体の構えをつくる。
- ④ 体の構えにおいて注意しなければならないのは背骨の線が床に垂直であること、両肩を結ぶ線と両腰を結ぶ線が足踏みの線と平行になることであり、上から見た場合、両肩、両腰、両足が正しく一枚に重なっているようにすることである。（図-2-1）（三重十文字）
- ⑤ 立射ではこの時、矢をつがえ、弓の本弭（もとはず）を左膝におき、右手は右腰の上におく。
- ⑥ 胴造りには反・屈・懸・退・中の5つがあるが、中胴が望ましい。
いずれも目的と場合によって使われる応用動作であり、五胴と呼ばれる。

注意点

矢をつがえる動作は以下の点に注意して行う。

- ① 末弭（うらはず）を床につける。
- ② 握りを持っている手の力をゆるめる。弦は自然と下になる。（図2-2）
- ③ 弓を体の正面に持ち上げる。この場合、左手の拳は目の高さにする。
- ④ 左手は③の状態を保つ。右手は甲矢（はや）・乙矢（おとや）の2本の矢を持ったまま（甲矢を下側にして持つ）、弦の外側を移動させ、左手の拳に重ねるようにする。
- ⑤ 右手を左手拳に重ねた状態のまま、視線を矢に沿って羽根に移し、甲矢、乙矢を見分けてから線を正面に戻す。
- ⑥ 甲矢は、弓を持っている左手の人差指と中指とではさむようにして持つ。
- ⑦ 右手は乙矢を持ったまま、箆（の）に沿って視線とともに箆まで移動させる。
- ⑧ 右手の親指と人差指で甲矢の箆をもち、矢を左方向に移動させる。弦から箆が出ている程度のところで止める。
- ⑨ 弦を箆に入れる。（「弦を箆につがえる」、「矢をつがえる」とも言う。）
- ⑩ 甲矢をつがえた後、乙矢を右の手のひらの上にのせるようにして甲矢を平行になるように差し込む。左手の薬指と小指にはさんで持つ。
- ⑪ 右手で箆を保ちながら（手のひらを手前に向け、親指と人差し指で箆をはさむようにする）、本弭（もとはず）を左膝頭に移動させる。
- ⑫ 次に右手を腰にとり、執矢（とりや）の動作に移る。（図2-3）
- ⑬ 執矢は、右の手のひらを上にし、乙矢の矢じりを薬指と小指で握り、右方向へ抜き取るようにして手を腰にとる。（図2-4）
- ⑭ 正面から見た場合、弓と弦の間に顔が見えるようにする。手首や肘を柔らかにし、物を抱くような気持ちで弓矢を持つ（円相という。）（図2-4）

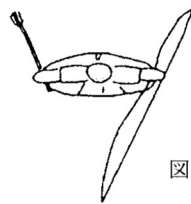


図2-1



図2-2

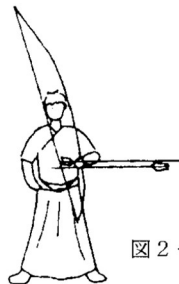


図2-3

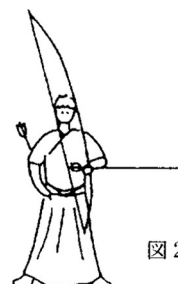


図2-4

MEMO

3. 弓構え（ゆがまえ）

弦調べ・箆調べ（のしらべ）を行い、三重十文字（図2-2）をくずさないように取りかけをし、手の内を整え、物見を定める。

弦調べ・箆調べ

- ① 弦調べは、箆から上下30センチ程度を、上・下の順で顔を動かさず視線だけで調べる。
- ② 箆調べは、箆から箆にそって的に視線を移動する。
- ③ 同じ要領で、視線を的から箆にもどす。
- ④ 肩の力を抜き、両肘を軽くはる。

取りかけについて

- ① 弦を弦枕にかける。[弦を（ゆがけ）の親指の溝にかける。]
- ② （ゆがけ）の中の親指は軽くのぼす。（親指の爪は帽子につく）
- ③ 中指を帽子にのせて軽く帽子をおさえ、人差指は中指に添える。
- ④ 人差指で矢が落ちないように軽く矢を支える。
- ⑤ 弦を取りかけた右手首は折らない。

左手の手の内について

- ① 取りかけがすんだら、左の人差指を矢の下に移し、手の内を整える。

手の内の作り方（図3-1）

- ① 親指根と小指根を近づける。
- ② 中指の線が弓と十文字になるようにして、小指根を弓につける。
- ③ 親指根と人差指根で弓を軽くはさむ。
- ④ 中指・くすり指・小指は軽く弓に添える。

物見について

- ① 視線を箆に沿って的にへ移動し、顔を的にしっかり向ける。

左の手のひらに弓の外竹をあてる

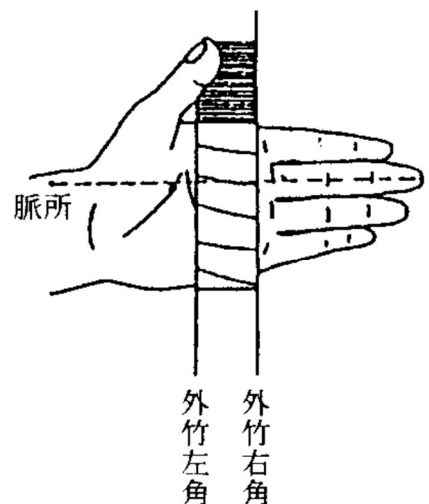
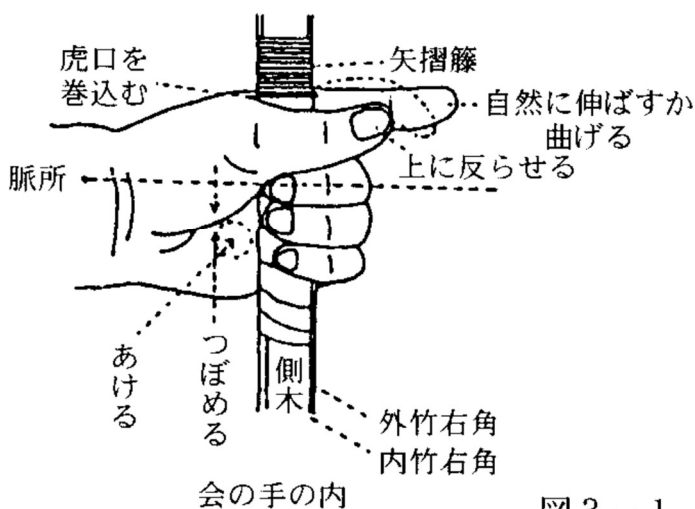


図3-1 手の内

MEMO

4. 打起し (うちおし) (図4-1)

弓構えの位置から、両拳を額よりやや高く上に上げる。

- ① 左右の手の内をくずさないこと。
- ② 矢を水平に保ちながら、両肩を基準にし、両拳ですくい上げるように45度ぐらいの角度になるまで打ち起こす。
- ③ 両肩が上がらないように注意する。
- ④ 体の正面で打ち起こす。
- ⑤ 打ち起こした弓が床と垂直になるようにする。

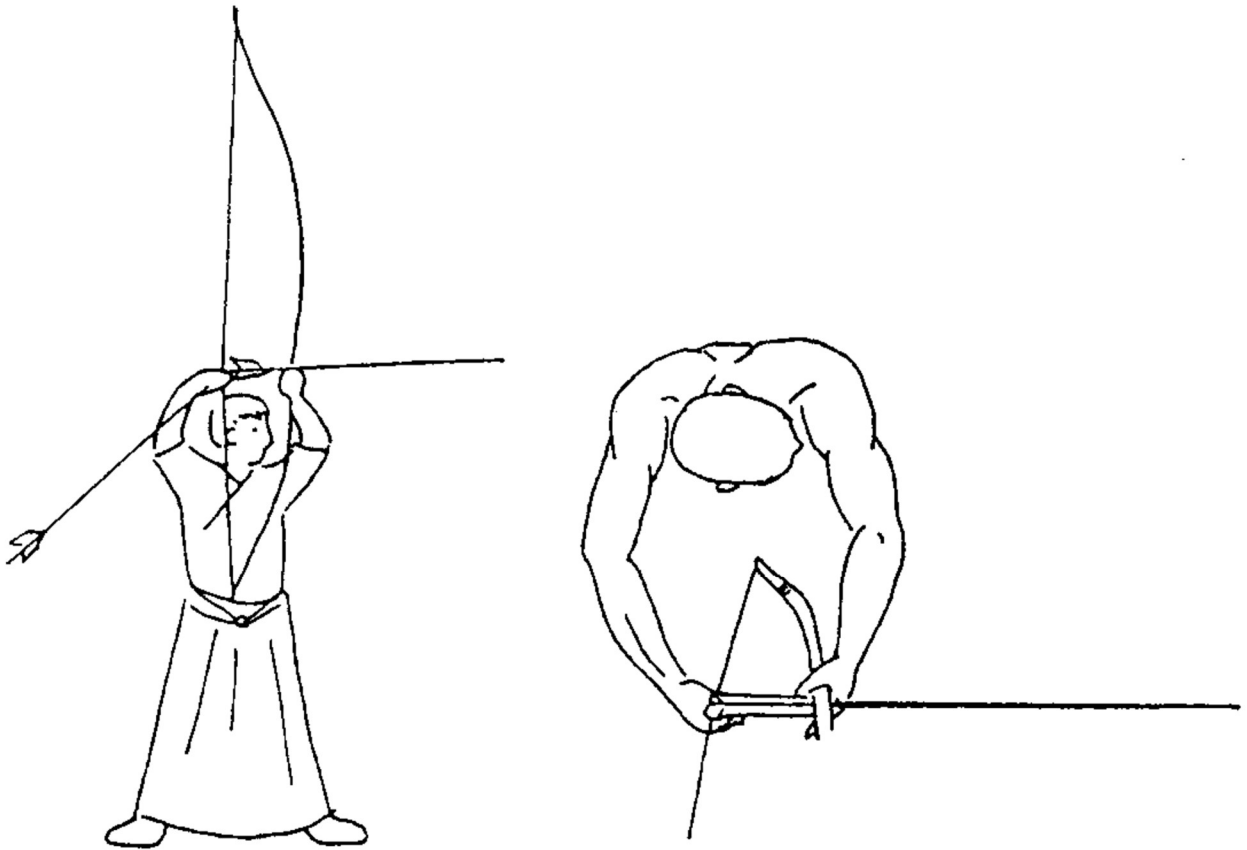
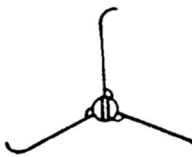



図4-1 正面 上から見た図

<p>[矢の図]</p> <p>矢の後方から見たときの 羽根の付け方が異なる。 甲矢は矢つがえのとき、 羽根が自分の方向に向く。</p>	<p>(乙矢)</p> 	<p>(甲矢)</p> 
--	--	---

MEMO

5. 引分け (ひきわけ)

矢が水平におりてくるように、左右のバランスよく引き分ける。(図5-2)

大三について

- ① 打ち起こしの位置から、左手は弓を左前45度ぐらいに左肩根で押し開く。この時、右手首の力を抜く。
- ② 右手は、肘を支点として手首の力を抜き、弦に引かれるにままする(弦に任せる)。
- ③ 右拳は頭と高さにあり、右拳と頭の間隔は拳一つあるいは一つ半ぐらいである。
- ④ 矢は両肩と平行で、かつ、水平を保つようにする。
- ⑤ 弓を左拳で軽く支えるように持って、左腕で移動するので、弓は手のひらの皮を巻き込むようにして、拳の中で回る。

以上の事が大三といわれる。この位置はバランスよく、最小の力で弓を引き分けることができるポイントである。

大三から引き分けの注意事項

- ① 両拳を矢の延長線上に押し開く。
- ② 矢が目の高さを過ぎたら、胸を開くように引き続ける。
- ③ 矢束いっぱい引いたとき、弦は胸に付き(胸弦)、筈は口の高さ(口割)で頬についている。
- ④ 会までは、呼吸は浅く静かに行ってもよい。(水中の息)

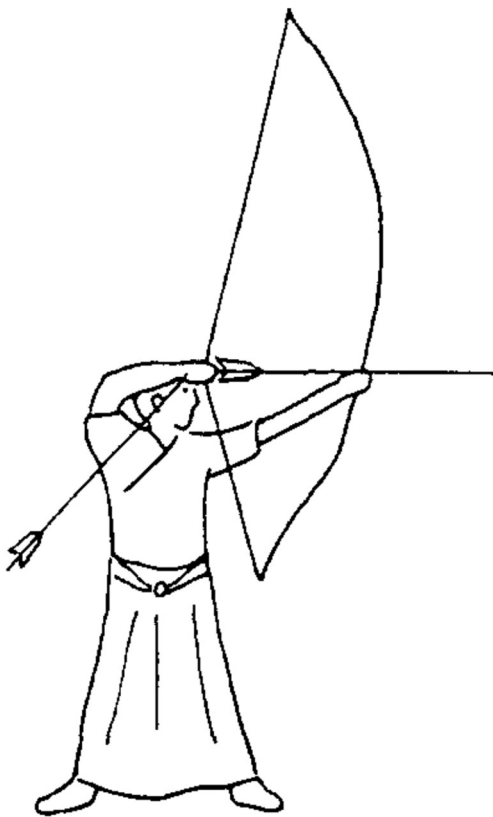


図5-2 大三 正面

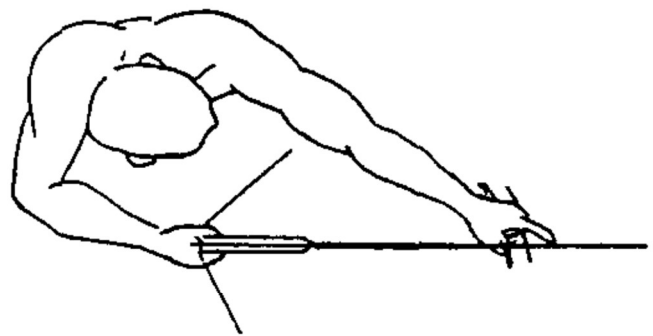


図5-2 上から見た図

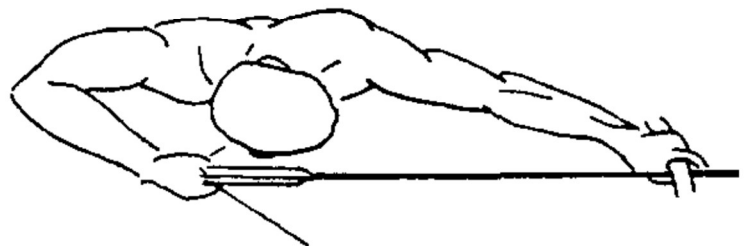


図5-2

MEMO

6. 会 (かい) (図6-1・2)

- ① 引分けが完成された状態をいう。
- ② 引き続けながら、矢が離れるタイミングを待つ。
- ③ 引き続けた横線を、縦線によってより充実させ、離れを誘発する。
(伸合い、詰合い)

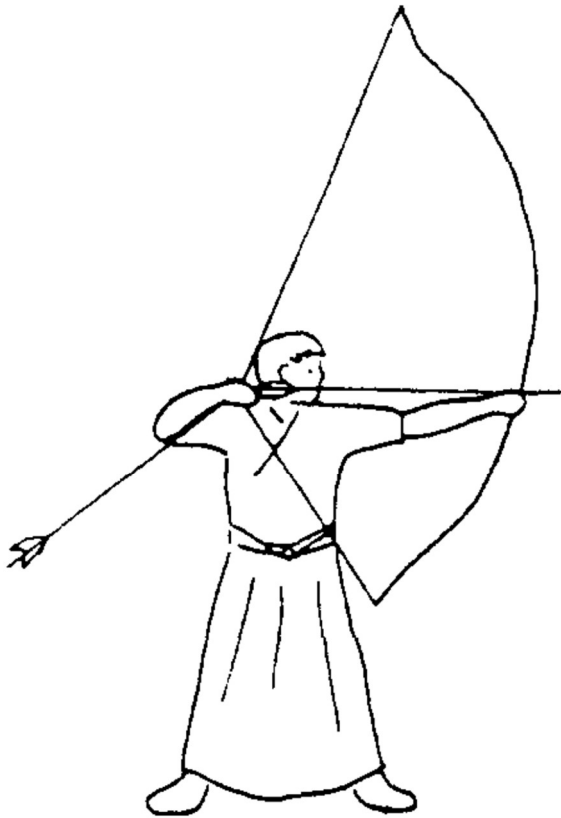


図6-1 会

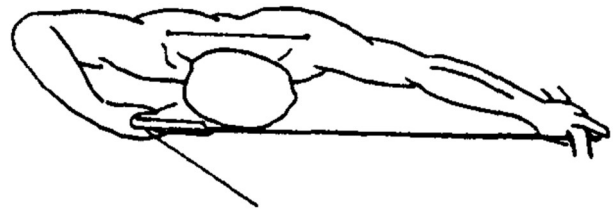


図6-2 両肩の線と矢は平行

的中の安定は、「頬付け」「的付け」「胸弦」の3点が安定することで得られる。

7. 離れ (はなれ)

- ① 両拳を左右に大きく水平に開き、矢を発射させる。
- ② 手先ではなく、胸の中心(中筋)から左右に割れるような動作をする。
- ③ 自分の矢尺を十分に保ち、詰合いから伸合いののち離す。

離れは微妙であり、繰り返し練習することで、そのタイミングを会得して欲しい。

MEMO

8. 残心 (残身) (ざんしん) (図8-1)

- ① 離れの姿勢を変えずに矢の行方を見定める。
- ② 残心の後、弓を倒し、視線を正面に戻し (物見を戻し)、足を右・左の順でとじる。

残心の後、弓を倒して両拳を腰に戻す動作を弓倒し (ゆだおし) という。(図8-2)

弓倒しでは、末弭 (弓の先) が、最短距離で執弓の位置にもどるように動作をすることが大切である。

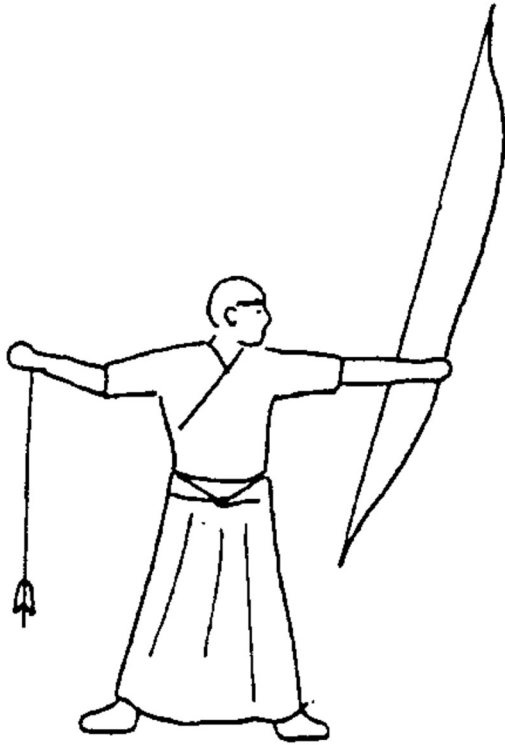


図8-1

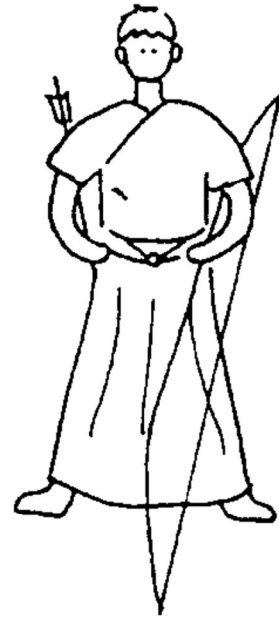


図8-2

MEMO

9. 自己診断のポイント

《自己診断のポイント①》 『練習を行う上での心構え』

弓道の練習を行う上で、注意すべき事はいくつかあるが、まず、安全に対する意識をもち、安全な活動ができる運営、環境を整えることが大切である。さらに何事も、独りよがりな方法で行うことなく、他者に対する配慮に心がけ、道場や道具に対する知識・配慮をもって修練に励んで欲しい。

《自己診断のポイント②》 『射の基本を踏まえた射法と日常生活を心がける』

弓道は射術のみに偏ることの無いように修練をしなければならない。

「射法八節」をきちんと身につけることは大切なことであるが、その動作を行うときには、基本となることをしっかりと行って欲しい。

心・気のは働きとは、単純に弓を引くときだけの問題ではない。

《自己診断のポイント③》 『三重十文字』と『五重十文字』

いづれも、言葉の用い方に共通点が見られるが、この2つは区別して考えた方が良い。「三重十文字」が、「3つの十文字を重ねる」という意味合いなのに対し、「五重十文字」は、「5つの十文字の場所」という外見を指している。

「三重十文字」は、射の運行にあたり、常に意識され、完成されているべき体の状態を示している。これに対して、「五重十文字」は、会の状態における状態を示している。内面的な心気の仕事や、筋肉の動きはあるが、諸処のバランスを捉えている。特に「三重十文字」の意味を取り違えると、悪癖の元になりやすいので注意する。

《自己診断のポイント④》 『左手親指の付け根に矢羽の擦り傷ができる場合』

「会」の時、矢が水平、あるいは「やじり」の方が多少低くなってはいけない。そのため

には、矢を「つがえる」とき、矢は水平ではなく「筈」のほうが約1センチ高いほうがよい。合成弦はよく伸びるので、「つがえる」位置に印を付けておき、たえず「張りの高さ（15～6センチ）」を一定に保つように気を配ることも必要。「筈」の位置が「やじり」の高さより低くなっていると、親指付け根を羽で擦って擦り傷ができる。

《自己診断のポイント⑤》 『的付け』

「会（かい）の状態に入ってから的をさがし、「ねらい」を定めるのはダメ。また矢先で「的付け」をするのも誤り。「大三」から引き込んできたときには「的付け」ができているように普段から練習する。的を両目で見るためにも「顔向け」がしっかりできていないといけない。両目で「的付け」ができているかどうかよくわからない場合には、「会」の状態でも左目をつむり、右目で的を見たとき、的が弓把（きゆうは）に隠れて見えなくなる位置を目安とするのがよい。できれば的の半分が弓把の左側に出るようにするのが理想的である。

「的付け」は、個人差がかなりあり、面向けによっても微妙にことなるため、後方から見て、矢が的方向にきちんと向かってることが重要である。

的の中が安定するためには、「ねらい」「頬付け」「胸弦」の3点が定まることが、矢の方向性を安定させることにつながるので、「頬付け」「胸弦」についても、きちんと意識する必要がある。

《自己診断のポイント⑥》 『弓返り（ゆがえり）』

「弓返り」は「手の内」や「角見」の働きと密接な関係があり、自然にできるようになるにはかなりの時間が必要である。したがって無理にさせる必要はない。無理にさせようとする、「離れ」の瞬間に弓を握り直したり、手首を外にかえす（左手首を逆「く」の字に曲げる）ことなど、悪癖を付けることになる。一度癖になってしまうと矯正は極めて困難になる。

なお、「弓返り」は、離れで弓が手の中で回転することを言う場合と、弦が弓の反対側に外れてしまう場合をいうことがある。この場合は、弓を押して弦を弓から外し、張りなおす。原因としては、末弭の部分の弦の輪が大きすぎる場合や、張りが低すぎ

10. 競技の種類

1. 近的競技

近的競技は、射距離28mで、直径36cm（一尺二寸）の霞的を使用する。的は、地上27cmに中心があるように、後ろに5度傾けて、あづちにかける。射場の床面とあづちの敷面は、原則として同一水平面とする。

特別な場合にのみ、直径24cm（八寸）、18cm（六寸）の的を使用することもある。この場合は、星的を使う。

近的競技は、坐射で行う。

2. 遠的競技

遠的競技は、射距離60mで、直径1mの色的を使用する場合と、同じく霞みの的を使用する場合がある。通常、遠的競技は、射距離60mを指す。射距離60mでは、的は、地上97cmに中心があるように、後ろに15度傾けて設置する。

現在、遠的競技については、国体では、射距離60mで、色的を使用して、得点制を用いている。

遠的競技は、立射で行う。

3. 競技の方法

競技は、的中制・採点制・得点制のいずれかの方法で行うか、併せて行う。

的中制；的中数をもって順位を決定する方法。

採点制；採点審判員が選手の行者につき、点数をもって採点評価する方法。

得点制；標的の中心をもとにして画かれた円形により区分された箇所、あらかじめ点数を定め
ておき、矢のあたり場所をもって得点とする方法をいう。

一般に、近的競技では、的中制が用いられ、遠的競技では、得点制が用いられることが多い。

これ以外にも、実業団の競技方法などがある。

11. 競技の形式

1. 団体戦

(1) 的中制

あらかじめ構成人数、射数を定めて行い、その的中の合計数によって順位を決定する。的中数が同数の場合(同中という)、更に各自1射を行い、的中数の多い方を勝ちとする。これを競射という。各自2射(一手)ずつ行う場合もある。

(2) トーナメント制

勝ち抜きで優勝を決める方法。同中の場合は、各自1射の競射を行う。

(3) リーグ制

総当たり戦で優勝を決める方法。同中の場合は、引き分けとするか、競射で勝敗を決める。また、勝率が同率の場合の順位決定法は、あらかじめ定めておく必要がある。

2. 個人戦

個人戦は的中制で行われる場合が多いが、同中の場合は、射詰め制、または遠近制が行われる。一般に、優勝決定や上位大会への出場者を決定する場合などでは、射詰め制で行われ、それ以外の順位決定のみの場合では遠近制で行われることが多い。

大会における個人競技の方法については、競技規則を参照されたい。

個人戦の場合、特に制限時間はないが、5人一立、立射、各自4射、合計20射で、7分以内に終了するよう、自覚と協力が望まれる。遅い場合には、競技係から注意がある。(審査の時の要領と混同しないこと)

(1) 射詰め制 各自1射ずつ行い、継続的中数の多い方を上位とする。

個人戦で行われる。

(2) 遠近制 各自1射を行い、的の中心に近い方を上位とする方法。

同距離と判定された場合は、再度行う。なお、ハキ矢(的に直接届かなかった矢)は最下位となる。

競技における行射の要領（5人立の場合）

	1番	2番	3番	4番	5番
甲 矢	間をおかずに行射する	1番の「胴造り」の終わる頃立つ。 1番の弦音で打起し、行射する。	1番の「打起し」で立つ。 2番の弦音で打起し、行射する。	2番の「打起し」で立つ。 3番の弦音で打起し、行射する。	3番の「打起し」で立つ。 4番の弦音で打起し、行射する。
乙 矢	3番の弦音で弓を立て、矢を番えて待つ。 4番の弦音で立つ。 5番の弦音で打起し、行射する。	1番と同時に弓を立て、矢を番えて待つ。 1番の「胴造り」の終わる頃立つ。 1番の弦音で打起し、行射する。	4番の弦音で弓を立て、矢を番えて待つ。 1番の「打起し」で立つ。 2番の弦音で打起し、行射する。	5番の弦音で弓を立て、矢を番えて待つ。 2番の「打起し」で立つ。 3番の弦音で打起し、行射する。	射終われば直ちに弓を立て矢を番えて待つ。 3番の「打起し」で立つ。 4番の弦音で打起し、行射する。

上記は、全日本弓道連盟による要領である。

全日本弓道連盟の競技規則による場合、以下のような行射時間の下で、要領が定められているので、

高等学校での競技においては、この行射の要領より早く動作を行う必要がある。

全日本弓道連盟規則における行射時間				高等学校競技規則
3人立	坐射	各自4射	7分30秒以内	7分以内
		各自2射	4分30秒以内	
	立射	各自4射	6分30秒以内	6分以内
		各自2射	4分以内	
5人立	坐射	各自4射	10分以内	8分以内
		各自2射	6分以内	
	立射	各自4射	9分30秒以内	7分以内
		各自2射	5分30秒以内	

12. 岐阜県高等学校弓道競技規則

共通規則

1. 競技時間の制限

(1) 競技時間は本座における進行係の合図に始まり、最後の射手の離れにて

終わる。

(2) 制限時間

3人立ち	坐射	7分	弦切れ、その他の事故を生じても時間の延長はしない。制限時間の30秒前に予鈴をならし、終了の時本鈴をならす。
	立射	6分	
5人立ち	坐射	8分	個人競技及び1射ごとの競技については、進行係、または審判員の指示に従う
	立射	7分	

なお、2射場で競射中に、片方の計測が途中で停止した場合は、両射場の計測を止める場合がある。

2. 行射

(1) 1番手より順次1本ずつを行射すること。前の射手より先に射放したときはその矢は無効とな。

(2) 2射または4射を行射するときは、取り矢を行う。

(3) 弦切れ、その他の事故があったときは、審判員の指示に従うこと。

(4) 矢返しは四ツ矢が終わるごとに行い、1本ごとの矢返しは行わない。

3. 射遅れ

第2控から入場のため移動するまでに集合しないときは、その立に限り、その選手は棄権とする。

そのため団体の人員に欠員が生じても欠員のまま団体とする。

4. 弓 具

原則として、同一団体または、同一の立において弓具の共用は認めない。

弓具に照準または目印をつけてはならない。

5. 射場内心得

(1) 監督（引率責任者）

- ① 監督は、あたり・はずれの異義申し立てをすることが出来る。異義申し立ては矢を抜きとる前にすること。
- ② 監督は代理として生徒を弦持ちとすることが出来る。

(2) 弦持

- ① 弦持は選手と共に射場内に入場すること。
- ② 弦持は射場内の所定の場所に位置すること。
- ③ 弦持は射場において、審判員または、進行係の許可なく勝手に行動してはならない。
- ④ 弦持は次の場合には速やかに処置すること。
 - ア) 弦が切れた場合。
 - イ) 射詰めの際に、矢をわたす場合。
 - ウ) 審判員または、進行係より指示のあった場合。

(3) 選手

- ① 選手は射場内において、審判員または、進行係の指示に従って行動すること。指示に従わないときは、退場を命ずる。
- ② 選手は行射に不必要な物を射場内に持ち込まないこと。予備弦・予備矢は監督（弦持）に預けること。ただし、汗ふき、汗止め粉等は目立たないように持参してもよい。
- ③ 射場内での選手同士の私語は禁止する。

6. 応 援

- (1) 射場外より発声による射術上の指示は禁止する。
- (2) 競技に差し支えると審判員が判断した場合は注意を与えることがある。
- (3) 射場内での発声による応援は厳禁とする。

7. 服 装

- (1) 弓道衣・袴・足袋は単色無地とする。ただし、各学校で統一する事。
- (2) 弓道衣のアンダーシャツは白・黒・紺の単色無地のものと、それ以外の色を使用する場合は各学校で統一する事。襟付き・ハイネックは、不可とする。
- (3) 弓道衣に校名・校章・氏名および各都道府県のシンボルマークやワッペン等を付ける場合は、片袖に限る。ただし、大きさは、縦横 10cm 以内にする。袴へ刺繍等により校名・氏名を入れる場合は右腰後にする。(袴への刺繍は、平成 27 年度入学生より適応)
- (4) 鉢巻を使用する場合は、無地で長さは肩までとする。なお、校名・校章氏名に限り入れても良いが場所は鉢巻きの端とする。
- (5) 胸当は無地とし校名・校章・その他を入れてはならない。男子の胸当ての使用は認めないが、道着の下に装着することまでは咎めない。
- (6) リボン・ピアス等の装身具類は着用しないこと。

8. 審判判定

審判員の裁定には必ず服さなければならない。服さないときは、競技を中止させることがある。

あたり・はずれ及びその他の規定は、全国高体連の規定による。

- (1) 「あたり」は、矢が的枠内にとどまった場合とする。ただし、次の場合も的枠内にとどまったものとし、「あたり」とする。
 - ① 矢が、的枠の内側からの的枠の外側に射ぬいた場合。
 - ② 矢が、的枠の合わせ目または的枠内にとどまった場合。
 - ③ 矢が、あたり矢に継矢となった場合。

- ④ はずれ矢に接触して、的枠内にとどまった場合。
- ⑤ 的が転び、矢が的枠内にとどまっている場合。
- ⑥ 的枠内にとどまっている矢の一部が、塚敷に接触している場合。

(2)「はずれ」は矢が的枠内にとどまらなかった場合とする。ただし、次の場合も的枠内にとどまらなかったとし「はずれ」とする。

- ① 矢が、的枠の外側からの的枠の内側に射ぬいた場合。
- ② 矢が、侯串と的枠の間にとどまった場合。
- ③ あたり矢に接触して、的枠外に出た場合。
- ④ 矢が跳ね返り、的枠外に出た場合。
- ⑤ 掃きあたりの場合。
- ⑥ 幕・防矢ネットなど障害物に接触した場合

的枠内の判定基準

的枠内とは、的枠の外側の円内に矢が存在する事をいい、矢の外側の的枠が破断している場合は、的枠内とは考えない。そのためビニールの紙など、強度がある的紙のために、的枠が確認できない場合は、的紙を切り開き矢と的枠の状態を確認する必要がある。

矢が的枠正面からあたり、鏃の先端が的枠内に残っている場合は、矢の外側の的枠が破断している場合でも「あたり」と判断する。

9. 選手の交代

- (1) 競技の先発メンバーは登録順に 5 名(5 人立)及び 3 名 (3 人立) とする。
- (2) 選手の交代は監督会議の際と、それ以降の 2 回の計 3 回認める。
従って、交代退場した選手の再出場は出来る。
- (3) 所定の交代をした後、選手に事故を生じ欠場する場合は、欠員のまま団体とする。
- (4) 個人戦の場合は、交代は認めない。

10.参加資格

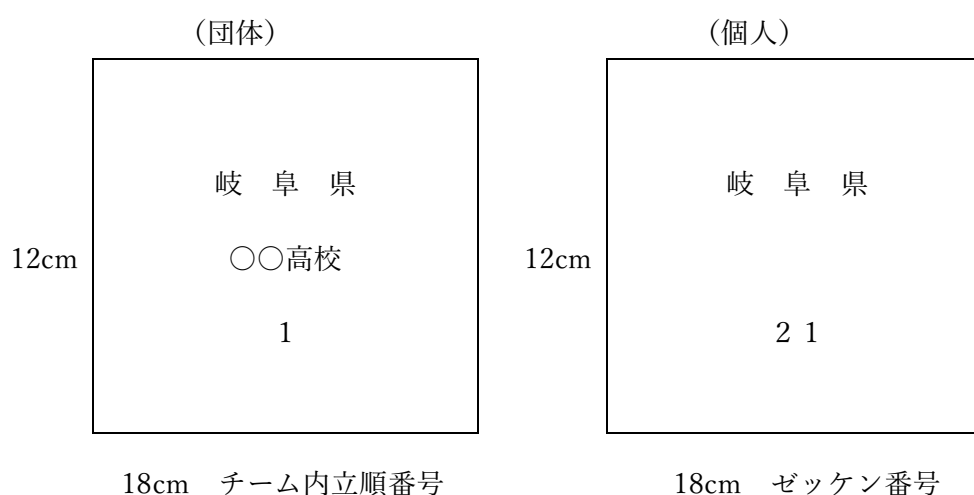
- (1) 県高体連加盟の生徒であること。

- (2) 県弓道連盟加盟の生徒であること。
- (3) 学校長の出場認知のあること。
- (4) 転校後6ヶ月以上の者であること。
- (5) 年齢は、19才未満の者であること。(新人大会以外)

11.ゼッケン

選手は次の要領でゼッケンを作成し右腰につけること。

- (1) 布地は白色。県名、学校名は黒色。男子選手番号は黒色で、女子選手番号は赤色で記入する。
- (2) 選手番号は、団体戦出場選手についてはチーム内立順番号(1～7)、個人戦出場選手についてはゼッケン番号とする。
- (3) 規格及び記載例



- (4) 団体戦出場校の立順番号及び個人戦出場選手のゼッケン番号は別に通知する。
 - (5) ゼッケンは、紐、または安全ピンで2ヶ所をとめる。
- 「高校」の2字の使用は自由とする。

12.規則の準用

本規則に規定のないことがらについては、全国高体連弓道競技規則を準用する。

13. 事故防止に向けた安全対策

岐阜県高体連弓道専門部 (R3.10.27)

1 弓道の特性と安全管理

弓道は、的に対して弓を使用し矢を放って当てるという競技である。他の競技と大きく異なるのは、弓矢はそもそも武器であり、放たれた矢は誰の手にも制御不能であるということである。相手または自分に怪我を負わす危険性が常に潜んでおり、事故が起きると大きな傷害を受ける可能性が高い。部活動の指導にあたっては、弓道場の施設や設備、弓道用具の点検、練習に臨む心構えに至るまで、弓道のもつ特性を理解し、危険防止のための指導をする必要がある。

特に事故が予想される場面は、的前や巻藁で矢を放つ活動時に多く、射場では指導者の指示に従い、的場に入る時は、射場と的場との間で複数の確認を行い、赤旗を提示して行動するなどの危険防止のルール作りと徹底が重要である。

以下に掲げる事故事例と予防策を参考にして、事故の危険性は学年や習熟度を問わず、全ての生徒に広く潜んでいることを顧問・部員が共通認識し、安全管理を活動の最重点項目に掲げて活動に取り組んでいただきたい。

2 想定される事故事例と予防策

(1)主として施設・設備・用具が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因	傷害例	予防策
<p><施設・設備に関すること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安土から外れて矢が飛び、人に矢があたる。 ・看的所に矢が入り、人に矢があたる。 ・矢取りと行射中の区別がはっきりせず、行射中に矢取りに入って人に矢があたる。 ・安土の盛りが少ないことや凍結していたため、矢が跳ね返り、看的をしていた人にあたる。 ・巻藁が老朽化し固くなることによって、矢が跳ね返り人にあたる。 ・巻藁の後方が壁で、巻藁を外した矢が跳ね返り、人にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体への創傷 (裂創・刺創等) ・目や顔への創傷 (裂創・刺創等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・防矢ネットを隙間がないように設置する。(別紙設置例参照) ・矢道の周囲に防矢板を設置するか、適当な距離をとったエリアに立入禁止の措置をする。 ・看的標示板の隙間を、前面または背面よりアクリル板等適当な材料で防矢板を設置し、矢が抜ける隙間を無くす。 ・赤旗や赤色灯など、矢取りに入る合図を示す道具を準備する。 ・安土に十分な厚みが維持できるよう砂等を補充し、凍結している場合は、スコップ等でほぐす。 ・巻藁を定期的にチェックし、固くなったものは使用禁止とする。 ・巻藁の後方に畳みやウレタン等を設置する。
想定される事故やけがの原因	傷害例	予防策
<矢>	・身体への創傷	

<ul style="list-style-type: none"> ・矢尻や筈、羽根(巻藁用を除く)がなく、矢飛びが不安定となり人にあたる。 ・矢が短かく、引き込んでしまい、矢が折れたり、後方へ矢が飛び、本人の身体や人にあたる。 ・シャフトに傷や曲がりがあるものを使用したため、矢飛びが不安定となり人にあたる。 <p>< 弾 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・かけ紐の最後をピン(クリップ)で留めたため、離れてピンが飛び人にあたる。 ・弾の大きさと手の大きさが合わず、行射中に脱げそうになり矢が暴発する。 <p>< ゴム弓 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴム弓のゴムが抜けるか切れるかして、顔にあたる。 <p>< 服装に関すること ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・胸にポケットやボタンが付いた服で行射したため、弦が引っかかり、思わぬ方向に矢が飛び人にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> (裂創・刺創等) ・身体の打撲 ・顔への創傷(裂創・刺創等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に矢を確認し、矢尻、筈、羽根、シャフトに不備がないかチェックする。不備のある矢は使用しない。 ・自己の身体に合った長さの矢を使用し、引き込みに対する安全マージンを確保する。(自己の矢束+10cmから15cm) ・かけ紐の始末にピンやクリップを使用しない。 ・自分の身体に合った弾を使用する。 ・定期的にゴム弓を確認する。 ・ポケットやボタンのついた服を練習で着用しない。
---	--	--

(2)主として活動内容が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<p>< 活動全般に関すること ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・弓を張るとき、弓張り板から弓の末弭が外れ、他人にあたる。 ・行射中離れをした右手が、近くにいた他人の顔にあたる。 ・射手の間隔が狭く、後ろの射手の弓が前を引く射手の弓と弦の間に入り、矢が思わぬ方向に飛ぶ。 ・放った矢が人にあたる。 <p>< 的前活動に関すること ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・看的所から射場の様子をうかがうため、 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体への打撲や創傷(裂創・刺創等) ・顔への打撲や創傷 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者は、集中できる雰囲気を維持し、落ち着いて活動する環境と、緊張感や注意力を持たせる。 ・行射中の射手には、近づかないようにする。また、関係者以外のものの立入を禁止する。 ・危険が無いように的間隔をとる。 ・矢を他の人に向けない。また、行射している人との的や巻藁の間は横切らない。 ・危険な箇所には立入を禁止するコーンなどを設置する。 ・赤旗や赤色灯を提示し、射場と矢取り

<p>腕や顔を出してしまい矢があたる。</p> <p>・矢声や会話の声を矢取り合図と勘違い、または合図の不徹底により、行射中に矢取りに出て矢にあたる。</p> <p><巻藁活動に関すること ></p> <p>・巻藁の矢を抜いている時、矢の筈で後方にいた人の顔を突く。</p> <p>・巻藁に放った矢が巻藁を外れ矢を抜いている人にあたる。</p> <p><ゴム弓・素引き・徒手活動に関すること></p> <p>・人との間隔が狭く、離れをした右手が人の顔にあたったり、ゴムが伸びて物や人にあたる。</p> <p><観覧者に関すること></p> <p>・カメラのフラッシュや射手に声をかけるなど、射手の注意力が削がれ、矢が思わぬ方向へ飛ぶ。</p>	<p>・身体への打撲や創傷 (裂創・刺創等)</p>	<p>の合図の方法を明確にして共通認識させる。</p> <p>・矢取りの間は、取り掛けを禁止する。 ・合図を待って行射を再開する。</p> <p>合図の仕方の例</p> <p>①射場からの依頼合図 ②看的からの確認合図 赤旗(赤色灯)の提示 ③射場からの再確認合図 ④矢取り作業の開始 ⑤矢取り作業終了の合図</p> <p>・周りを十分確認して巻藁の矢を抜く。</p> <p>・左右で巻き藁を引いている人がいる場合には、巻き藁に近づかない。</p> <p>・間隔を十分に取って活動する。</p> <p>・観覧者がいる場合には、事前に注意事項を伝達しておく。</p>
---	--------------------------------	--

(3)主として環境条件等が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因(事例)	傷以上・軽傷)	予防策
<p>・冬季の低温によって、身体がかじかみ、指先が思うように動ず矢が暴発する。</p> <p>・熱中症のような症状で、倒れる。</p> <p>・雷鳴や雷光が、弓道場の近くで確認できる。</p>	<p>・身体への打撲や創傷 (裂創・刺創等)</p> <p>・熱中症</p>	<p>・行射前にカイロ等を用いて十分に暖める。極端に寒い場合には練習を控える。</p> <p>・事前に気温等の状況を周知し、水分補給等の対策を促す。</p> <p>・外にいる人に、屋内に避難するよう伝える。また、屋外で活動している場合は、一時中断する。</p>

参考文献

全国高体連弓道専門部事故事例 弓道教本(全日本弓道連盟)、弓道指導の手引き(日本武道館、全日本弓道連盟)

弓道部活動における危険防止チェックシート

	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/>
設備・備品	施設の外に矢が飛び出さないように防矢ネットなど対策がなされているか	
	防矢ネットに穴やほころび、隙間などがないか	
	防矢ネットや防矢板が所定の位置に正しく設置されているか	
	看的表示板の隙間から看的所に矢が飛び込まないように措置が施されているか	
	矢取り中であることを表示する赤旗または赤色灯は設置してあるか	
	安土に矢が刺さる状態になっているか	
	的間隔は極端に狭くなっていないか（推奨は140cm以上）	
	巻藁は安全な場所に設置されているか	
	巻藁練習の矢の跳ね返り防止対策として巻藁の後方に畳などが立てかけてあるか	
	古くなって中央部分が堅くなった巻き藁を使用していないか	
巻藁は使用者の身長に合わせたものが設置されているか		
弓具	弓の矢擦籐は完全に巻いてあるか	
	弓と弦の間隔は所定（おおむね15cm）の幅があるか	
	弦の中仕掛けは、矢筈や牒に合った適切な太さになっているか	
	極端な入木や出木の弓を使っていないか	
	弓にひび割れなどの異常はないか	
	弓の握革はきちんと巻いてあるか	
	矢は自分の矢束の長さより10cm以上長い矢を使用しているか	
	矢に適切な矢尻、筈、羽（3枚・羽山5mm以上）が付いているか。	
	シャフトに傷や歪み、筈にひび割れなどがないか	
	矢は弓力に合わせたものを使っているか	
	かけ紐をピン止めなどの金具器具で留めていないか	
	かけ紐は小さく結んであるか	
	牒は自分の手の大きさに合っているか	
ゴム弓のゴムに劣化や切れや緩みはないか		
服装	胸にポケットやボタンなどのある服を着用して練習していないか	
	長髪を弦で払わないように、ゴムなどでとめてあるか。ピンで留める場合は必要最低限か。	
	ピアスやネックレスなどの装飾品は着用していないか	
練習時の行動	射場に立つ場合には、指導者の指示に従っているか	
	危険防止について部員間で共通理解をしているか	
	弓を引く前に、弓具の点検をしているか	
	弓を張るときは、弓張り板を使用しているか	
	弓を引いている射手に不用意に近づいていないか	
	矢番えの位置は適切か（低い位置になっていないか）	
	弓構えや弓倒しで前後の射手の弓と弦の間に自分の弓を入れないように注意しているか	
	他人に向けて弓を引かないようにしているか	
	他人に矢を向けて矢番えをしていないか	
	看的所から顔や手足を出さないようにしているか	
	矢取りに入る際、道場側と安土側で声を出して確認をしているか	
	赤旗・赤色灯など合図を出してから、矢取りに入っているか	
	矢道・安土に人がいるときに、取懸けをしていないか	
	矢取りの後弓を再び引き始め時に、合図をしてから再開しているか	
	巻藁練習をする際に、巻藁後方や左右に人がいないことを確認しているか	
	巻藁から約2mほど離れた位置から引いているか	
	巻藁練習をする際に、自分の身長にあう高さの巻藁を使用しているか	
	巻藁を練習している人や巻藁に不用意に近づかないようにしているか	
	巻藁から矢を抜く時、左右の人が引いていないこと確認してから巻藁に近づいているか	
	巻藁から矢を抜く時、後方を確認してから抜いているか	
ゴム弓で練習する時、ゴムが届く範囲に人がいないことを確認して行っているか		
素引きで練習する時、暴発しないようにしっかりと指にかけて弦を引いているか		
矢束の半分以上を引いて空打ちをしていないか		
その他	冬季の練習で、手が凍えないような対策をしているか	
	熱中対策として、こまめに水分補給を行っているか	
	雷鳴や雷があった場合には、屋内に避難しているか	
	観覧者が行射の妨げになるような行動をしないよう、事前に周知しているか	

14.審査、行射の心構えと要領

はじめに

全日本弓道連盟の発行する弓道の段級位を認定する審査が行われる。

四段までの審査は、都道府県単位で行われる。五段は、ブロック審査（東海連合審査）、錬士・六段は臨時中央審査等で審査される。

高校生の受審する審査は、段位の場合の受審制限（次の段位を受けるには5ヶ月間受審できない）があり、およそ参段までである。

1. 地方審査を受審するときの心構え

「審査だから良い射を出そう」と思うようでは良い射は出せない。

審査は常日頃修練した技術そのままの状態で行射し、それに対して採点されるものである。審査だからと堅くなって平常心を失うようでは、日頃の自分の良い射は充分出せない。『練習は審査のつもりで、審査は練習のつもりで』と、リラックスをし、平常心を保つことが大切である。しかし、日頃の練習の積み重ねがなければ「自信が持てて、心にゆとりが持てる『行射』」はできない。練習を審査のごとくきちんとして合格への第一歩であることを忘れてはならない。まじめで、地道な努力は、審査のみならず、大会でも自らを優勝へと近づけてくれるはずである。

2. 入場から射終わって退場するまでの要領・留意点

- (1) 控えにおいて同じ立ちの者どうし、進み方の要領、各自の間隔等を打合せる。
- (2) 執弓の姿勢を正しく保ち、丹田に力を充実させて背筋を伸ばし、気力を満たして歩行すること。目は半眼に開き、視線は立った時は約4 m、座った時は約2 mに注ぐ。1呼吸4歩の早さで進むのが望ましい。
- (3) 入場は、1番立ちは、三息の「礼」
 - ① 左足で敷居に直角に大きくまたぎ、
 - ② 右足を上座の方向に踏み出し、
 - ③ 左足を引きつけ。
 - ④ 正面に意を注ぎ、
 - ⑤ 吸う息で、体を倒し、
 - ⑥ 吐く息で、体を保ち、
 - ⑦ 吸う息で、体を戻す。
 - ⑧ 正面に再び意を注ぎ、
 - ⑨ 左足を的方向に踏出す。
 - ⑩ 脇正面に向かうには、直角に（角をとって）回る。
- (4) 2番立ちからは、二息の礼を行う。
 - ① 1番の動作（(3)-⑨）と同時に左足から入場する。
 - ② 敷居に対して直角に、左足で大きくまたぎ、
 - ③ 右足を上座の方向に踏み出し、
 - ④ 左足を引きつけながら揖をし、
 - ⑤ 揖をもどし、
 - ⑥ 左足から前に進み、

⑦ 方向を変えるには角を取らず、三足で向きを変える。

以下、同様に入場し、全員の足が揃うようにすること。

(5) 本座の後ろでL字回りをし、的正面に向いたとき、全員の動作が揃うこと。

以後動作は全員が揃い、本座に進み跪座をする。

(膝頭が本座の線に揃うこと。的に眼を注いではいけない)

(6) 前の立ちの5番(もしくは最後の射手)の弦音で揖をし、腰を切って立ち、左足より三歩で射位に進み跪座をする。

(気力を充実させて、吸う・吐く・吸うの呼吸で三歩進む。)

(7) 腰を切り(末弭は眼の高さに上げ)、開き足で脇正面に向きを変える。

(左膝を必ず右膝にかぶせること)

尻が降りると、右足が揃うのが同時である。

左足先を床面から離すと、袴の裾を踏みやすいので、離さないこと。

(8) 末弭が体の中心線に沿うように注意して弓を立てる(弦が鼻筋にあるよう)。

本弭は膝先10cmぐらいに置き、左膝を活かす。

(9) 弦を返し、矢調べを正しく行い、甲矢を打ち込み、乙矢の羽を的の方に向け、走り羽を下にして薬指と小指の間に打ち込み、左手はもとの腰にもどす。

(10) 行射の要領に従い、1番より行射を行う。

(11) 甲矢を射終わって足を寄せる時、斜め後に右足を引き左足を揃える。乙矢を射終わった時はそのまま寄せれば良い。

(12) 残心(身)は射の総決算であるといわれるぐらい、大切な動作である。

気力を抜かず体は天地左右に伸びあって、眼は矢所に注いでいなければならない。

(13) 射終わって執弓の姿勢を崩さないよう、右足から最短距離で退場する。

次の立ちの1番の末弭に袴が被さらないような位置を回って退場口に進む。

5番は後退して、本座線を越したのち、退場口に向かう。

(14) 退場口では、退場の敷居に末弭が届く頃、上座に向きを変え、揖をして、3歩で退場する。退場時の要領は以下の通りである。

① 末弭が退場位置の敷居に届く頃、

② 左足を右足のかかとを中心に廻すように脇正面方向に半歩踏み出し、

③ 右足を左足にそろえ、脇正面方向に意を注ぎ、揖をする。

④ 腰を退場口方向に廻すようにして、右足(1歩目)で退場口方向に踏みだし、

⑤ 左足(2歩目)、右足(3歩目)で敷居をまたいで退場する。

3. 学科について

審査における学科問題は、日頃修練している心構えや、射法八節の中から抜粋して出題させるもので、受審者がどれだけ勉強しているかを評価されるのでおろそかにしてはならない。当日、術科で日頃の良射を出せなくても、学科が高得点であれば合格することもあり、逆に術科がいくら良くても、学科が白紙のような状態であれば、確実に不合格となる。一般問題は、難しく考えないで、各自が思ったとおりを素直な気持ちで書きあらわせばよい。

平成28年度からは、全日本弓道連盟から提示された問題より出題されるので、「弓道教本」を中心に、このしおりを参考にして、自分で解答の練習をすることも必要である。学科試験問題集からそれぞれの段位について、各2問出題される。

4. 地方審査について

(1) 審査請求

- ・申し込みは締め切り日を厳守すること。
- ・申し込みは所定の用紙を用い審査料を添えて提出のこと。
- ・高校生は弓道部顧問、一般は支部長の認証印のない申し込みは受理されない。
- ・弓を共有する場合は受審者のだれと共有するかを用紙欄外余白に氏名を記入。
顧問に申し出て、別紙に一覧を付けることが望ましい。
- ・足が不自由なため立射で受審する人はその旨を朱書すること。(診断書不要)
- ・平成7年度より無指定を請求し2級又は3級を認定されても次回は初段の請求が出来る。(従来は、2級は1級、3級は2級であった)
現在2級、3級でも初段請求できる。

(2) 審査当日

- ・まず、受付を済ますこと。
- ・開会式の5分前までに道場内に整列のこと
- ・審査当日の連絡事項等を聴くこと。
- ・各会場とも、呼出は道場周辺に限られ、控室まで呼出をしない。
受審者は日程表を参考に受審する時間を各自認識し第3控えに集合すること。
- ・射場への礼は、先頭者(1番)は三息の礼を行い、次の射手以下は二息の礼を行なう。

審査における行射の要領(5人立の場合)

	1 番	2 番	3 番	4 番	5 番
甲 矢	間をおかずに行射する。	1番の「胴造り」の終わる頃立つ。 1番の弦音で取懸け打起し行射する。	1番の弦音で立つ。 2番の弦音で取懸け打起し行射する。	2番の弦音で立つ。 3番の弦音で取懸け打起し行射する。	3番の弦音で立つ。 4番の弦音で取懸け打起し行射する。
乙 矢	4番の弦音で弓を立て、矢を番えて待つ。 5番の弦音で立ち、間をおかずに行射する。	4番の弦音で弓を立て、矢を番えて待つ。 1番の「胴造り」の終わる頃立つ。 1番の弦音で取懸け打起し行射する。	4番の弦音で弓を立て、矢を番えて待つ。 1番の弦音で立つ。 2番の弦音で取懸け打起し行射する。	5番の弦音で弓を立て、矢を番えて待つ。 2番の弦音で立つ。 3番の弦音で取懸け打起し行射する。	射終われば直ちに弓を立て、矢を番えて待つ。 3番の弦音で立つ。 4番の弦音で取懸け打起し行射する。

- (注) 1. 射場への入退場にあたっては、必ず上座に意を注ぎ、順次礼(揖)をする。
2. 本座に進み、跪座し、揃って揖を行い、射位に進む。
3. 射位で跪座し、脇正面に向きを変え、弓を立て矢を番えて待つ。
4. 射終わったら1番より順次退場する。
5. 次の控えは、3番の乙矢の弦音で入場し本座に進み跪座し、5番の弦音で揖を行い射位に進む。
6. 行射の前後動作が殊更に間延びすることは、進行の妨げになる。

- 追記 ① 甲矢で2番の立つ時期は1番の「胴造り」の終わる頃立つ。
これは1番が弓手に2本の矢を持ち、妻手を右腰に取った時であり、
乙矢を妻手で持ち右腰に取った時ではないので注意すること。
- ② 弓返りしないときは、そのまま弓を倒し物見を戻してから末弭を床につけて弦を返し、末弭を活かし(床から約10cm上げ)た後、足踏みを閉じる。
この動作は、本来は無い動作なので、手早く行うこと。
(体配の一部ではない。)

失のときの心得

射を行う場合、過って失策をすることがある。これを「失」という。
「失」をした時は、かしまり慎む気持ちをもって動作することが肝要である。
ここに「失」の主なるものをあげ、その処理方法を簡単に述べる。

イ) 弓を取り落とした場合

離れた瞬間、弓を取り落とすことがある。すぐ近くに落ちた場合は、弓に近い方の足に片方の足を寄せ跪坐し、または膝行して弓を取る。遠くに落ちた場合は、同じように足を寄せ、弓の近くまで屈体で歩行し、跪坐して弓を取り射位に復する。立射礼の場合は屋外では蹲踞して取り、屋内では跪坐して取る。いずれも射位に復したとき、他の人を配慮し恐縮の意を表わすため「揖」をし、間のびしないように行動する。

ロ) 弦が切れた場合

- 甲矢：身近にあるときは飛んだ弦に近い方の足に他の足をよせ、跪坐し弦のところまで膝行(しっこう)する。遠く飛んだ時は同じく足をよせ、その位置まで屈体で歩行して行く。そこで跪坐して右手の乙矢を左手に持ちかえる。弦を右手で拾い左手で切弦の端を持ち、右手で輪に巻き弓に持ち添える。その後左手にある乙矢を右手に持って射位に戻り、恐縮の意を表すため揖をしたあと、射場係に弓と切弦を渡して弦を張ってもらう。
- 乙矢：すみやかに弦の処理をし、「揖」して退場する。

弦が遠く屋外に飛んだときは、甲矢乙矢とも取る必要はないが、弓のとどく範囲内にあるときは、適当な位置まで屈体で歩行し(屋外には出ない)、一度跪坐して末弭(うらはず)で引き寄せ弦を取る。二三度弓で引き寄せても取ることができない時は、そのまま退いて射位に戻り、「揖」をする。

ハ) 「筈こぼれ」の場合

筈をつがえ、右手を腰にとった後の射の行為中に筈こぼれした矢(矢筈が弦からはなれる)は射直しをしないことが原則である。

① 競技の場合

四ツ矢(一手:2本)競技の場合、最後の矢以外は射手が処理して矢の根(矢尻)を右膝頭の位置に、体と平行に置くと、射場係が後の処理をする。最後の矢の場合は、射手が自分で処理し、自分で持って退場する。

「筈こぼれ」した矢は射直しができない。また記録はあたらない矢と同様×とする。

② 審査の場合

審査委員長の指示により、場合によっては引き直しができる。

いずれの場合も、本来はあってはならないことなので、素早く後始末をすることであるが、どうして良いのか分からなくなることが多い。実際は、日頃の練習で覚えておくことが大切であるが、とりあえず、次の4点は忘れないで欲しい。

- と : 失をした場合は、直ちに「執弓」の姿勢に戻る。
弦切れも、弓を取り落としたときも、筈こぼれでも、失をしたら、残身などの動作をせず、「執弓」の姿勢に戻る。
- す : 執弓の姿勢をとり、次の動作ができるならば問題は無いが、できなければ、「座る」。
- し : 会場内にいる「進行係」の「指示」を受ける。
- ゆ : 失の処理が完了したことを示す「揖」を忘れない。

審査の場合は弦音で取懸けるので、前の人の失の処理を待ってから、打起しを行う。前の人の「揖」を待たずに、行射を行うことは、それ自体が「失」になる。

すなわち、安全の確保の念が欠けている。

失を行った人のすぐ後ろの人は、失の処理が終わった「揖」で取り掛けを行うが、その後ろの人は、前の人の取懸けの動作で立つことになる。

競技の場合は、制限時間があり、既に打起しを行ってしまっていること多いので、「失」を行った人が、後立ちの行射に配慮して行射が終わった後、失の処理を行うことが望ましい。

15. 学科試験問題

審査会の公正、公平性を担保するため、平成27年度から地方審査会ならびに連合審査会の学科試験問題が（公財）全日本弓道連盟より公表され、全国で統一されました。岐阜県弓道連盟では28年度より適用され、各審査会において、A群、B群からそれぞれ1問、計2問を出題されます。なお、問題は数年経過後に見直し、改訂されることになっています。

平成31年に改訂されました。弓道教本や、このしおりを利用して、しっかりと学んでください。なお、このしおりについては、三段までの学科試験問題について述べています。三段以上については、参考としてください。

（2019年3月配布資料）

A群（射法・射技・体配・基本体等） B群（理念・概念・修練姿勢等）

種別	問 題	(2019年度版)
無 指 定 ・ 初 段	A	1. 「基本の姿勢と動作の様式（基本の姿勢4つ、基本の動作8つ）」を列記し、「*○○」を説明しなさい。 * 立った姿勢 * 爪立って腰を下ろした姿勢（蹲踞） * 歩き方 * 坐しての回り方（開き足）の内の一つを出題 2. 「射法八節」を順に列挙し、「*○○」を説明しなさい。 * 「足踏み」 * 「胴造り」・・・* 「残心(残身)」の内の一つを出題
	B	1. 弓道を始めた動機（きっかけ）について述べなさい。 2. 弓道を通じてどのようなことを学びたいと思いますか。 3. 弓道を学んで良かったと思うことを述べなさい。 4. あなたは危険防止のためにどんなことに注意していますか。
式 段	A	1. 「執弓の姿勢」について説明しなさい。 2. （坐射での）「矢つがえ動作」について説明しなさい。 3. （立射での）「矢つがえ動作」について説明しなさい。 4. 「三重十文字」について説明しなさい。 5. 動作の注意点について説明しなさい。（弓道教本第1巻62～64頁）
	B	1. 弓道を学んで感じていることを述べなさい。 2. あなたの弓道修練の目標について述べなさい。 3. 弓道が他のスポーツと異なる点について述べなさい。 4. あなたが審査を受ける目的について述べなさい。 5. 危険防止について心掛けていることを述べなさい。

種別	問 題	(2019年度版)
参 段	A	1. 「射法・射技の基本」を列挙し、「目づかい」について説明しなさい。 2. 「射法・射技の基本」を列挙し、「呼吸(息合い)」について説明しなさい。 3. 「射法・射技の基本」を列挙し、「基本体型(縦横十文字と五重十文字)」について説明しなさい。 4. 巻藁練習の効用について述べなさい。 5. 「取り矢」の仕方について説明しなさい。
	B	1. あなたが日々の修練で心がけていることを述べなさい。 2. 弓道修練を実生活にどのように応用しているか述べなさい。 3. 「審査を受ける心構え」について述べなさい。 4. 日常の修練で苦勞していること、その取り組みについて述べなさい。 5. 日常修練で仲間の安全の為にどんなことを心掛けていますか。
四 段	A	1. 「矢の処理の三原則」を列記し、「甲矢筈こぼれ」の処理を説明しなさい。 2. 「五重十文字」について説明しなさい。 3. 「射法・射技の基本」を列挙し、「心・気の働き」について説明しなさい。 4. 「残心(残身)について説明しなさい。 5. 「詰合い・伸合い」について説明しなさい。
	B	1. 「射を行う態度」について述べなさい。 2. 「審査を受ける心構えと意義」について述べなさい。 3. 「礼記-射義-」「射法訓」の教えの要点について述べなさい。 4. 「基本体の必要性」について述べなさい。 5. 指導時に心掛ける危険防止について述べなさい。
五 段	A	1. 「残心(残心)は射の総決算である」とはどのようなことか説明しなさい。 2. 「肌脱ぎ」又は「釋さばき」の注意点について説明しなさい。 3. 「詰合い・伸合い」について説明しなさい。 4. 「引く矢束引かぬ矢束にただ矢束」について説明しなさい。 6. 「弓・矢を持った場合の坐礼」についてについて説明しなさい。 (弓道教本第1巻82頁)
	B	1. 弓道の最高目標について述べなさい。 2. 「射は立禅」という言葉をあなたの日常生活と関連付けて述べなさい。 3. 「真、善、美」について述べなさい。 4. 弓道修練の眼目について述べなさい。 5. 「介添え」の心構えについて説明しなさい。 6. 指導時に心掛ける危険防止について述べなさい。 7. 各種「ハラスメント」についてどのようなことを心掛けていますか。

16. 学科試験への取り組み

学科問題として問われる内容は、全日本弓道連盟が発行する「弓道教本」(第1巻～第4巻)に記述してあることを元に、修練の段階に応じてそれぞれの解釈などを加えて論述することになります。高校生としては、弓道を始めたばかりの人が多く、まず基本的な内容をこの「活動のしおり」などを基にしっかりと覚えてほしいと思います。参考図書なども数多く出版されていますが、試験で扱われる内容は必ず記述されています。

上級生からの口伝えやあいまいな知識ではなく、弓道教本や多くの参考図書を基に自らの射術や、メンタルの強化にも学科試験の問題は大切です。日頃から練習を兼ねて考え直すことも大切な練習です。

記述は「正面打起し」(礼射系)について述べています。

参考図書

弓道教本第1巻、第4巻	公益財団法人 全日本弓道連盟
弓礼・弓法問答集(改訂版)	公益財団法人 全日本弓道連盟
はじめての弓道	松尾武則著 「誠文堂新光社」
基本の弓道	石山佳彦著 「スキージャーナル株式会社」
弓道(パーフェクトマスター)	村木恒夫著 「新星出版社」

◎ A群(射法・射技・体配・基本体等)について

☆ 無指定・初段 (無指定については、術科にて「初段候補」とされた場合)

2019年に改訂された内容は、今までよりも難しくなり、無指定・初段のA群は、問題数は減っていますが中身は今までの2問を1つにまとめた内容になっています。また、「簡単に」という言葉が消えていることも留意してください。

1. 「基本の姿勢と動作の様式(基本の姿勢4つ、基本の動作8つ)を列記し、「*○○」を説明しなさい。

***立った姿勢 *爪立って腰を下ろした姿勢(蹲踞) *歩き方 *坐しての回り方(開き足)の内の一つを出題**

(弓道教本第1巻 p60) (しおり「6. 基本の姿勢と動作の様式」)

基本の姿勢は以下の4つ

- ①立った姿勢、 ②腰掛けた姿勢、 ③坐った姿勢(正坐)、
- ④爪立って腰をおろした姿勢(跪坐・蹲踞)

基本の動作は以下の8つ

- ①立ち方、 ②坐り方(正坐・跪坐)、 ③歩き方、 ④停止体での回り方、

- ⑤坐しての回り方（開き足）、 ⑥歩行中の回り方、 ⑦礼（坐礼・立礼）、 ⑧揖

それぞれの内容については、「6. 基本の姿勢と動作の様式」を参考にして、記述してください。内容について、すべて覚えることより、自分で理解して書くことが望ましいです。自らが行っている動作が、正しく行われていれば、その動作をきちんと記述してください。

*「立った姿勢」では、『自然体を保持する』ために、何をすべきなのかを、しっかりと自分の動作として考えることです。例えば、「足は?」「下半身は?」「腰は?」「上半身は?」「首筋は?」「両手は?」「目づかいは?」「呼吸は?」というように、考えておくと良いでしょう。

その姿勢が、後々、八節につながっていきます。

*「爪立って腰を下ろした姿勢（蹲踞）」では、その姿勢の意味を考え、そのあと、形を述べるのが良いでしょう。

*「歩き方」では、しおりの記述に従って、自分の言葉で述べましょう。

*「坐しての回り方（開き足）」では、どのような動作を行うのかを、しっかりと書きましょう。

しおりでは、初心者に向けて動作そのものの説明のみをしてあります。弓道教本では、注意点が含まれていますので、よく読んでおきましょう。

2. 射法八節を順に列記し、「*○○」を説明しなさい。

*「足踏み」 *「胴造り」・・・*「残心(残身)」の内の一つを出題

(弓道教本第1巻 p 60 参照) (しおり「8. 矢を射るときの動作の仕方」)

①「足踏み」(あしぶみ)

矢束を標準として外八字(約 60 度)に踏み開き両足の親指を的の中心と一直線となるようにし、体を支える下半身を整える。行射が終わるまで崩さない。

②「胴造り」(どうづくり)

足踏みの上に安定した上半身を置き、重心を安定させる。

③「弓構え」(ゆがまえ)

体の中央正面で取懸、手の内を整え、物見をする。

④「打起し」(うちおこし)

弓構えの位置からそのまま静かに両拳を額のやや上の高さまで持ち上げる

⑤「引分け」(ひきわけ)

大三をとり、矢が床面と水平となるように、左右均等に引き分ける。

⑥「会」(かい)

左右に伸びつつ、心身の充実を図る。

⑦「離れ」(はなれ)

胸を左右に開くように矢を発する。

⑧「残心(身)」(ざんしん)

呼吸にあわせ両拳を腰に戻し、物見を静かに戻す。

ここでは、八節について簡単に説明していますが、これでは、出題の意図にあっていません。しおりでは1頁を使って、詳しく解説しています。各自の動作を今一度見直して、しっかりと記述できるよ

うにしましょう。

設問1と同様に、日々の練習できちんと行っていれば、その動作を記述してすることができるはずです。

設問1、2は、弓道の基本となる事項です。当然、的中にも関係してきますから、しっかりと覚えて、審査のみならず、競技でも良い成績を取めてください。

一例として、昨年までの問題から、「足踏み」について載せておきます。

「射法八節の「足踏み」について述べなさい。」（弓道教本 p105 参照）

「足踏み」は、弓を射る場合、その基礎となる最初の足の踏み方―「足がまえ」―である。

矢が正しく的にあたるためには、まず正しい姿勢を作ることが必要で、そのためには正しい足踏みをしなければならない。単なる足開きではない。

「足踏み」は、射位（弓を射る位置）で脇正面に向かって立ち両脚を的の中心と一直線に外八文字に踏み開く動作である。その角度は約60度で、両脚の間隔は自己の矢束とする。

的を見ながら左足を的に向かって半歩踏み開き、次に右足をいったん左足の辺りに引きつけ、右へ一足で扇形に踏み開く。この場合、足下を見ないで行う。

このとき開く両脚の膝関節は常に自然に伸び、足底を大地に踏みしめ、腰を据え、下半身を安定させ、「胴造り」の基礎とする。

☆式段

1. 「執弓の姿勢」について説明しなさい。

（弓道教本 p 88 参照）（しおり「8. 矢を射るときの動作の仕方」）

前年度までは、無指定・初段で出題されていました。

弓矢を持って姿勢を整え、動作を行うことの基本として、弓矢がどのような位置にあるべきなのか、必ず意識しましょう。

正しく立った姿勢（また跪座した姿勢）で両手に弓矢をもつ。これを執弓の姿勢という。左手で弓の握りの部分をもって、弦を外にして、弓を持つ拳は腰の辺りにとる。弓の末弭は、体の全面中央で床上約10cmの位置に保持する。矢は、板付（矢の根）を前にして、右手の小指と薬指で矢を持つ心持ちで、親指と人差し指で輪のようにして射付節を握り、矢をもつ手を腰の辺りにとる。矢先の延長線は弓の末弭に向かい、ほぼ二等辺三角形となるようにする。

このとき、弓と矢は水平面に対して同じ角度でなければならない。

両肩を平らにし、肘を張らず、両手は相対し円相となり、体を正しくして腰を据え、心気を整え、伏さず、反らず、固からず、緩からず、従容たる自然体で、体と弓矢が一体となることが望ましい。

2. （坐射での）「矢つがえ動作」について説明しなさい。

(弓道教本第1巻 p94 参照) (しおり「8. 矢を射るときの動作の仕方」)

高校生では、最も雑に行われている動作ではないでしょうか。しおりには、「胴造り」の項目にその動作を詳しく書いてあります。実際には、仕掛けの位置や形、矢番えする位置によって、矢所も変化します。今一度、動作も含めて見直しましょう。

弓を膝頭より 10cm 当たりの体の中央に立て、動かぬように正しく垂直に持ったまま、右手で弦(弓の下の成り場。ほぼ腰の高さ)をもって、体が動かないように保ちつつ、両手でものをだきかかえるようにして右手を左拳を越すところまで送り出し、目は矢に沿って羽を見て、甲矢・乙矢の見分けながら、甲矢を左手の人差し指と中指の間に挟み、顔を戻し、右手を矢に沿って返し、筈をもって一度に送り(繰り込み)矢を番えます。「右手を矢に沿って返す」場合、甲矢にそって右手を動かしますが、右矢が甲矢を越してしまわないようにします。

甲矢を番えたのち、乙矢をいったん垂直に立ててから(筈は床につけない)、羽を的の方に向け(甲矢と反対にする)、矢の走り羽を下にして薬指と小指の間に打込み、大体矢の射付節(鏃から 10cm ぐらい)のところを弦にあて、甲矢と乙矢が平行するように持ち、右手は腰のあたりに戻します。

弓を体の中央に立てた場合は、弦が顔の中心(鼻筋)にあるようにします。この位置は、腰を切って立つまで変わりません。一連の動作の間、弓は斜面打起こしの場合は、二度に矢を送る場合は、矢の中ほどをもって送り、次に筈をもって送りこむ。この場合、乙矢は中指と薬指の間に打ち込む。

なお、弓礼・弓法問答集 p2-Q5 で弓道教本第4巻 p240~242 を指示しています。上記内容は、その内容も合わせた動作を記述してあります。第四巻では「跪坐の体構えの保持」「動作の連続性」「氣息の調和」等の記述があり、高校生には難しいかもしれませんが、動作をきちんと行うことに心がけましょう。

3. (立射での)「矢つがえ動作」について説明しなさい。

(弓礼・弓法問答集 p2-Q3)

坐射に準じて行いますが、執弓の姿勢から末弭を床につけ、左拳は腰につけたまま弦を返して弓矢を抱え込み、甲乙を見分けて甲矢を番えた後、乙矢を打込み、本弭を膝頭にのせ右拳を腰の辺りにとります。

矢番えをする高さは、坐射の際の位置、およそ肩の高さとして、弓と弦の間に顔が来る位置で矢番えを行います。

この時が、「胴造り」の完成になるため、弓と弦の間に顔が入る位置に弓を保持します。矢は、床面と平行になるように、的方向を向くように保持します。

乙矢の矢番えも、弓倒し後、末弭を床につけて弦を返し、乙矢を番えます。

また、設問とは関係がありませんが、通常、大会などは四つ矢で行います。その場合は、この矢番え動作の前に、四つ矢のさばき方が必要になる場合があります。

(弓礼・弓法問答集 p19-Q83→弓道教本 p182、弓道競技規則第15条及び別表)

坐射の場合は、跪坐して脇正面に向き変わるとともに、前の射手の右側に弓を倒し（末弭を床につけ）、四つ矢を体の前方におく（矢の中心を体の中央にする）。

前においた四つ矢のうち一手の筈を持ち、体の右わきに運び、射付節をもって右手拳を腰のあたりにおく。そののち弓を矢の内側、体の中央に立て矢を番える。

別表 15 条③（坐射の簡易法）

四つ矢のうち、一手を体の前方（板付が中央）に置く。

残りの一手を持ったまま、右手拳を腰のあたりに置く。

立射の場合は、坐射の簡易法と同じです。

4. 「三重十文字」について説明しなさい。

（弓道教本 p117 参照）（しおり「7. 射の基本」）

両足を結ぶ線、腰、両肩が、それぞれ背骨と直角に交わり、上から見たとき3つの横線が重なっているような状態をいう。これは、縦線を構成する基本条件とされる。三重十文字には両「ひかがみ」の働きが大切である。

「ひかがみ」は、脚の膝関節の裏側で、両脚の安定をはかるためにこれを張ることが大切である。

三重十文字の横の線は、床と平行になります。両肩の線は打起し以降の過程で肩と矢の方向を平行として矢が的方向に向かうことを意味します。また、腰の線は上半身を安定させるために必要です。腰を安定させるには、両足が左右均等であり、そのことで、背筋の縦線が重心位置として安定します。

5. 動作の注意点について説明しなさい。

（弓道教本 p 62）（しおり「7. 射の基本」）

これは、「基本の姿勢と動作の様式」を行う際に注意すべき内容です。教本に記述されているとおり、意識して練習してもらいたい。しおりの内容は、参段の「射法・射技の基本」に相当するものです。共通する部分があるので、参考にしてください。

心得（注意点）は以下の通り

- ① 体の構えや起居進退を心に銘じ、心に覚えて動作をする。これが「生氣体（実体）」となる。心を離れて形ばかりにとらわれては死気体（虚体）となる
- ② 起居進退にもっとも大切なことは「胴造り」の完成は自然体であり、容儀を正しくする根本である。
- ③ 「目づかい」は大切であり、心のまとまりは目づかいによって示される。
- ④ 動作は、「正しい呼吸」に合わせて行うことがよい。動作と息合いとの関係は大切である。
- ⑤ すべての動作は「腰」が基幹となる。腰が据わっていなければ体は崩れ、動作が乱れる。
- ⑥ 動作には「残心（身）」が大切である。動作の決まるところには特に気を注ぎ、残心（身）が伴わなければならない。
- ⑦ 動作には、すべて「間」が大切である。
- ⑧ 動作は、「初めのうちは基本に則り、大きく且つ急所急所を確実に行う」ことが

◎ B群（理念・概念・修練姿勢等）

B群については、自分の言葉で、日常の生活、特に部活動やら、高校生活との関係から、文章を書いてください。ここに記述してあるものは、解答例で、模範解答ではありません。丸写しなどは論外です。どんな形でもよいので、まず練習で書いてみることです。書いたら顧問の先生にみてもらいましょう。

学科試験で注意するのは、第1が「読みやすいこと」であり、第2は「質問の意味をきちんと押さえていること」です。乱雑な字や、誤字、ひらがなの多用などは、「読みにくさ」の山盛りです。筆記具も「B」など色の濃いものを用いてください。

一つの観点として、初段の1～4番などは

「自分が何をしているのか」

「自分が心がけていることはなにか」

「自分はどうか考えたか」

というように、そこに「弓道をやっている自分」があらわれるとよいと思います。

「だれその話では・・・」とか、「・・・と言われている」というのは望ましくありません。

しかし、それを受けて

「(そのことに対して)自分は、このように考えている」

「自分は、こんなことを心がけている」などと書くのは、むしろ良いでしょう。

「一般的なこと」を知ったうえで「自分はどうしているか」ということは、弓道をより深く理解していることになります。

また、「簡潔に書く」というのは、物事の本質を見極めていなければ、書けるものではありません。無理ならば、知っていることを、箇条書きでもいいので、書いてください。

そのときになって困るのではなく、日頃から「活動のしおり」などを読んで、十分に理解し、日頃の練習でも、実践できるように理解し、後輩に説明できるようにしておけば、審査のときにも、あせらず、書けるような知識を身につけていると思います。

☆ 無指定・初段 (無指定については、術科にて「初段候補」とされた場合)

1. 弓道を始めた動機(きっかけ)について述べなさい。

(例) 部紹介で見て、恰好いいと思った。

武道がやって見たかった。

それほど厳しくなく、簡単そうに見えた。

集中力が無かったので。

段位を取りたかった。

インターハイで活躍したかった。

2. 弓道を通じてどのようなことを学びたいと思いますか。

(例) 弐段を取りたい。

インターハイに出場したい。
大会で良い成績を残したい。
集中力がなくて、集中力を高めて精神的に強くなりたい。

3. 弓道を学んで良かったと思うことを述べなさい。

(例) 自分自身の意識を安定させ、規範を確立させることができる。
なにより、集中力がついた。
人から学ぶ気持ちを持つことができた。

4. あなたは危険防止のためにどんなことに注意していますか。

この点については、部顧問の指導者よりきちんと指導を受けてください。

危険防止については、弓道を行う上でもっとも重要なことです。例に示したような4つの項目については、自分自身の部活動において、必ず確認されるべき事ですので、それぞれについての注意事項を、各自の実践を元に記述してください。

(例) 防護ネットの設置などの、施設の安全点検
(巻藁の設置場所、看的の防護板など)
矢尺をはじめとして、道具の安全確認
(矢の曲がりやキズなど、巻藁矢のささくれ、羽根の浮き・痛みなど)
鏃など向きを考えた、周囲への配慮
(巻藁矢を抜く時の後方確認や、弓矢を持つての移動)
矢取りや練習時の、相互の安全確認
(矢取りを行う際に、射場からの返答を待たず飛び出すなど)

(弓道指導の手引 p50-51 参照) 日本武道館・全日本弓道連盟 刊
「弓道授業指導の手引指導」における指導細案の安全指導の項目 全日本弓道連盟刊

☆武段

1. 弓道を学んで感じていることを述べなさい。

各自の部活動、学校生活、日常生活から、作文して下さい。
部活動との関係では、
先輩後輩の関係。危険防止の意識(周りを確認する)。自分以外の人に配慮する。
集中力の向上。言葉使いなど。
例外的ですが、弓道と関連した内容で、感動したことや得をしたことなどでも良いかも知れません。
たとえば、国語の授業で、「徒然草の九十二段の或人、弓射る事を習ふに・・・」のところで、その内容がとてもよく分かったとか、古典に出てくる言葉が、弓道と関わり合っていて興味深かったなど

も高校生らしくと思います。

藤原道長の逸話や、屋島の戦いでの那須与一や源義経の逸話などもあり、三十三間堂の通し矢など、古典には弓道との関わりのある内容も多くあります。

一方、雛人形の段飾りなどでは両大臣が弓矢を持っていることや、昔の風呂屋の看板に的に当たった矢や弓矢が使われたことなど、日常とは離れますが知っておいても損は無いです。

ちなみに 「弓射る」→「ゆにいる」→「湯に入る」 です。

2. あなたの弓道修練の目標について述べなさい。

(弓道教本 p15)

「修練」であって「練習」ではない。弓道は武道であり、自らを律するべきものがあるはず。教本では、「弓道修練の眼目」として宇野要三郎範士の言にある、次の4つをあげています。

「射法、射技の研修」、 「礼に則した体配の修練」、
「射品、射格の向上」、 「人間完成の必要」

また、「弓道修練の眼目」の延長線上として、礼＝道徳として、日常生活との関わりを示しています。さらには、弓道の最高目標は「真・善・美」です。

武道というのは、日常なことから始まっていきます。

的中だけにこだわらず、仲間との協力や、日常的生活態度、将来への展望など、弓道修練の目標は数多くあります。

自分が弓道を学んでいく、あるいは練習していくうえで、自分自身がどのように考えているのかじっくり考えてみてください。

3. 弓道が他のスポーツと異なる点について述べなさい。

(弓道教本 p42 参照) (しおり「7. 射の基本」)

弓道が他のスポーツと異なる点については、しおりに「弓道の特徴」を参考して、考えてもらいたい。

- ① 全身の筋肉の静的緊張と努力を要求する運動である。
- ② 正しい姿勢を要求する運動である。
- ③ 正確さを要求する運動である。
- ④ 自己統制を要求する運動である。
- ⑤ スポーツマンシップを要求する運動である。
- ⑥ 安全についての発達を促す運動である。
- ⑦ 個人でも楽しく行うことのできる運動である。
- ⑧ 誰でも行うことができる運動である。
- ⑨ 疲労の少ない運動である。
- ⑩ 知的発達をはかり、教養を高めることのできる運動である。

これらの項目が明らかに他のスポーツと異なるとはいえない部分もある。

そのほかにも、

- ア) 走ったり、飛んだりの動作がない。
- イ) 競技中、縦軸(背骨)を移動したり変化したりしない。
- ウ) 始めの構えを修正する機会がない。

といった項目をあげる研究者もいる。

また、スポーツは人為的ルールによって試合が運ばれ競技が行われるのに対し、武道における練習や修練が、天の道、人の道といった大きな自然の決まり中で行われている点がある。弓道競技としての規則は存在するが、的中だけにとらわれない精神性を持つことが強調されている。

4. あなたが審査を受ける目的について述べなさい。

(弓道教本第3巻p 4-45 参照) (しおり「14. 審査、行射の心構えと要領」)

高校生の場合は、競技会があり、それが、大きな目的・目標となっていることから、審査を受ける目的も、それぞれに異なってきます。

たとえば、

- (ア) 自分の修練の段階を意識すると共に、到達度や目標を明確にできる。
- (イ) 自分の技量を、他者によって評価され、資格認定を受ける。
- (ウ) 合格に向けての、自分の持てる力を最大限に発揮できるようにすること
- (エ) 日頃から、基本に則り、体配、射術のバランスのとれた練習を行うこと。
- (オ) 審査とあって、ことさら特別に構えるのではなく、平常心を養い、自分の力が十分に出せるようにすること。

審査の当日、日頃の行射ができない場合や、一方で自分でもビックリするような良い射ができる場合もあります。心と技のバランスにより起こることですが、審査にかぎらず、試合でも起きることです。高校生にとっては、試合同様、十分な準備と練習が必要になります。

入退場、坐射の体配など、射技とは異なると思われがちですが、立つ、坐るができない生徒は、胴造りや足踏みなども不十分であることが多いようです。的中は、左右のバランスが取れ、タイミング良く離せば、得ることができる。的中があっても不合格となり、残念でも合格になるのは、的中と体配のアンバランスによるものだと考えて下さい。

高校生についていえば、的中がある者は、体配を意識することで、射形そのものにも良い影響が現れ、合格の可能性が高くなるでしょう。一方、中の低い者についても、坐射を行うこと、射法八節を元にした射形を意識することで、的中も向上することになります。

高校生が審査を受けることは、単に段位取得というだけではありませんが、審査は費用がかかることもあり、「受けるだけ」では「労多くして益少し」です。審査を受審することで、部員の射技の向上をはかり、相互の研修に利用してください。

5. 危険防止について心掛けていることを述べなさい。

「危険防止」については、段位や経験に関係はありません。日頃からしっかりと危険防止に取り組むことが大切です。

式段を受審するような人は、自分だけでなく、周りへの配慮や指導的な立場として、危険防止の意識を強く持ってください。

参段以上については、個別に対応してください。

18. 地方審査実施要項

岐阜県弓道連盟（高体連版）

- 注意
- ・段位の受審は、認許後5ヶ月を経過していなければなりません。
 - ・岐阜県及び近県の連盟会員である事、非会員は県会費500円を納入します。
高校生は、部活動に参加した際に登録がなされているはずですが。
 - ・申込書の書き方は別紙「記入方法」を参照し、正しく記入してください。
特に、ID番号未記入、記入漏れ、記入ミス等は、受け付けてもらえません。
ID番号は、弓道部入部時に登録申請を行い、それぞれ発行、付与されています。
また、審査には必ずID番号が必要ですから、高校入学以前に審査を受けたことのある人は、IDを持っています。高校での登録の際に、必ず申し出てください。
 - ・段位については学科試験があり、問題が提示されています。きちんと学習しておきましょう。

申請段級位について

審査申込について、初めての場合は、無指定で行います。

2回目以降、初段までは、申込時に指定できます。（飛び級）

例；2級の人が、前回の審査より、著しく上達したと思われる場合、初段を申請することができます。

同様に、3級の人が、1級や初段を受けることもできます。

ただし、不合格の場合は、その級位のままです。

飛び級で申請しようとする人は、自分の判断だけでなく、顧問の先生や講師の先生とよく相談してください。

諸経費

（平成26年4月改定）

	審査料	登録料		
		全日本弓道連盟納入	岐阜県弓道連盟納入	納入合計額
級位	1,030円	1,030円	500円	1,530円
初段	2,050円	3,100円	1,000円	4,100円
貳段	3,100円	4,100円	1,300円	5,400円
参段	4,100円	5,100円	1,500円	6,600円
四段	5,200円	6,200円	2,000円	8,200円

審査料は申込書に添えて納入します。

登録料は、審査終了後に納入します。

なお、無指定の申請で初段合格の場合は、審査料差額の1,020円を加算して、納入してください。
高校生の場合、不明な点は顧問の先生を通して、審査事務局にお問い合わせください。

その他 ・災害等で中止する場合は、岐阜県弓道連盟ホームページに掲載されますので

<http://www.gifu-kyudo.com/index.html> を見てください。

・学科試験の回答は日本語または英語とし、英語で解答する場合は、申込書の受審者連絡欄に「学科英語」と朱書きしてください。

学科試験問題英語版については、全日本弓道連盟ホームページ→
申請書類各種→書類ダウンロード から入手して下さい。

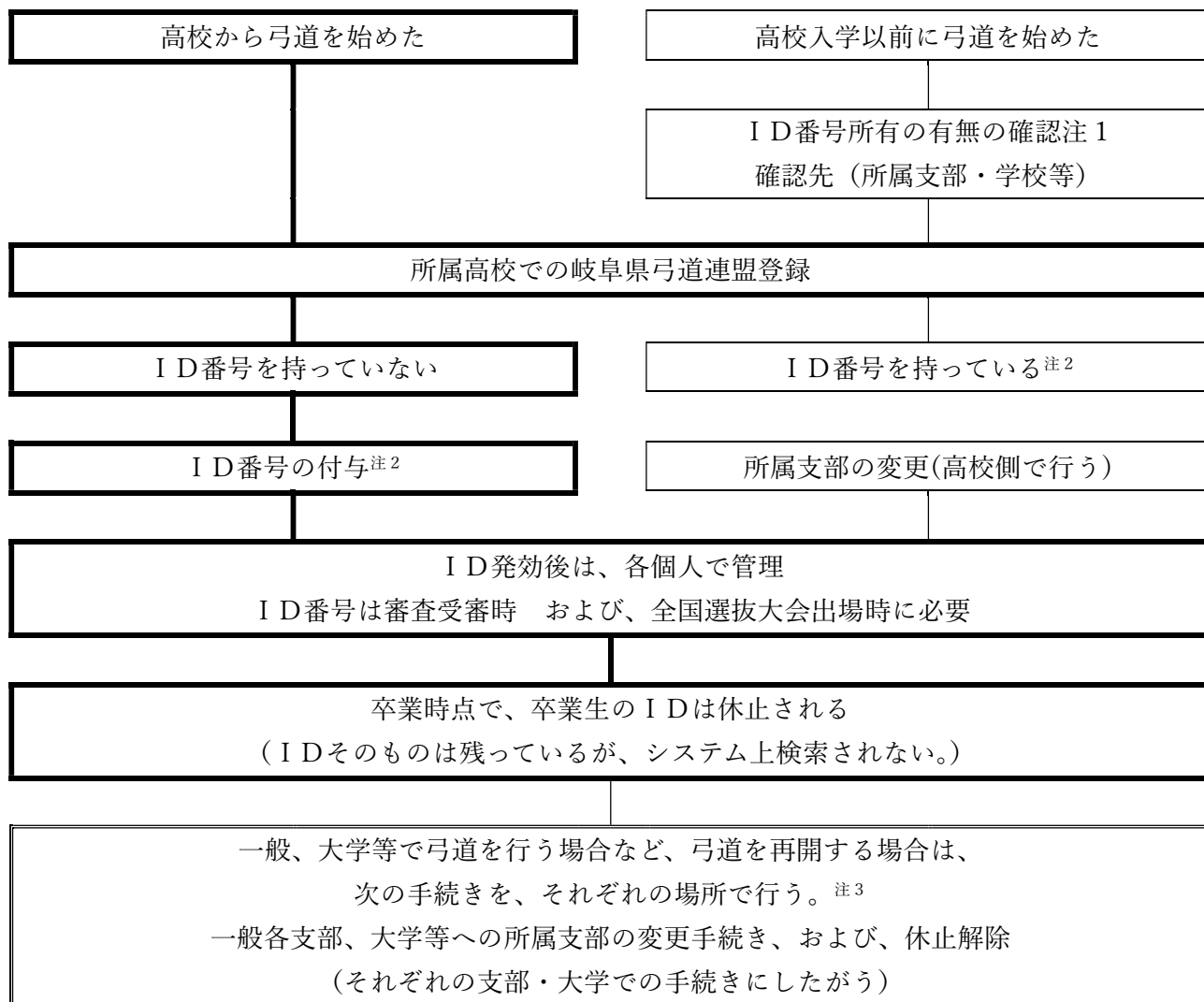
19. 全日本弓道連盟 I D 登録について

現在、全日本弓道連盟では、全国の弓友すべてに、I Dを付与し、所有称号段位等の管理や、全国規模の大会の登録などの簡素化を行っています。

高校生の諸君は、原則として高校入学時に岐阜県弓道連盟の登録を行うと共に、全日本弓道連盟のI D登録が行われています。

このI D登録については、平成19年度より、以下のように扱っています。

登録、および、変更等のながれ。



注 1 I D 番号は、審査の受審経験があれば、所有しています。

注 2 I D 番号は、永久使用です。1 度、登録を行えば、その番号は変わりません。登録時の所属団体・年齢などに関わらず、1 度発行されれば変わりません。

注 3 番号が不明な場合は、高校生は顧問の先生に問い合わせてください。卒業生については、Web ページからメールで担当者に問い合わせてください。(書式はありませんが、きちんとしたメール文面を作成してください)

補足：I D カードについては、平成 19 年度以降の新規発行はしていません。高校ごとにお知らせする I D 一覧をご参照ください。

平成 26 年度から、一般登録は全日本弓道連盟登録費が必要となります。

高体連弓道専門部 Web ページ

<http://www.gifukyudo.sakura.ne.jp>

大会結果など、詳細を知ることができます。

大会要項や、各種データをダウンロードできます。



岐阜県 栄光の記録

1 全国大会の入賞記録

令和5年度まで

年度	大会名（開催地）	種別	成績	チーム・選手名
昭和 36	全国高校総体（静岡）	女子団体	3位	多治見女子 監督 ？ 奥村素子、肥田桂子、加藤洋栄
38	国民体育大会（山口）	少年女子	近的7位	岐阜県（多治見女子） 監督 川本多寿 大野みえ子、古田澄子、鱈部尚躬
40	国民体育大会（岐阜）	少年男子	近的2位	岐阜県（岐阜西工） 監督 萩野雅美 各務光明、森崎正敏、岩田修
		少年女子	近7位遠7位 総合8位	岐阜県（岐阜一女） 監督 可児孝子 池畑みゆき、小池房子、渡辺美智子
44	国民体育大会（長崎）	少年女子	近8位遠3位 総合4位	岐阜県（選抜チーム） 監督 梅村昇治（大垣商） 武藤美保子（岐阜女）、武井一二三（議） 近藤勢津子（大垣商）、川合敏子（大垣商）
46	全国高校総体（高知）	女子個人	4位	花木照美（大垣商）
47	国民体育大会（鹿児島）	少年女子	近3位遠5位 総合8位	岐阜県（選抜チーム） 監督 萩野雅美 市原末子（議）、林 君子（議）、 大塩智子（大垣北）、傍島佳恵（大垣北）
53	全国高校総体（福島）	女子個人	4位	大石貴久子（加茂）
54	全国高校総体（奈良）	男子団体	3位	大垣工 監督 清水要雄 ？
		男子個人	4位	森 重治（大垣工）
55	全国高校総体（徳島）	女子個人	4位	天池恵美子（加茂）
57	全国高校総体（鹿児島）	男子個人	2位	橋本佳也（大垣商）
61	国民体育大会（山梨）	少年男子	近5位遠7位 総合5位	岐阜県（土岐商） 監督 松井光雄 伊藤宏司、小栗徹也、宮地伸一
62	全国高校総体（北海道）	女子個人	優勝	大工有喜子（土商）
平成 1	全国高校弓道選抜大会 （東京）	男子団体	3位	土岐商 監督 松井光雄 石田浩一、伊東直紀、伊藤健吾
		女子団体	3位	大垣北 監督 ？ 高田友紀、鈴木祝子、水野和美
3	全国高校弓道選抜大会 （東京）	男子団体	3位	岐阜西工 監督 清水要雄 坪井芳史、佐藤英次、堀江典之
平成 5	全国高校弓道選抜大会 （東京）	女子団体	2位	大垣商 監督 問山悦男 大石桂子、高木幸枝、堀恵美子
6	国民体育大会（愛知）	少年男子	近的優勝 総合4位	岐阜県（岐阜西工） 監督 清水要雄 小池慎護、細江恵也、末次要治

年度	大会名（開催地）	種別	成績	チーム・選手名
8	全国高校総体（山梨）	女子個人	7位	高木純子（大垣商）
	国民体育大会（広島）	少年男子	遠的3位 総合6位	岐阜県（岐阜西工）監督 清水要雄 大澤宏紀、加納誉真、墨 幸隆
		少年女子	近的2位 総合4位	岐阜県（大垣商） 監督 問山悦男 高木純子、谷口英美子、川瀬祥子
9	国民体育大会（大阪）	少年女子	近的2位 総合5位	岐阜県（恵那ブロック）監督 松井光雄 内木 愛、水野富美、大山知美 （恵那北）（明智商）（恵那北）
	全国高校弓道選抜大会 （岐阜）	男子団体	優勝 技能優秀校	中京商業 監督 林 勇人 三木孝紀、鈴木康仁、中嶋佑樹
		男子個人	6位 技能優秀者	三木孝紀（中京商）、
		女子個人	5位	平島千晴（大垣商）
10	国民体育大会 （神奈川）	少年男子	遠4位遠6位 総合6位	岐阜県（東濃ブロック・中京商）監督 林 勇人 三木孝紀、長井浩之、中嶋佑樹
		少年女子	近的6位	岐阜県（西濃ブロック・大垣商） 監督 問山悦男 臼井恵子、長柄由香、平島千晴
12	全国高校総体（可児）	男子個人	2位	肥田 和也・中京商業
13	全国高校総体（熊本）	女子個人	8位	早川 知子・中京
	国民体育大会 （宮城）	少年女子	近的2位 総合4位 皇后杯8位	岐阜県（東濃ブロック・中京）監督 林 勇人 植村友美、池上千穂、早川知子
		全国高校弓道選抜大会 （東京）	女子個人	8位
14	全国高校総体（水戸）	男子団体	8位	土岐商 監督 福住則男 高見良太、尾関佑介、佐藤隆彦 長江秀典、田中智久、天野裕章
	全国高校弓道選抜大会 （伊勢）	女子個人	5位	加藤有理（大垣商）
15	国民体育大会（静岡）	女子団体	近8位遠5位 総合6位 皇后杯7位	岐阜総合学園 監督 清水要雄 田代さや香、高木晴加、福田悦子
		全国高校弓道選抜大会 （東京）	男子個人	6位
	女子個人		優勝	棚橋 愛（岐阜総合学園）
16	全国高校弓道選抜大会 （東京）	男子個人	3位 技能優秀	渡辺英右（麗澤瑞浪）

年度	大会名（開催地）	種別	成績	チーム・選手名
1 7	全国高校総体（千葉）	男子団体	6位	中京高校
		女子個人	6位	北 佑子（土岐商業）
	国民体育大会（岡山）	少年女子	近の8位	岐阜県（岐阜総合） 監督 清水要雄 岩井彩、大中悠未、野村知早
1 8	全国高校総体（大阪）	女子個人	近の8位	瀬上 涼佑子（中京）
2 0	全国高校総体（埼玉）	女子団体	3位 技能優秀校	岐阜総合学園 監督 清水要雄 長屋 ・小野木・堀・角・堀部
2 1	全国高校総体（奈良）	女子団体	7位	岐阜総合学園 監督 清水要雄 安藤・小野木・杉山・角・岸本
		男子個人	8位	山形 拓雅（多治見工業）
	国民体育大会（新潟）	少年女子	近の優勝	岐阜県選抜チーム 監督 清水要雄 安藤・小野木・堀部・角（岐阜総合）
2 2	全国高校総体（沖縄）	女子団体	優勝	岐阜総合学園 監督 清水要雄 石神・岡田・加野・松山・藤塚・汲田
		男子個人	5位	藤井 魁人（中京）
2 3	国民体育大会（山口）	少年女子	近の優勝 遠の準優勝	岐阜総合学園 監督 清水要雄 岡田・汲田・石神・藤塚（岐阜総合）
2 4	全国高校総体（北信越）	女子個人	3位	柳瀬 希（中京）
	全国高校弓道選抜大会 （神奈川）	女子個人	2位 技能優秀	森川 未和子（岐阜総合）
		男子個人	7位	脇田 政宏（麗澤瑞浪）
2 5	全国高校総体（北九州）	女子団体	3位	岐阜総合学園 監督 柴田健治 森川・澤田・衣笠・松山・岩田・馬場
	国民体育大会（東京）	少年男子	遠の第5位	岐阜県選抜 監督：早瀬（武義） C：小森（大商） 西村（関商工）・尾口（関商工）・春日井（土岐商）
		少年女子	遠の第5位	岐阜県選抜 監督今井（益田清風） C：柴田（岐阜総合） 森川・衣笠・岩田（岐阜総合学園）
	全国高校弓道選抜大会	女子団体	3位	岐阜総合学園 監督 柴田健治 馬場・平光・小野木・山元
男子個人		3位	三島汰市（高山工業）	
2 6	国民体育大会（長崎）	少年女子	近の7位	岐阜県選抜 監督今井（益田清風） C：柴田（岐阜総合） 加藤（土岐商）・国本（大垣商）・馬場（岐阜総合）
2 7	全国高校総体（近畿）	男子団体	4位	益田清風高校 監督 今井誠 池上・岡崎・桂川・野村・小越・吉田

年度	大会名（開催地）	種別	成績	チーム・選手名
28	国民体育大会(岩手)	少年男子	近的優勝 遠的2位	岐阜県選抜 監督加藤(中京) C:小栗(中津川工業) 石原(関商工)・岡野(中京)・河野(中京)
		少年女子	遠的8位	岐阜県選抜 監督小森(大垣商業) C:今井(飛騨高山) 大橋(大垣商)・竹中(大垣商)・杉岡(大垣商)
29	国民体育大会(愛媛)	少年男子	近的2位 遠的8位	岐阜県選抜 監督加藤(中京) C:小栗(中津川工業) 早川(中京)・平尾(東濃実業)・森(大垣商業)
30	国民体育大会(福井)	少年男子	近的優勝	岐阜県選抜 監督加藤(中京) C:小栗(岐阜総合) 平松(大垣商業)・草野(中京)・長島(中京)
	全国高校弓道選抜大会 (岡山)	女子団体	準優勝	大垣商業 監督 小森升裕 小池・國枝・岩田・青木
		男子個人	8位	棚瀬尚也(大垣商業)
令和 1	全国高校弓道選抜大会 (群馬)	男子団体	5位	岐阜総合学園 監督 小栗寛丈 尾崎・田中・加藤・飯吉
	2	全国高校弓道選抜大会 (岐阜)	男子団体	優勝
3	全国高校総体(北信越)	男子団体	7位	中京 監督 加藤隼人 富田・岡野・林・柴田・三宅・加納
		男子個人	優勝	柴田幸次郎(中京)
	全国高校弓道選抜大会 (茨城)	男子団体	ベスト8	大垣商業 監督 小森升裕 林・水原・石・高木
		女子個人	準優勝	磯貝優羽(中京)
4	全国高校総体(四国)	男子個人	6位	小竹航平(大垣北)
		女子個人	3位	井澤 空(中京)
	国民体育大会(栃木)	少年男子	近的3位	岐阜県選抜 監督小森(大垣商業) C:今井(益田清風) 小竹(大垣北)・柴田(中京)・岡野(中京)
		少年女子	近的8位 遠的6位	岐阜県選抜 監督加藤(中京) C:小栗(岐阜総合学園) 田中(中京)・磯貝(中京)・林(岐阜総合)
	全国高校弓道選抜大会 (熊本)	女子団体	ベスト4	大垣商業 監督 小島千佳 吉田・小椋・三摩・高橋
		男子個人	3位	小竹 航平(大垣北)

5	全国高校総体（北海道）	男子団体	ベスト4	中京 監督 加藤隼人 大西・竹内・水野・國場・山田・金田
		女子団体	ベスト8	大垣商業 監督 小島千佳 吉田・渡邊・小椋・高橋・三摩・川添
	全国高校弓道選抜大会 （東京）	女子団体	優勝	岐阜各務野 監督 柴田侑希 長尾・三宅・多田・宮澤

校名については、当時のままである。

2. 東海地域大会の優勝記録 (団体のみ)

令和5年度まで

年度	大会名	優勝チーム
昭和34	東海高校総体	男 武義
37	東海高校総体	女 多治見女
38	東海高校総体	女 多治見女
	国体東海予選	女 岐阜県
40	東海高校総体	女 岐一女
42	東海高校総体	男 大垣商
43	国体東海予選	男 岐阜県
44	東海高校総体	男 大垣商
	国体東海予選	女 岐阜県
46	東海高校総体	女 大垣商
	国体東海予選	男 岐阜県
47	国体東海予選	男 岐阜県
		女 岐阜県
50	東海高校総体	女 加茂
57	東海ミニ国体	男 岐阜県
		女 岐阜県
58	選抜東海予選	男 岐阜工
60	選抜東海予選	女 大垣商
61	東海ミニ国体	男 岐阜県
62	東海高校総体	男 大垣工
平成 1	選抜東海予選	男 土岐商
5	選抜東海予選	女 大垣商
6	東海ミニ国体	男 岐阜県
	東海高校選抜	男 岐阜西工
7	東海高校総体	男 大垣商
		女 大垣商
	東海高校選抜	女 東濃実業
8	東海高校総体	男 岐阜西工
		女 中京商
	東海ミニ国体	女 岐阜県
	東海高校選抜	男 斐太
		女 大垣商

年度	大会名	優勝チーム
平成9	東海高校総体	男 岐阜総合
	東海ミニ国体	女 岐阜県
10	東海高校総体	男 関商工
	東海ミニ国体	男 岐阜県
		女 岐阜県
11	東海高校総体	男 中京商業
		女 大垣商業
12	東海高校総体	男 中京商業
13	東海高校総体	男 岐南工業
14	東海ミニ国体	男 岐阜県
15	東海高校総体	男 土岐商
	東海ミニ国体	男 岐阜県
16	東海高校総体	男 土岐商
		女 中京
	東海高校選抜	男 中京
女 武義		
17	東海高校総体	男 中京
20	東海高校総体	女 岐阜総合学園
	東海高校選抜	女 岐阜総合学園
21	東海高校総体	女 岐阜総合学園
22	東海高校総体	男 中京
		女 岐阜総合学園
23	東海高校総体	男 関商工
26	東海高校選抜	男 岐南工業
27	東海高校総体	男 益田清風
29	東海高校選抜	女 多治見西
30	東海高校総体	男 中京院中京
		男 岐阜県
	東海ミニ国体	女 岐阜県
		女 岐阜県
令和1	東海高校総体	男 岐阜総合学園
		女 大垣商業
	東海選抜	男 大垣商業
3	東海選抜	男 中京

年度	大会名	優勝チーム	
4	東海ミニ国体	男	岐阜県選抜
5	東海選抜	男	大垣商業
		女	岐阜各務野

年度	大会名	優勝チーム
----	-----	-------

3 全国大会出場校

◎全国高校総体出場（個人は延べ人数）

（令和5年度まで）

男 子				女 子			
回	団 体	人	個 人	回	団 体	人	個 人
		18	中京	23	大垣商業		
		15					
		14	大垣商業			18	大垣商業
		13					
		12		12		12	土岐商
11		11	大垣工業	11		11	加茂
10	中京	10		10		10	
9	大垣商業、 （岐阜西工業）	9		9		9	
8		8		8	武義、土岐商業 岐阜総合	8	中京
7	多治見工業	7	武義	7		7	
6	土岐商業	6	関商工 岐阜総合学園 （岐阜西工業）	6		6	
5	大垣工業、武義	5	多治見工業、 土岐商、大垣北	5	東濃実業、中京 （岐阜一女）	5	（岐阜一女）
4	不破、関商工	4	岐南工業	4	不破	4	東濃実業、武義
3	恵那 多治見西	3		3	（多治見女）	3	（養老女子商） 麗澤瑞浪、済美 益田清風
2	加茂 益田清風	2	不破、中津川工業 麗澤瑞浪、岐阜工業 益田清風、各務原	2	関商工	2	斐太、多治見西 岐阜総合、各務原 岐阜各務野 （多治見女）
1	多治見北、（岩村） 岐阜総合学園 岐南工業、東濃実業 岐阜各務野 麗澤瑞浪	1	加茂、斐太、東濃 恵那、恵那南 多治見西、中津 東濃実業、多治見 土岐商業 （明智商）、（岩村）	1	加茂、（岩村） 東濃、中津商業 多治見西、 飛驒高山	1	（岩村）、大垣北 （明智商）、不破 （益田）、高山、瑞浪 東濃、恵那北、中津 、関商工 大垣養老、多治見

（ ）は、統廃合により学校名が変わったところ。なお、校名変更のみの場合は新校名で記載。

◎全国高校弓道選抜大会出場

(令和5年度まで)

男 子				女 子			
回	団 体	人	個 人	回	団 体	人	個 人
10	中京	10	中京	10	大垣商業		
9		9		9	中京		
8		8		8		8	岐阜総合
7	大垣商業	7		7		7	中京
6		6		6		6	大垣商業
5		5	関商工、大垣商業	5	岐阜総合	5	
4		4	麗澤瑞浪 土岐商業	4		4	
3	武義、土岐商業	3		3	大垣北	3	多治見西
2	大垣工、麗澤瑞浪、 関商工 (岐阜西工)	2	武義、岐南工業 中津川工業 岐阜総合	2	加茂、東濃実業、 益田清風、多治見西 土岐商業、中津商業	2	岐阜各務野 麗澤瑞浪、多治見北
1	岐阜工、斐太 東濃、明智商業 多治見西 岐南工業 岐阜総合	1	大垣工、不破 吉城、高山工業 各務原、岐阜工業 東濃実業、大垣北	1	明智商、武義 中津、岐阜各務野 (益田)	1	東濃実業、武義、加茂 土岐商業、益田清風、 関商工、恵那農業 大垣養老、多治見 中津商業、済美 (岐女商)、(益田)

() は、統廃合により学校名が変わったところ。なお、校名変更のみの場合は新校名で記載。

- ・平成20年より個人は1, 2位が参加

4 国民体育大会少年の部 岐阜県代表チーム出場記録

年度	開催地	少年男子の部	少年女子の部
昭和 38	山口	出場権なし	多治見女子 監督 川本多寿 大野みえ子、古田澄子、鰐部尚躬
40	岐阜	岐阜西工 監督 萩野雅美 各務光明、森崎正敏、岩田修	岐阜一女 監督 可児孝子 池畑みゆき、小池房子、渡辺美智子
43	福井	選抜チーム 監督 渋谷紀興(武義) 古田久規、石原宗雄、宮崎 修、沢村章安 (武義) (大垣商) (不破) (武義)	出場権なし
44	長崎	出場権なし	選抜チーム 監督 梅村昇治(大垣商) 武藤美保子、武井一二三、近藤勢津子、川合敏子 (岐一女) (武義) (大垣商) (大垣商)
46	和歌山	選抜チーム 監督 大竹正紀(大垣北) 家田 博、野村周一、笠井 智、多和田幸三 (武義) (麗澤瑞浪)(岐西工)(不破)	出場権なし
47	鹿児島	選抜チーム 監督 大竹正紀 森本高根、小野賀根雄、柏瀬尊彦、 伊藤 等 (大垣北)	選抜チーム 監督 萩野雅美(大垣工) 市原末子、林 君子、大塩智子、傍島佳恵 (武義) (武義) (大垣北)(大垣北)
57	島根	選抜チーム 監督 清水要雄 西部好剛、橋本佳也、村瀬安則 (武義) (大垣商)(多治見工)	選抜チーム 監督 問山悦男 大橋美恵子、大島ゆかり、横井礼子、 (大垣商) (明智商) (土岐商)
61	山梨	土岐商 監督 松井光雄 伊藤宏司、小栗徹也、宮地伸一、	出場権なし
平成 6	愛知	岐阜西濃(岐阜西工) 監督 清水要雄 小池慎護、細江恵也、末次要治、	出場権なし
8	広島	岐阜西濃(岐阜西工) 監督 清水要雄 大澤宏紀、加納誉真、墨 幸隆、	岐阜西濃チーム(大垣商) 監督 問山悦男 高木純子、谷口英美子、川瀬祥子、
9	大阪	出場権なし	恵那チーム 監督 松井光雄(恵那北) 内木 愛、水野富美、大山知美 (恵那北) (明智商) (恵那北)
10	神奈川	東濃チーム(中京商) 監督 林 勇人 三木孝紀、長井浩之、中嶋佑樹	西濃チーム(大垣商) 監督 問山悦男 臼井恵子、長柄由香、平島千晴
13	宮城		東濃チーム(中京商) 監督 林 勇人 植村友美、池上千穂、早川知子
14	高知	岐阜チーム 監督 清水要雄 小島秀之、萩野幸弘、田中勇輝 (岐南工)(岐阜工)(岐阜総合)	出場権なし
15	静岡	土岐商業 監督 福住則男 水野雄太、水野統之、長江秀典	岐阜総合学園 監督 清水要雄 田代さや香、高田晴加、福田悦子
16	埼玉	出場権なし	岐阜総合学園 監督 清水要雄 棚橋 愛、水野里香、迫 詠子
17	岡山	中京 監督 加藤 隼人 大橋祐介 加藤智也 北野博数	中津商業 監督 伊藤則生 田口綾香、成瀬梨紗、田口恵利香
20	大分	出場権なし	岐阜総合学園 監督 清水要雄 長屋 恵、角 紗織、堀部ともみ
21	新潟	出場権なし	選抜チーム 監督 清水要雄 安藤絢美・小野木希望・堀部ともみ (岐阜総合学園)

年度	開催地	少年男子の部	少年女子の部
平成 22	千葉	出場権なし	選抜チーム 監督 清水要雄 石神かおり・岡田愛理・藤塚結貴 (岐阜総合学園)
23	山口	出場権なし	選抜チーム 監督 清水要雄 石神かおり・岡田愛理・汲田麻衣・藤塚結貴 (岐阜総合学園)
24	岐阜	選抜チーム 監督 石原友平 品川純輝、鈴木健一、林泰佑 (中京) (中京) (麗澤瑞浪)	選抜チーム 監督 今井 誠 森川美和子、安藤千尋、高橋可奈 (岐阜総合) (関商工) (岐阜総合)
25	東京	選抜チーム 監 早瀬郁夫 C小森升裕 西村瑛晃、尾口僚、春日井陽介 (関商工) (関商工) (土岐商業)	選抜チーム 監 今井 誠 C柴田健治 森川未和子、衣川成美、岩田聖加 (岐阜総合) (岐阜総合) (岐阜総合)
26	長崎	出場権なし	選抜チーム 監 今井 誠 C柴田健治 加藤千佳、国本あずさ、馬場彩加 (土岐商業) (大垣商業) (岐阜総合学園)
27	和歌山	選抜チーム 監 今井誠 C小森升裕 小越智就、山田佳那太、足立僚也 (益田清風) (大垣商業) (関商工)	出場権なし
28	岩手	選抜チーム 監 加藤隼人 C小栗寛丈 石原真輝、岡野陽太、河野貴昭 (大垣商業) (中京) (中京)	選抜チーム 監小森升裕 C今井誠 大橋加奈、竹中 凜、杉岡亜純 (大垣商業) (大垣商業) (大垣商業)
29	愛媛	選抜チーム 監 加藤隼人 C小栗寛丈 早川航永、平尾 拳、森 寛樹 (中京) (東濃実業) (大垣商業)	出場権なし
30	福井	選抜チーム 監 加藤隼人 C小栗寛丈 平松 龍太、草野 孝寛、長島 凪 (大垣商業) (中京) (中京)	選抜チーム 監小森升裕 C今井誠 本庄 結香、小池フェルンダ ^ダ 幸子、西脇菜々子 (岐阜総合) (大垣商業) (大垣商業)
令和 3	三重	選抜チーム 監 小森升裕 C今井誠 柴田幸次郎、都竹護人、岡野晴矢 (中京) (大垣商業) (中京) <出場権を得るも本大会中止>	出場権なし
4	栃木	選抜チーム 監 小森升裕 C今井誠 小竹航平、柴田幸次郎、岡野晴矢 (大垣北) (中京) (中京)	選抜チーム 監 加藤隼人 C小栗寛丈 田中咲妃、磯貝優羽、林 羽流 (中京) (中京) (岐阜総合学園)
5	鹿児島	出場権なし	選抜チーム 監 小森升裕 C今井誠 吉田凜音、小椋美月、三摩千賀 (大垣商業) (大垣商業) (大垣商業)

5 県大会優勝校

(令和3年度県総体まで、昭和35年度は記録不明のため除く) 総体は30年度まで修正済み
平成5年度より県総体と全国総体予選を兼ねる

県高校総体(近的)				新人大会			
回	男子	回	女子	回	男子	回	女子
		15	大垣商			18	大垣商
14		14				17	
13		13		16	大垣商		
				15			
11	中京	11		11	中京	11	
10	大垣工、 (岐阜西工)	10		10		10	武義
9		9	(岐阜一女)	9		9	
8		8		8		8	
7		7	岐阜総合	7		7	
6	武義、多治見工	6	土岐商	6		6	
5	関商工	5		5	武義	5	土岐商
4		4	武義 中京	4	土岐商(岐阜西工)	4	加茂 大垣北
3	大垣商、多治見西	3	関商工 (多治見女)	3	大垣工	3	多治見西 岐阜総合 (多治見女)
2	東濃実業 益田清風	2	済美、東濃実業	2	恵那、多治見工 加茂、関商工 麗澤瑞浪	2	東濃実業、益田清風 中京
1	多治見、大垣北 麗澤瑞浪、岐阜総合 岐南工、土岐商 岐阜各務野	1	恵那、不破、東濃 中津、多治見西 飛騨高山 (岩村)(明智商)	1	不破、中津川工業 岐阜工、大垣北 斐太、多治見西 岐南工業 (岩村)(明智商)	1	不破、 瑞浪、済美、中津 岐阜各務野 (益田)(養老女商) (明智商)(岐阜一女)

() は、統廃合により学校名が変わったところ。なお、校名変更のみの場合は新校名で記載。

6 岐阜県高体連弓道専門部のあゆみ 県大会優勝校・東海地区大会入賞校など

年度		昭和32	昭和33	昭和34	昭和35	昭和36
学校数		7	?	?	6	?
男女		?	?	?	4,6	?
部員数		?	?	?	137	?
男女		?	?	?	62,75	?
春季大会	男	恵那	高山	多治見工	?	多治見工
	女	武義	武義	武義	?	多治見女
IH予選	男団1	恵那	多治見工	多治見工	多治見工	武義
	2	/	/	/	/	多治見工
	女団1	武義	武義	武義	武義	多治見女
	2	/	/	/	/	武義
東海高校総体	男			2多高3多工	?	
	女		2武義	1武義	?	
県総体	男	多治見	多治見工	多治見工	?	武義
	女	武義	武義	武義	?	多治見女
国体東海予選	男					4位(武義)
	女					3位
新人大会	男	恵那	多治見工	恵那	?	武義
	女	武義	武義	武義	?	武義
全国大会等					I H男団体 多治見工 ベスト8	I H女団体 3位 多治見女
備考		<p>S32年度に県高体連弓道専門部が発足。 当初加盟校は、斐太・高山・恵那・多治見工・多治見・武義・済美女子。 S32年度から全国高校総体 {IH(インターハイ)、S32年度が第2回大会} に出場。 S35年度の弓道専門部加盟校は、高山・恵那・多治見工・多治見女・武義・済美女子。 IHは、S32～44年度は団体戦のみ。 IHは、S32～35年度は各県1校、36～44年度は各県2校が出場。</p>				

年度		昭和37	昭和38	昭和39	昭和40	昭和41	
学校数		?	?	?	?	?	
男女		?	?	?	?	?	
部員数		?	?	?	?	?	
男女		?	?	?	?	?	
春季大会	男	武義	多治見工	多治見北	岐阜西工	武義	
	女	武義	武義	多治見女	不破	大垣商	
IH予選	男団	1	恵那	武義	不破	岐阜西工	大垣商
		2	多治見北	不破	岐阜西工	不破	岐阜西工
	女団	1	多治見女	多治見女	不破	岐阜一女	岐阜一女
		2	武義	大垣商	大垣商	武義	大垣商
東海高校総体	男					3 岐西工	
	女	1 多女	1 多女	2 多女	1 一女 3 多女		
県総体	男	近	多治見工	武義	多治見工	岐阜西工	岐阜西工
		遠	/	/	/	/	東濃実業
	女	近	武義	多治見女	多治見女	岐阜一女	岐阜一女
		遠	/	/	/	/	岐阜一女
国体東海予選	男	3 (武義)	2 (武義)	?	/	4 (西工)	
	女	3 (多女)	1 (多女)	?	/	2 (一女)	
新人大会	男	武義	岐阜西工	多治見工	不破	大垣商	
	女	多治見女	多治見女	武義	多治見女	武義	
全国大会等			国体 (山口) 女 近7位 遠9位		岐阜国体 男 近2位 女 近7位 遠7位 総8位		
備考	<p>県高校総体は、S41年度から遠的競技も実施。</p> <p>春季大会は4月に、IH予選は6月に、東海高校総体は6月に、県高校総体は8月に、国体東海予選は8月に、新人大会は11月に開催。</p>						

年度		昭和42	昭和43	昭和44	昭和45	昭和46	
学校数		?	?	?	?	?	
男女		?	?	?	?	?	
部員数		?	306	?	?	?	
男女		?	154、152	?	?	?	
春季大会	男	大垣商	不破	不破	岐阜西工	麗澤瑞浪	
	女	東濃実業	岐阜一女	大垣商	大垣商	岐阜一女	
IH予選	男団	1	大垣商	武義	武義	岐阜西工	大垣商
		2	岐阜西工	大垣商	大垣商	/	/
	個	1	/	/	/	寺町明道・岐阜工	林佳志文・議
		2	/	/	/	棚橋庄二・岐阜工	瀬古信康・大垣商
	女団	1	東濃実業	土岐商	岐阜一女	大垣商	大垣商
		2	岐阜一女	不破	不破	/	/
	個	1	/	/	/	河島節子・大垣商	藤田里見・岐阜女
		2	/	/	/	三輪かほる・養教商	花木照美・大垣商
東海高校総体	男	1大商3東実	3大商	1大商3不破	?		
	女		2東実3不破	3岐阜一女	?	1大垣商	
県高校総体	男近	東濃実業	岐阜西工	武義	大垣商	岐阜西工	
		不破	岐阜西工	大垣北	大垣北	麗澤瑞浪	
	(総)不破		/	/	/	/	
	女近	岐阜一女	大垣商	岐阜一女	岐阜一女	岐阜一女	
		多治見女	多治見女	養老女商	大垣商	大垣商	
(総)岐阜一女		/	/	/	/		
国体東海予選	男	3(東実)	1位	3位	?	1位	
	女	3(東実)	3位	1位	?	?	
新人大会	男	大垣商	武義	武義	大垣商	岐阜西工	
	女	武義	武義	大垣商	大垣商	岐阜一女	
全国大会等			男国体出場 (福井)	女国体出場 (長崎) 近8位 遠3位 総4位		IH女個人 4位 花木照美 (大商) 男国体出場 (和歌山)	
備考	国体選手はS42年度までは学校単位のチーム、43年度からは全県から優秀選手を選抜して編成。 IHは、S45年度より各県男女団体1チームと個人2名が出場。						

年度		昭和47	昭和48	昭和49	昭和50	昭和51
学校数		?	?	?	?	?
男女		?	?	?	?	?
部員数		?	?	?	?	?
男女		?	?	?	?	?
春季 大会	男	?	?	?	?	?
	女	?	?	?	?	?
I H 予 選	男団	不破	大垣工	大垣商	土岐商	岐阜西工
	個1	江川邦夫・岐西工	吉田隆康・大垣北	橋本勝二・大垣北	今津 茂・大垣商	若尾明伸・土岐商
	個2	河村景一・不破	細野俊明・多治見工	伊藤佳基・大垣商	五島 功・岐西工	篠田康弘・武義
	女団	武義	岐阜一女	加茂	土岐商	土岐商
	個1	西脇洋子・養老女商	井沢淑子・麗澤瑞浪	小池令子・多治見女	奥村照子・土岐商	井上さとみ・多治見女
	個2	安江範子・岐一女	前田玲子・加茂	中村治美・岐一女	高木由美子・済美女	大牧久美子・済美女
東海 高校 総体	男	?	?	?	?	?
	女	?	?	?	1加茂	?
県 高 校 総 体	男近 遠	大垣北 大垣工	I H予選と兼ねる	麗澤瑞浪 大垣工	台風のため中止	大垣工 土岐商
		/		(総)麗澤瑞浪		/
	女近 遠	岐阜一女 岐阜一女		岐阜一女 済美女子		大垣商 大垣商
	総	/		(総)済美女子		/
国体 東海 予選	男	1位	?	?	?	?
	女	1位	?	?	?	?
新人 大会	男	大垣商	大垣工	加茂	大垣工	大垣商
	女	大垣商	加茂	加茂	土岐商	養老女商
全国大会等		男女とも国体出場 (鹿児島) 女 近3位 遠5位 総8位		I H女団体 加茂 ベスト8	I H女団体 土岐商ベスト8	
備 考						

年度		昭和52	昭和53	昭和54	昭和55	昭和56	
学校数		?	?	?	30	30	
男女		?	?	?	?	23、25	
部員数		?	?	?	?	1084	
男女		?	?	?	?	547、537	
春季大会	男	?	?	?	?	岐阜西工	
	女	?	?	?	?	土岐商	
IH予選	男団	加茂	岩村	大垣工	大垣工	加茂	
	個1	伊藤浩治・菊見工	渡辺達哉・中嶺商	桂川卓男・岩村	中村清彦・畑工	保母一之・加茂	
	個2	太田天弘・畑工	広瀬 渉・畑工	森 重治・畑工	森 重治・畑工	西部好剛・武義	
	女団	土岐商	岩村	大垣商	大垣商	大垣商	
	個1	深谷裕美子・加茂	村瀬直子・大垣北	浅川恵子・岐一女	天池恵美子・加茂	堀 貴公美・土岐商	
	個2	伊藤千代子・岩村	大石貴久子・加茂	内海敏恵・麗澤瑞浪	谷川裕美・大垣商	井口誠子・明智商	
東海高校総体	男	?	?	?	3大工	?	
	女	?	?	?	3大商	?	
国体選考	男近	?	?	?	?	遠的選手権	男子
	遠	?	?	?	?		岐阜西工
	女近	?	?	?	?		女子
	遠	?	?	?	?		明智商
県高校総体	男	大垣工	大垣工	大垣工	大垣工	武義	
	女	岩村	大垣商	済美女子	恵那	大垣商	
国体東海予選	男	?	?	?	?	2位	
	女	?	?	?	?	2位	
新人大会	男	土岐商	大垣商	岩村	大垣商	加茂	
	女	土岐商	大垣商	済美女子	東濃実業	大垣商	
			冬季大会	男 女	?	?	多治見工 大垣商
全国大会等			I H女個人 4位 大石貴久子 (加茂)	I H男団体 3位 大垣工 I H男個人 4位 森 重治 (大工)	I H女個人 4位 天池恵美子 (加茂)		
弓道部 創設高校		?	?	?	岐阜工業	各務原 益田	
備考	<p>春季大会は、S56年度まで実施。</p> <p>国体東海予選は、S55年度より国体東海ブロック大会（愛称、ミニ国体）の名称となる。</p> <p>S52年度から、県高校総体は、近的競技のみとなる。</p> <p>S54年度から、冬季大会を2月に実施。</p> <p>S55年度から、IH予選と新人大会の各地区予選始まる。</p>						

年度		昭和57	昭和58	昭和59	昭和60	昭和61
学校数		?	31	?	34	36
男女		?	25、27	?	26、28	27、33
部員数		?	1206	?	1642	1555
男女		?	535、671	?	766、876	715、840
IH予選	男団	岐阜西工	大垣工	大垣商	恵那	土岐商
	個1	平野博道・大垣工	河村尚登・大垣工	大野勝利・岐阜工	松井貴博・大垣商	越田建一・大垣工
	個2	橋本佳也・大垣商	木曾寿之・駄	神山明史・武義	山岸大太郎・大垣商	安田悦司・大垣商
	女団	大垣商	不破	大垣商	東濃実業	大垣商
	個1	矢島範江・加茂	所真紀・加茂	仲野美紀・大垣商	松井千恵子・武義	田中知誉美・大垣商
	個2	木村めぐみ・土岐商	吉田さなえ・加茂	河村恵里・大垣商	堀美佳子・大垣商	古田久美子・武義
東海高校総体	男	2武義				
	女	3大商	3土商	2不破	3東実	
高校選手権	男近	加茂	明智商	土岐商	大垣工	土岐商
	遠	岩村	多治見北	大垣商	土岐商	土岐商
	総	加茂	明智商	大垣商	大垣工	土岐商
	女近	加茂	明智商	大垣商	東濃実業	大垣商
	遠	大垣商	明智商	大垣商	土岐北	東濃実業
総	大垣商	明智商	大垣商	東濃実業	大垣商	
県高校総体	男	大垣工	大垣工	武義	岐阜西工	岐阜西工
	女	不破	明智商	大垣商	済美女子	大垣商
東海ミニ国体	男	1位	3位	?	2位	1位
	女	1位	3位	?	2位	3位
新人大会	男	岐阜工	大垣工	大垣商	大垣商	大垣商
	女	大垣商	不破	大垣商	大垣商	瑞浪
選抜東海予選	男	?	1岐工	?	3土商	
	女	?	2岐一女	?	1大商	2土商
冬季大会	男	?	岩村	大垣商	多治見工	大垣工
	女	?	加茂	大垣商	益田	土岐商
全国大会等		I H男個人 2位 橋本佳也 (大商) 男女とも国体出場 (島根)				国体(山梨) 男 近5位 遠7位 総5位
弓道部創設高校		高山工業		瑞浪 吉城	船津	関商工 中津
備考	<p>S57年度から県高校弓道選手権大会(7月、近的・遠的)始まる。</p> <p>S57年度から全国高校弓道選抜大会(3月)が始まり、東海予選を実施。東海予選1位が全国選抜大会に出場(S57～61)。</p> <p>S60年度より、冬季大会の名称を新春大会と変更(H3まで実施)。</p>					

年度	昭和62		昭和63		平成1		平成2		平成3		
学校数	36		37		38		39		39		
男女	29、32		30、35		31、37		31、37		31、37		
部員数	1731		1770		2029		1944		1877		
男女	790、941		801、969		961、1068		874、1070		851、1026		
						高校 選手権	男 女		大垣商 大垣商		
IH 予選	男団	多治見工		土岐商		多治見工		関商工		土岐商	
	個1	木村秀貴・関商工		金森貴志・大垣北		新川真一・大垣		坪井正文・大垣商		太田大作・土岐商	
	個2	足立元晴・多治見工		永江雄三・多治見工		金竹猛雄・関商工		加藤正倫・土岐商		鈴木雄二・明智商	
	女団	土岐商		土岐商		大垣商		大垣商		東濃実業	
	個1	大工有喜子・土岐商		小野木恵美・破一		安田純子・大垣商		竹田香織・土岐商		岡田光代・土岐商	
個2	古川早苗・破		二村ゆかり・益		山路敬子・土岐商		富田真実・土岐商		大角由佳・大垣商		
東海 高校 総体	男	1大工		2土商3西工		3土商3大商				3西工3土商	
	女	2土商				3大北				3土商	
高校 選手権	男近	土岐商		不破		岐阜西工		中京商		岐阜西工	
	遠	大垣工		大垣商		／		土岐商		土岐商	
	総	土岐商		大垣商		／		土岐商		土岐商	
	女近	土岐商		養老女商		大垣北		土岐商		大垣商	
	遠	東濃実業		岐阜一女		／		大垣商		大垣商	
総	土岐商		土岐商		／		土岐商		大垣商		
県 高校 総体	男	大垣商		多治見工		関商工		大垣工		岐阜西工	
	女	土岐商		関商工		東濃実業		土岐商		土岐商	
東海 ミニ 国体	男	2位		2位		3位		4位		3位	
	女	2位		3位		2位		4位		2位	
新人 大会	男	中京商		大垣北		土岐商		土岐商		大垣商	
	女	大垣北		大垣北		大垣北		大垣商		益田	
選抜 東海 予選	男			3大工		1土商		2土商		4西工	
	女			3大北		2大北				2益田	
新春 大会	男	大垣工		大垣北		土岐商		大垣北		大垣工	
	女	関商工		中京商		大垣北		東濃		大垣商	
全国大会等	IH女個人 優勝 大工有喜子 (土岐商)				全国選抜 男3位 土岐商 女3位 大垣北		IH女団体 大垣商ベスト8		全国選抜 男3位岐阜西工		
部創設校			各務原東		可児		益田南				
備考	<p>県高校弓道選手権大会は、H1より県高校弓道選抜大会に名称を変更（H3まで実施）。</p> <p>H3年度より、ぎふスポーツフェスティバル県高校弓道選手権大会（4月）を実施。</p> <p>全国高校選抜大会は、S62年度は東海予選での2位までが、63年度は東海予選3位までが、H1年度は各県1位が、H2年度は東海予選3位までが、H3年度は各県1位が出場。</p>										

年度		平成4	平成5	平成6	平成7	平成8
学校数(チーム男女)		41 (33. 37)	43 (34. 42)	43 (34. 42)	44 (36. 43)	44 (34. 43)
部員数(男女)		1833 (830,1003)	1833 (759,1074)	1806 (779,1027)	1648 (704,944)	1640 (708,932)
高校 選手権	男	不破	岐阜西工	加茂	大垣商	岐阜西工
	女	不破	各務原東	東濃	加茂	武義
IH 予選	男 団	土岐商	岐阜西工	岐阜西工	中京商	大垣工
	個 1	江崎 豊・大垣商	宗宮 広・大垣工	大橋博昭・不破	長島永治・中京商	早野 剛・大垣商
	個 2	佐藤嘉洋・東濃	吉本裕之・岐阜工	小池慎護・岐阜工	上野浩司・関商工	市橋孝善・大垣北
	女 団	東濃実業	大垣商	東濃	大垣商	中京商
	個 1	小沢仁美・麗澤瑞浪	丹羽浩水・東濃実業	長津優希・瑞浪	古橋美帆・大垣商	高木純子・大垣商
	個 2	古井戸美佳・東濃実業	飯野しずえ・高山	日比葉子・養老女商	山田春奈・東濃	伊神奈緒美・東濃実業
東海 高校 総体	男	2 岐阜西工		2 岐阜西工	1 大垣商	1 岐阜西工
	女	3 東濃実業	3 明智商		1 大垣商	1 中京商
県高校 総体	男	岐阜西工	IH予選と兼ねる	同左	同左	同左
	女	土岐商				
東海 ミニ 国体	男	3位	4位	1位	2位	2位
	女	3位	3位	2位	3位	1位
新人 大会	男	岐阜西工	岐阜西工	中京商	麗澤瑞浪	斐太
	女	明智商	大垣商	大垣商	大垣商	加茂
選抜 東海 予選	男	3 岐阜西工	4 大垣工	1 岐阜西工	3 大垣商	1 斐太
	女	4 明智商	1 大垣商	1 大垣商	1 東濃実業	1 大垣商
その他の 大会			県高校弓道1年生大会 男 東濃実業 女 関商工	県高校弓道1年生大会 男 加茂 女 岐阜女商	県高校学年別弓道大会 男 1年大垣工 2年岐阜工 女 1年中京商 2年麗澤瑞浪	県高校学年別弓道大会 道場改修のため 中止
全国大会			全国選抜 女2位 大垣商	国体出場(愛知) 男 近 優勝 全国選抜 男ベスト8 中京商	全国選抜 男ベスト8 麗澤瑞浪	IH女子個人7位 高木純子(大垣商) 国体(広島)出場 男遠3位 総6位 女近2位 総4位
弓道部 創設高校		多治見西 岐阜女商	中津商 恵那北		岐南工、羽島 (休部船津)	
備考	<p>H5年度より、IH予選と県高校総体を兼ねる。</p> <p>全国選抜大会は、H4・5年度は東海予選での各県1位校が出場し、H6年度より新人大大会1位校が出場。</p> <p>全国選抜大会東海予選大会は、H6年度から東海高校弓道選抜大会と名称を変更。</p> <p>H5・6年度に県高校弓道1年生大会を実施(2月)。7年度から学年別大会に名称を変更。</p> <p>国体選手は、H3年度まで高校弓道選手権等の成績を参考に選抜し、4年度は県選考会を実施、5年度からはブロック選考会をへて、ブロック代表の対抗戦を行い、1位チームを県代表に決定。</p>					

年度	平成9	平成10	平成11	平成12	
学校数(チーム男女)	43(35、41)	43(33、42)	43(33、42)	43(33、43)	
部員数(男女)	1533(693、840)	1455(657、798)	1486(664、822)	1443(634、809)	
高校選手権	男 中津 女 大垣商	東濃 土岐商	第1日御津 第2日四日市西 第1日大阪福島女 第2日飯田女	第1日焼津中央 第2日焼津中央 第1日掛川東 第2日京都西	
県総体・IH予選	男団	岐阜総合	中京商	大垣商	1 中京商 2 大垣商
	個1	倉永貴徳・岐阜総合	鈴木康仁・中京商	松田隆志・土岐商	1 小森田貴士・中京商 2 伊藤健一・中京商
	個2	長井浩行・中京商	渡辺多聞・中京商	河村俊和・麗澤瑞浪	3 西川侑始・大垣商 4 肥田和也・中京商
	女団	大垣商	大垣商	大垣商	1 東濃実 2 中京商
	個1	内木 愛・恵那北	熊崎志保・加茂	山下尚子・斐太	1 三ツ畑千絵・斐太 2 岡本千雅子・岐阜総合 3 清野美登利・土岐商
	個2	吉村由香利・加茂	白井恵子・大垣商	高木美紀・東濃実業	4 水野聖子・土岐商
東海高校総体	男 1 岐阜総合 3 斐太 女	1 関商工 2 総合 3 中京 3 大垣商	1 中京商 1 大垣商	1 中京商 2 岐南工 3 大垣商	
東海ミニ国体	男 3位 女 1位	1位 1位	4位 4位	3位 4位	
新人大会	男団 個	中京商 加納 梓・中京商	中京商 森 竜太・中京商	中京商 水野貴祥・中京商	中京商 小松茂生・中京商
	女団 個	加茂 平島 千晴・大垣商	東濃実業 林 真示・岐阜総合	土岐商 渡辺久美・加茂	土岐商 西尾 歩・土岐商
東海選抜	男 2 斐太 女 2 大垣商 3 加茂	1 中京商 3 大垣商 3 東濃実業	2 中京商	3 大垣商	
その他の大会	県高校弓道大会 男 斐太 女 大垣商	県高校学年別弓道大会 男 1年中京商 2年関商工 女 1年武義 2年東濃実業	県高校学年別弓道大会 男 1年武義 2年岐南工 女 1年武義 2年斐太	全国高校弓道選抜大会県予選 男大垣商 女武義 安田・大垣工 安藤・武義	
全国大会	国体(大阪) 女 近的2位 総合5位 全国選抜 男優勝 中京商 女ベスト8 加茂 東濃実業	国体(神奈川) 男 近的4位 遠的6位 総合6位 女 近的6位		全国総体 男 個 2位 肥田和也・中京商	
弓道部創設など	岐一女・岐西工は統合				
備考	9年度に岐一女・岐西工は統合され、岐阜総合学園高校となる。 10年3月に第16回全国高校弓道選抜大会を主管(長良川弓道場)、このため9年度の学年別弓道大会は名称を県高校弓道大会としてリハーサル大会とした。スポーツフェア県高校弓道選手権大会は、12年度より強化練習試合形式として高校生弓道大会と名称変更。 12年8月に全国高校総体を主管(可児市弓道場)。12年度から全国選抜県予選を11月に、新人大会を2月に実施。				

年度	平成13		平成14		平成15		平成16		平成17	
学校数(チーム男女)	44(35, 42)		44(37, 40)		44(37, 40)		44(39, 41)		42(39, 42)	
部員数(男女)	1556(737, 819)		1572(732, 840)		1502(691, 811)		1493(704, 791)		1443(683, 760)	
スポーツ フェア 高校生大会	男	第1日岐阜総合 第2日中京	第1日中京 第2日土岐商	第1日御津 第2日御津	第1日星城 第2日星城	第1日中京 第2日中京				
	女	第1日大阪福島女 第2日飯田女	第1日土岐商 第2日大阪福島女子	第1日御津 第2日中京	第1日武義 第2日武義	第1日麗澤 第2日大阪福島女子				
県 総 体 ・ I H 予 選	男	団	岐南工	土岐商	中京	中京	中京			
		個1	熊田安真・岐阜総合	小島秀之・岐南工	大山慎・中京	水野慎也・中京	北野博数・中京			
	個2	山中政宏・土岐商	田中勇輝・岐阜総合	大野貴章・岐阜総合	辻倉雅士・多西	伊藤宏・岐阜工				
	女	団	土岐商	大垣商	中京	岐阜総合	土岐商業			
		個1	安藤真也子・武義	加藤有理・大垣商	大平美咲・加茂	棚橋愛・岐阜総合	北祐子・土岐商			
		個2	早川知子・中京	曾我向代・加茂	海老名真由子・多治見西	淵上裕葵・中京	小川希恵・武義			
東海 高校 総 体	男	1 岐南工	2 中京	1土岐商 2中京 3加茂	1土岐商 3中京	1 中京				
	女		3 加茂		1中京 2土岐商 3岐阜総合・大垣商	2武義・3土岐商業				
東海 ミニ 国 体	男	4 位	1 位	1 位	4 位	本大会出場				
	女	1 位	4 位	1 位	2 位	本大会出場				
全 国 選 抜 県 予 選	男	団	麗澤瑞浪	麗澤瑞浪	麗澤瑞浪	中京	明智商業			
		個	尾関佑介・土岐商	柴田祐志・中京	高木貴巳・岐阜総合	渡辺英右・麗澤瑞浪	仲内悠祐・麗澤瑞浪			
	女	団	中津商	大垣商	岐阜総合	中津	益田清風			
		個	蒲 幸恵・益田	加藤有理・大垣商	棚橋愛・岐阜総合	朝倉由理香・中京	岩本真希・岐阜各務野			
東海 選 抜	男	2麗澤瑞浪 3岐南工	2 大垣商	3 関商工	1 中京					
	女			3 岐阜総合	1 武義					
新 人 大 会	男	団	中京	中京	中京	明智商業	土岐商業			
		個	足立聡人・中京	高見亮太・土岐商	水野統之・土岐商	大橋祐介・中京	柳孝正・岐阜総合			
	女	団	土岐商	中京	岐阜総合	武義	多治見西			
個	鈴木賀央里・土岐商	田代さや香・岐阜総合	吉田典子・大垣商	神戸和恵・東濃美業	安藤美奈子・武義					
その他の 大会							第1回中日本大会実施	第2回中日本大会実施		
全国大会	全国総体 女 個 8位 早川知子・中京 国体(宮城) 女 近的2位 総合4位 皇后杯8位 全国選抜 個人8位 蒲・益田 男ベスト8 麗澤瑞浪	全国総体 男 団 8位 土岐商 全国選抜 女 個 5位 加藤・大垣商	国体(静岡) 女 近的 8位 遠的 5位 総合 6位 皇后杯 7位 全国選抜 男 個 6位 高木・岐阜総合 女 個 1位 棚橋・岐阜総合	全国選抜 男 個 3位 技能優秀 渡辺・麗澤瑞浪	国体 女子 遠的 4位					
弓道部 創設など	中津川工業				土岐北高校は昼間定 時制に移行					
備 考	校名変更 中京商業→中京高校、済美女子→済美。 17年度、益田・益田南は統合され、益田清風高校となる。大垣農業・養老女子は統合され、大垣養 老高校となる。各務原東・岐阜女子商業は統合され、岐阜各務野高校となる									

年度	平成18		平成19		平成20		平成21		平成22	
学校数(チーム男女)	42(38, 40)		41(35, 39)		39(35, 39)		39(36, 38)		40(33, 34)	
部員数(男女)	1437(767, 670)		1359(685, 674)		1339(703, 636)		1335(717, 618)		1376(735, 641)	
スポーツ フェア 高校生大会	男	第1日松阪工業 第2日豊橋商業	第1日掛川工業 第2日焼津中央	第1日豊橋商業 第2日掛川工業	第1日福原 第2日焼津中央	第1日松阪工業 第2日豊明				
	女	第1日一宮女子 第2日掛川東	第1日豊橋商業 第2日豊橋商業	第1日豊橋商業 第2日豊橋商業	第1日豊橋商業 第2日岐阜総合	第1日中京 第2日中京				
県 総 体 ・ I H 予 選	男	団	武義	東濃実業	多治見工業	関商工	岐阜各務野			
		個1	大門拓未・高山工	後藤元輝・武義	松浦知樹・恵那	山形拓雅・多治見工	坂井悠亮・武義			
	個2	山田光俊・岐阜総合	新川貴弘・中津	高橋祐樹・関商工	松井大樹・恵那南	藤井魁斗・中京				
	女	団	多治見西	中津商業	岐阜総合学園	岐阜総合学園	岐阜総合学園			
		個1	伊藤春菜・中津	正村香織・土岐商業	堀部ともみ・岐阜総合	小野木希望・岐阜総合	佐藤允映・土岐商業			
		個2	瀬上涼佑子・中京	黒川瞳・中京	森彩乃・益田清風	榊原嘉菜・岐阜各務野	酒井琴美・多治見西			
東海 高校 総体	男		3：麗澤瑞浪	2：多治見工業		1：中京				
	女		3：中津商業	1：岐阜総合学園	1：岐阜総合学園	1：岐阜総合学園				
東海 ミニ 国体	男									
	女			2：岐阜総合学園	1：岐阜選抜	2：岐阜選抜				
全 国 選 抜 県 予 選	男	団	中京	武義	武義	多治見工業	多治見西			
		個	岩井大知・東濃実業	小栗良太・武義	伊藤真一・中津川工 中村優介・不破	大島成良・中京 藤居幹大・麗澤瑞浪	翠尾典・古城 江崎祐志・武義			
	女	団	中津商業	岐阜総合学園	多治見西	益田清風	多治見西			
		個	勝股瑛乃・土岐商業	長屋恵・岐阜総合	安藤絢美・岐阜総合 伊藤千依乃・多治見西	中島百恵・益田清風 松田璃奈子・岐阜各務野	石神かおり・岐阜総合 早川美由紀・麗澤瑞浪			
東海 選抜	男		3：岐阜総合学園							
	女			優勝：岐阜総合学園	3：益田清風					
新 人 大 会	男	団	中津川工業	関商工	関商工	武義	中京			
		個	加藤了介・中京	馬淵貴規・可児	伊藤真一・中津川工	近江翼・関商工	和田健也・関商工			
女	団	益田清風	武義	多治見西	益田清風	岐阜総合学園				
	個	千村友夏・中津商業	加藤愛美・益田清風	安藤絢美・岐阜総合	加藤美咲・中京	小林加奈子・益田清風				
その他の 大会	第3回中日本大会実施		第4回中日本大会実施		第5回中日本大会実施		第6回中日本大会実施		第7回中日本大会実施	
全国大会	全国総体 女個8位 瀬上・中京				全国総体 女子団体 3位 技能優秀校 本年度より 全国選抜大会個人2名		国体 女 近的 優勝 皇后杯8位 全国総体 女子団体7位 男子個人8位		全国総体 女子団体 優勝 男子個人 5位	
弓道部 創設など									東濃フロンティア 羽島北(個人)	
備 考	19年度、明智商業・岩村は統合され、恵那南高校となる。恵那北・中津は統合され、中津高校となる。									

年度		平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	
学校数(チーム男女)		41(34, 36)	41(35, 35)	41(35, 36)	41(35, 37)		
部員数(男女)		1287(675, 612)	1372(663, 709)	1274(626, 648)	1326(663, 663)		
スポーツ フェア 高校生大会	男	第1日松阪工業 第2日刈谷工業	第1日中京 第2日松阪工業	第1日刈谷工業 第2日刈谷工業	第1日松阪工業 第2日松阪工業	第1日豊橋商業 第2日松阪工業	
	女	第1日岐阜総合 第2日好文学園	第1日掛川東 第2日松阪工業	第1日岐阜総合 第2日豊橋商業	第1日好文学園 第2日豊橋商業	第1日関商工 第2日好文学園	
県 総 体 ・ I H 予 選	男	団	多治見西	麗澤瑞浪	多治見西	益田清風	益田清風
		個1	藤井魁人・中京	田中謙吾・東濃実業	横井溪太・各務原	大竹爽太・多治見	石原真輝・関商工
		個2	石原唯貴・岐南工業	可児真輔・武義	脇田政宏・麗澤瑞浪	池上幸次朗・益田清風	小越智就・益田清風
	女	団	岐阜総合	岐阜総合	岐阜総合	中京	関商工
		個1	毛利江美子・大垣養老	柳瀬希・中京	岩田聖加・岐阜総合	平光由奈・岐阜総合	青木愛維・益田清風
		個2	汲田麻衣・岐阜総合	河村梓・中京	山本茉友・土岐商業	橋本佳奈・各務原	堀 由乃・多治見
東海 高校 総体	男	1：関商工	3：麗澤瑞浪	3：多治見西		1：益田清風 3：岐南工業	
	女			2：岐阜総合 3：中 京	3：関商工	2：大垣商業	
東海 ミニ 国体	男		(主催県)	1：岐阜選抜		1：岐阜選抜	
	女	2：岐阜選抜	(主催県)	1：岐阜選抜	2：岐阜選抜		
全 国 選 抜 県 予 選	男	団	1：関商工 2：中京	土岐商	大垣商業	岐南工業	関商工
		個	古田将也・土岐商業難 波和希・関商工 新田啓悟・岐南工 田口颯一・関商工	脇田政宏・麗澤瑞浪 水谷郁哉・土岐商業	三島汰市・高山工業 脇田政宏・麗澤瑞浪	村松利規・各務原 武山大貴・岐阜工業	石原真輝・関商工 藤井健太・岐南工業
	女	団	1：大垣北 2：土岐商業	武義	岐阜総合	中京	中津商業
		個	安藤千尋・関商工 三好美沙・恵那農業 澤田汐織・岐阜総合 中村有里・多治見西	中嶋ちはる・中京 森川未和子・岐阜総合	馬場彩加・岐阜総合 久保田祐加・中京	小寺真由香・大垣養老 佐藤璃菜・大垣商業	杉岡亜純・大垣商業 北野実佳・麗澤瑞浪
東海 選 抜	男	2：麗澤瑞浪 3：岐南工業	3：多治見西		1：岐南工業	1：関商工 3：大垣商業	
	女	2：大垣北	2：岐阜総合 3：中 京		2：関商工 3：岐阜総合		
新 人 大 会	男	団	麗澤瑞浪	多治見西	大垣商業	岐南工業	大垣商業
		個	間宮・武義	脇田政宏・麗澤瑞浪	金原央弥・恵那農業	桂川将輝・益田清風	浅井宏斗・多治見
	女	団	多治見西	岐阜総合	大垣商業	中京	大垣商業
		個	中島・大垣北	各務美香・中京	加藤千佳・土岐商	山田恵里花・岐阜総合	河原未佳・大垣北
その他の 大会		第8回中日本大会実施	第9回中日本大会実施	第10回中日本大会実施	第11回中日本大会実施	第12回中日本大会実施	
全国大会		国体 女 近的 優勝 遠的 2位		全国総体 女 第3位 技能優秀賞 国体 男 遠的第5位 女 遠的第5位	国体 女 近的第7位	全国総体 男 4位	
弓道部 創設など		ウイツ青山学園	城南高校				

年度		平成28	平成29	平成30	令和1	令和2	
学校数(チーム男女)		41(34, 36)	41(38, 33)	41(36, 35)	43(36, 34)	43(35, 34)	
部員数(男女)		1287(675, 612)	1288(678, 610)	1211(612, 599)	1281(636, 645)	1245(586, 659)	
スポーツ フェア 高校生大会	男	第1日豊橋商業 第2日関商工	第1日中津川工業 第2日伊勢学園	第1日豊橋商業 第2日浪速	第1日大垣商業 第2日大垣商業	中止	
	女	第1日豊橋商業 第2日豊橋商業	第1日好文学園 第2日飯田女子	第1日豊橋商業 第2日豊橋商業	第1日島田商業 第2日中京院中京		
県 総 体 ・ I H 予 選	男	団	関商工	関商工	中京院中京	多治見西	中 京
		個1	森 寛樹・大垣商業	岩田光平・大垣工業	安藤佑真・中津川工業	長江耕太・中津川工業	中止
		個2	浅野大輝・岐南工業	松井英司・関商工	中林聖也・中京院中京	古澤奨也・大垣商業	
	女	団	大垣商業	大垣商業	飛弾高山	関商工	大垣商業
		個1	大橋加奈・大垣商業	三浦菜月・中京	北川真愛・済美	吉田優香・大垣商業	中止
		個2	井上夕貴乃・関商工	本庄結香・岐阜総合学園	船坂咲恵花・益田清風	伊藤光来・土岐商業	
東海 高校 総体	男		2：大垣商業 3：中京	1：中京院中京	1：岐阜総合学園 2：大垣商業	中止	
	女	3：大垣商業			1：大垣商業		
東海 ミニ 国体	男	2：岐阜選抜	2：岐阜選抜	1：岐阜選抜	3：岐阜選抜	中止	
	女	2：岐阜選抜	3：岐阜選抜	1：岐阜選抜	3：岐阜選抜		
全 国 選 抜 県 予 選	男	団	1：大垣商業	1：中京	1：大垣商業	1：岐阜総合学園	1：中 京 2：大垣商業
		個	原太志朗・中津川工業 平尾 拳・東濃実業	草野孝寛・中京 平松龍太・大垣商業	近藤大雅・関商工 棚瀬尚也・大垣商業	尾崎晨之介・岐阜総合学園 伊丹晴登・大垣商業	(河中優也・岐南工業)
	女	団	1：大垣商業	1：大垣商業	1：大垣商業	1：大垣商業 2：岐阜総合学園	1：中 京 2：岐阜総合学園
		個	吉村有美子・多治見 岩田麻誉・多治見北	桐本玲華・中津商業 水川萌香・多治見西	伊佐治穂乃花・中京院中京 北川真愛・済美	加藤風歌・大垣商業 吉田優香・大垣商業	(岡部花音・岐阜総合)
東海 選抜	男		3：中京	2：大垣商業	1：大垣商業 3：岐阜総合学園	2：岐南工業 3：多治見工業	
	女		1：多治見西 3：益田清風	1：大垣商業 3：中京院中京			
新 人 大 会	男	団 個	中京 間宮・武義	中京 平松・大垣商業	大垣商業 東田丈一郎・豊太	大垣商業 伊丹晴登・大垣商業	中京 中止
	女	団 個	中津 中島・大垣北	大垣商業 桂川・益田清風	大垣商業 日下すず・多治見	大垣商業 遠藤愛実・多治見西	岐阜総合学園 中止
その他の 大会		第13回中日本大会実施	第14回中日本大会実施	第15回中日本大会実施	第16回中日本大会中止	第17回中日本大会中止	
全国大会		国体 男 近的 優勝 遠的 2位 女 遠的 8位	国体 男 近的 準優勝 遠的 8位	全国選抜 大垣商業 女子団体 準優勝 技能優秀校 国体 男 近的 優勝	全国選抜 岐阜総合学園 男子団体 第5位	全国選抜 大垣商業 男子団体 優勝 技能優秀校	
弓道部 創設など						新型コロナウイルス対応 ・県総体を中止し 代替え大会実施 ・選抜個人中止し 県個人選手権実施	

年度		令和3	令和4	令和5	
学校数(チーム男女)		43(37, 35)	43(37, 37)	42(40, 37)	
部員数(男女)		1259(584, 672)	1199(548, 651)	1186(575, 611)	
スポーツ フェア 高校生大会	男	中京	中京	中京	
	女	中京	中京	大垣商業	
県 総 体 ・ I H 予 選	男	団	中京	中京	
		個1	柴田幸次郎・中京	小竹航平・大垣北	大西悠斗・中京
		個2	沢柳光・中京	赤堀史弥・岐阜総合学園	森光陽大・各務原
	女	団	中京	岐阜総合学園	大垣商業
		個1	水上楓梨・各務原	吉田凜音・大垣商業	湯浅優奈・大垣商業
		個2	川合真由・大垣商業	井澤 空・中京	長尾咲良・岐阜各務野
東海 高校 総体	男		3：中 京	3：岐阜総合学園	
	女	2：大垣商業 3：中 京	3：岐阜総合学園	3：大垣商業	
東海 ミニ 国体	男	1：岐阜選抜	1：岐阜選抜	3：岐阜選抜	
	女	2：岐阜選抜	2：岐阜選抜	2：岐阜選抜	
全国 選 抜 県 予 選	男	団	中京	大垣商業	
		個	富田壮亮・中京 水原大輝・大垣商業	小竹航平・大垣北 竹内元光・中京	大西悠斗・中京 栗田悠斗・中京
	女	団	中京	大垣商業	岐阜各務野
		個	磯貝優羽・中京 林羽流・岐阜総合	渡邊桃礼・大垣商業 三摩千賀・大垣商業	山本優月・中京 東條はな・多治見北
東海 選 抜	男		3：大垣商業	1：大垣商業 2：岐阜総合学園	
	女	1：中 京 2：大垣商業	3：大垣商業	1：岐阜各務野 3：岐阜総合学園	
新 人 大 会	男	団	中京	大垣商業	
		個	中止	金田・中京	大西・中京
	女	団	中京	大垣商業	岐阜各務野
		個	中京	吉田・大垣商業	多田・岐阜各務野
その他の 大会		第18回中日本大会中止			
全国大会		全国総体 男子個人 優勝 全国選抜 女子個人 2位	全国総体 男子個人 6位 女子個人 3位 全国選抜 大垣商業 女子団体 ベスト4 技能優秀 男子個人 3位 国体 男 近的 3位 女 近的 8位 遠的 6位	全国総体 中京 男子団体 ベスト4 大垣商業 女子団体 ベスト8 全校選抜 岐阜各務野 女子団体 優勝 男子個人 3位 6位	
弓道部 創設など					

岐阜県高等学校体育連盟 弓道専門部 加盟校一覧

令和6年3月現在

地区	番号	学校名	郵便番号	所在地	TEL	FAX	備考
岐阜	1	岐阜総合学園	500-8289	岐阜市須賀2-7-25	058-271-5548	058-274-2350	
	2	岐南工業	500-8389	岐阜市本荘3456-19	058-271-3151	058-271-3127	
	3	各務原	504-8585	各務原市蘇原新生町2-63	058-383-1015	058-383-7669	
	4	岐阜各務野	509-0141	各務原市鶴沼各務原町8-7-2	058-370-4001	058 370-7066	
	5	羽島	501-6241	羽島市竹鼻町梅ヶ枝町200-2	058-392-2500	058-391-7863	
	6	済美	500-8741	岐阜市正法寺町33	058-271-0345	058-275-0280	
	7	城南	500-8238	岐阜市細畑1-10-14	058-240-3335	058-240-4455	○
	8	羽島北	501-6112	岐阜市柳津町北塚3-110	058-388-3611	058-388-4939	
	9	岐阜北	502-0931	岐阜市則武清水1841-11	058-231-6628	058-231-7815	
西濃	10	大垣北	503-0017	大垣市中川町4-110-1	0584-81-2244	0584-74-8165	●
	11	大垣商業	503-0002	大垣市開発町4-300	0584-81-4483	0584-74-9440	
	12	大垣工業	503-8521	大垣市南若森町301-1	0584-81-1280	0584-74-9324	
	13	不破	503-2124	不破郡垂井町宮代1919-1	0584-22-1002	0584-23-1568	○
	14	大垣養老	503-1305	養老郡養老町祖父江向野1418-4	0584-32-3161	0584-32-2915	
中濃	15	武義	501-3729	美濃市泉町2-3	0575-33-1133	0575-35-2321	
	16	関商工	501-3938	関市桐ヶ丘1-1	0575-22-4221	0575-22-4229	
	17	加茂	505-0027	美濃加茂市本郷町2-6-78	0574-25-2133	0574-28-2659	
	18	東濃	505-0116	可児郡御嵩町御嵩2854-1	0574-67-2136	0574-67-6204	
	19	東濃実業	505-0125	可児郡御嵩町伏見西町891	0574-67-0504	0574-67-6412	○
	20	可児	509-0241	可児市坂戸987-2	0574-62-1000	0574-63-6759	
東濃西	21	多治見	507-0804	多治見市坂上町9-141	0572-22-4155	0572-25-1704	
	22	多治見北	507-0022	多治見市上山町2-49	0572-22-3361	0572-22-3362	
	23	多治見工業	507-8605	多治見市陶元町207	0572-22-2351	0572-22-1593	
	24	瑞浪	509-6196	瑞浪市土岐町7942	0572-68-4161	0572-67-1988	
	25	土岐紅陵	509-5202	土岐市下石町1795-12	0572-57-7131	0572-57-7133	
	26	土岐商業	509-5122	土岐市土岐津町土岐口1259-1	0572-54-1291	0572-55-6904	
	27	東濃フロンティア	509-5101	土岐市泉町河合1127-8	0572-55-4151	0572-55-4152	
	28	多治見西	507-0072	多治見市明和町1	0572-27-2547	0572-27-9910	
	29	麗澤瑞浪	509-6102	瑞浪市稲津町萩原1661	0572-66-3111	0572-66-3100	
	30	中京	509-6101	瑞浪市土岐町7074-1	0572-68-4501	0572-68-4635	○
東濃東	31	恵那	509-7201	恵那市大井町1023-1	0573-26-1311	0573-26-1313	
	32	恵那農業	509-7201	恵那市大井町2625-17	0573-26-1251	0573-26-1252	
	33	恵那南	509-7793	恵那市明智町大庭41-2	0573-54-2537	0573-54-2537	
	34	中津	508-0001	中津川市中津川1088-2	0573-66-1361	0573-66-1362	
	35	中津商業	508-0011	中津川市駒場大岩1646	0573-66-1358	0573-66-1359	○
	36	中津川工業	509-9131	中津川市千旦林1521-3	0573-68-2115	0573-68-2116	
	37	坂下	509-9232	中津川市坂下町坂下624-1	0573-75-2163	0573-75-4011	
飛騨	38	益田清風	509-2593	下呂市萩原町萩原326-1	0576-52-1021	0576-52-1369	◎○
	39	斐太	506-0807	高山市三福寺町736	0577-32-0075	0577-32-9006	
	40	飛騨高山	506-0052	高山市下岡本町2000-30	0577-32-5320	0577-32-5321	
	41	高山工業	506-0032	高山市千島町291	0577-32-0418	0577-32-9004	
	42	吉城	509-4212	飛騨市古川町上気多町1987-2	0577-73-4555	0577-73-6475	

注1:加盟校の学校番号は、高体連弓道専門部独自の番号である。

注2:備考欄の印 ●専門部長在勤校、◎専門委員長在勤校、○地区委員長在勤校

岐阜県下の主な弓道場

平成25年3月末現在 高体連弓道専門部調べ

- ◎ 岐阜県下には誰でも利用できる弓道場がたくさんあります。地域の弓道場で練習するのも、よい練習に成るでしょう。地域の弓道場に出かけるときは、必ず顧問の先生の許可をもらって下さい。
- ◎ 卒業後も弓道を続けたい人は、岐阜県弓道連盟に登録して地域の弓道場で指導を受けながら練習をして下さい。県弓連の各支部については、顧問の先生に尋ねて下さい。または、県弓道連盟事務局（TEL0573-54-2277 太田 明伯 方）に問い合わせして下さい。

岐阜県弓道連盟ホームページ <http://www.gifu-kyudo.com/index.html>

地区	主な弓道場			
	名称	〒番号	所在地	電話番号
岐阜	長良川弓道場	502-0817	岐阜市長良福光大野2675-28 岐阜メモリアルセンター内	058-233-8822
	岐阜市総合体育館	500-8146	岐阜市九重町4-24 岐阜市総合体育館内	058-245-0351
	羽島市弓道場	509-6244	羽島市竹鼻町丸の内6-160	
	各務原市弓道場	509-0196	各務原市鶉沼三ツ池町5-22	0583-84-8541
	瑞穂市弓道場	501-0200	瑞穂市生津天王町2-106 南流公園内	
西濃	大垣市営弓道場	503-0847	大垣市米野町2-1 大垣市武道館内	0584-88-2550
	南宮大社弓道場	503-2124	不破郡垂井町宮代 南宮大社内	
中濃	美濃市弓道場	501-3714	美濃市曾代 美濃市総合運動場内	0575-33-2009
	関市弓道場	501-3805	関市本郷町	0575-24-6851
	美濃加茂市弓道場	505-0041	美濃加茂市太田町1916-1 プラザちゅうたい	0574-26-3241
	可児市弓道場	509-0242	可児市谷迫間138-2	0574-63-6118
	各務弓道場	505-0301	加茂郡八百津町八百津2179	0574-43-4458
東濃西	市営旭ヶ丘弓道場	507-0071	多治見市旭ヶ丘10 旭ヶ丘運動公園内	0572-27-6784
	瑞浪市民弓道場	509-6133	瑞浪市明世町戸狩198番地	0572-68-0747
	土岐市弓道場	509-5202	土岐市下石町 土岐市民センター西	0572-57-5017
	久尻神社弦武館	509-5142	土岐市泉町久尻 久尻神社内	0572-54-8460
東濃東	恵那市弓道場	509-7204	恵那市長島町まきがね公園内	0573-25-6478
	岩村町弓道場	509-7403	恵那市岩村領下 武並神社内	
	山岡町弓道場	509-7605	恵那市山岡町久保原89-1	
	明智町弓道場	509-7731	恵那市明智町138-1	
	串原村弓道場	509-7826	恵那市串原木根	
	上矢作町弓道場	509-7511	恵那市上矢作漆原44-2	
	中津川市弓道場	508-0011	中津川市手賀野169-1	
	坂下町弓道場	509-9232	中津川市坂下1512-1 坂下町体育館内	
	川上弓道場	509-9201	中津川市川上1433-2	0573-74-2371
	加子母弓道場	508-0411	中津川市加子母3885-1	0573-79-3091
	付知町弓道場	508-0351	中津川市付知町5687-4	0573-82-4478
	福岡弓道場	508-0203	中津川市福岡	
	蛭川弓道場	509-8300	中津川市蛭川支所内	0573-45-2211
飛騨	高山市弓道場	506-0059	高山市下林町1306 飛騨高山ビッグアリーナ	0577-34-3333
	萩原町弓道場	509-2506	益田郡萩原町羽根 朝霧スポーツ公園内	